#### 主が備えたもう

中島信義 説教集



はじめに

スキリストが扉の外で待っておられる」、「キリストがその人を食卓に招いて、生きる命の泉へと導 「礼拝は人の心を砕いて神の前に立たせる場である」、「閉じた心の扉を自分で開けるまで、イエ

かれる」

恵みが与えられた。それに応えるよう、我々の信仰の歴史を残したい。伝えたい。喜びを、 りだが、一度の休みもなく礼拝が守られた。否、毎週主が備えられたものに感謝するよう、 しに生きた。礼拝を中心とする活動を行い、 このような中島信義牧師のメッセージの下に、丸岡教会は二〇〇一年から二〇一〇年を信仰 礼拝がまさに一週間の喜びの時だった。小人数の集ま 上から の証

(表紙は、米国の某教会のステンドグラスからヒントを得たコンピュータグラフィックス)

人と共有したい。この願いに支えられて、また中島牧師の退職を記念して、ここに丸岡教会は説教

の要約を刊行する。

#### 目次

二 ( 一 ( 年	- ) - )		二〇〇九年			二〇〇八年		二〇〇七年	二〇〇六年
聖霊降臨日	夏	聖霊降臨日	復活祭聖日	降誕日	聖霊降臨日	復活祭聖日	降誕日	復活祭聖日	降誕日
「教会の誕生」・・・・・・・・・ 167		「聖霊の降臨」・・・・・・・・・ 116	「シモン、私を愛するか」・・・・・ 109	「思い巡らす」・・・・・・・・・・ 93	「聖霊降臨と教会の誕生」・・・・・・ 64	「エマオ途上の主イエス」・・・・・・ 58	「神に栄光、地には平和」・・・・・・ 47	「主のよみがえり」・・・・・・・ 18	「ヨセフの信仰」 ・・・・・・・ 4

#### 聞 いて悟れ マルコ 7: 14 ı 23 (待降節第一聖日)

人の中から出て来るものが、人を汚すのである。」聞く耳のある者は聞きなさい。 「…わたしの言うことを聞いて悟りなさい。外から人の体に入るもので人を汚すことができるものは何もなく、

され、口に入る食物は食あたりなどをはじめとして低く評価されている。イエスは一般的教訓を逆に用 命記に表されている。安息日に関する禁忌では戦時中にも安息日には民は休むので、ユダヤは周辺諸国から 時代から祭りのときに、父が子に教えと歴史を語り伝えた。教えには禁忌があり、その集大成がレビ記 不思議な民族と見られていた。禁忌は語りや食事によく現われる。一般に口から出る言葉はより美 日 本の宗教の伝統は 「流す」「忘れる」であるが、ユダヤの伝統は「覚える」であった。 そこでモーセ しく評価

かせることに満足する私たちは罪である。語るべき神が私に置き換わっている。人が誠実であろうとすれば 主が私に語る言葉に答えることにより、 私たちは良しとされ、 清められる。答えるべきところを、

沈黙せざるを得ないのに。

出る言葉が悪いとした。

# 沈黙 ― ルカ1:5-25 (待降節第二聖日)

「…あなたは口が利けなくなり、この事の起こる日まで話すことができなくなる。時が来れば実現するわたし

の言葉を信じなかったからである。」

中心 イエスが語った事実―信仰の事実―を語っている。 マタイ福音書はユダヤ人に対して書かれ、贖罪の解釈や教理を述べている。そこでクリスマス物語では男 の社会を反映して、マリアよりヨセフが中心である。 ルカ福音書は異邦人のために書かれ、

れをあざ笑った。 を与える。混乱した中で人は言葉を失い、途方にくれる。ザカリアは神からの罰として言葉を失ったのでは ザカリアの物語はアブラハムとサラの物語と酷似している。 神は事実を持って計画を実行した。 人は出来事の根拠や理由を問うが、 神は人の思いを超えて計画を示す。サラはそ 神は事実その

である。神の言葉の前に沈黙すること、真理の前に沈黙せざるを得ない事実を受け入れることこそ、信仰の 言葉がある内は、 根拠を問うことによって神からの事実を受け入れない。このザカリアの生き方こそ福音 なく、突然現れた神の計画の前に言葉を失った。

あり方である

## お言葉どおり、この身に ルカ1:26 - 38 (待降節第三聖日)

マリアは言った。「わたしは主のはしためです。お言葉どおり、この身に成りますように。」

由は何もなかった。そこに天使が現れた。 は取り上げるところが一つもない最も平凡な女であった。 た。ザカリアとエリサベツはアロン家出身のエリートで、 カは、男中心であるユダヤの律法社会の中で、社会構造に独立に救い主が生まれたことを主張 良い行いや信仰深い報酬として、神に選ばれる理 信仰深く正しい行いをする人であったが、マリア したかっ

たが子を宿すことは不可能ではない。マリアの受胎は人には不可能であった。将来、 天使は、私達には不可能であるが神には可能であることを示すときに現れる。エリサベツは年をとってい 社会からの非難も待っ

方である。マリアの応答は、神の意志がそのまま現れますようにと、イエスがゲッセマネで祈ったことと呼 しかし、「お言葉どおりこの身に」と、起こった事すべてを受け入れ、事実にゆだねた。これが信仰

応している。

ていよう。

### ヨセフの信仰 マタイ 1: 18 - 25 (待降節第四聖日)

ることはなかった。そして、その子をイエスと名付けた。 ヨセフは眠りから覚めると、主の天使が命じたとおり、妻を迎え入れ、男の子が生まれるまでマリアと関係す

て立ち向かうことができるようになる。受け入れることの強さをクリスマス物語に見ることができる。 神の恵みをそのまま受けるという受動性が聖書に強調されている。受け入れることによって、恐怖を超え

は、マリアが裁判に遭って殺されないよう、ひそかに離婚し、マリアを救おうとした。これが当時の社会で は人を活かす最も正しいやり方だった。 婚約者が身ごもっていたら社会では恥ずかしい。律法にしたがって石打の刑に遭うかもしれない。ヨセフ しかし正しいことを主張して豊かさが生まれてきただろうか。

4

ョセフは思い悩む中に天使と出会った。そこで現実をすべて受け入れた。

ョセフは心の最も深いところで主に出会い、マリアに起こった事実をすべて受け入れた。人の力や知恵に

よってではなく、外部からの主の業によって私たちは動く。

2006/12/17

#### 主のご誕生 一 ルカ2:1-20 (降誕日)

らがベツレへムにいるうちに、マリアは月が満ちて、初めての子を産み、布にくるんで飼い葉桶に寝かせた。 ビデの町へ上って行った。身ごもっていた、いいなずけのマリアと一緒に登録するためである。ところが、彼 ヨセフもダビデの家に属し、その血筋であったので、ガリラヤの町ナザレから、ユダヤのベツレヘムというダ

置きたいのが私たちの考えだが、イスラエルの民は何も置かなかった。空席であることが信仰の表れであり、 空席の椅子が置かれていた。見えるものを

出エジプトの契約の箱の上には、主が座られることを願って、

宿屋には彼らの泊まる場所がなかったからである。

そこに神が来たりたもう。

何もなく飼い葉桶 クリスマス物語では、マリアとヨセフの旅路で宿がなかった。宿がないところにこそ、神が来たりたもう。 のイエスは、イザヤ書五十三章の僕と同様だった。おめでたいしるしとはなりえない十字

架と飼い葉桶が、救いのしるしになっている。

## 罪人を招くため ― マルコ 2: 13 - 17

「医者を必要とするのは、丈夫な人ではなく病人である。わたしが来たのは、正しい人を招くためではなく、

罪人を招くためである。」

11 が奇跡となりうるが、聖書の描くイエスは、まさにそれである。人が人であることは、いいように利用す イエスの像として、「奇跡の人」と「普通の人」が挙げられる。人の正常さが失われたとき、普通の人の行

ることではなく、隣にいて共に在ることである。

すればよかったし、 イエスはある意味で隠れた方である。自分を主張して宣伝するならば、ガリラヤでなくエルサレムで宣教 弟子として有名人を選べばよかった。そうしなかったほど普通の人であった。神に仕え

る人は罪人や徴税人と交際しないのに、イエスはただの人としてこれらの人と食事をした。

共に歩みだした。これは大きな奇跡だ。奇跡が起きた場所は、レビにとって日常であるレビの家であった。 レビは共に歩むことのできない人だった。そのレビにイエスの方から接近し、決断を迫った。レビが主と

2007/1/14

# パンを川に流せ ― コヘレト 11: 1 – 4

あなたのパンを水に浮かべて流すがよい。月日がたってから、それを見いだすだろう。

考えられる。ヘレニズムの影響が強く、伝統的なヘブライの信仰形態を問い直すことを目指して書かれた。 生きる糧である大切なパンを川に流さねばならないときが人生にあると主張している。 ヘレトはBC二〇〇年頃エルサレム在住のヘレニズム文化で育った人、たぶんギリシャ人の著であると アブラハムは ロト

せパンを川に流すのならば、せめて意味を持たせたい、と考えるのが私たちである。 とか富を得たかではなく、与えられたものを最大限用いて人をどれだけ生かすことができたかによる。 滅ぼされた。大切なものでも川に流す方がよい時がある。信仰生活は、世にどれだけ大きなことを残したか と遊牧場を分け隔て、ロトは緑豊かな土地を選択した。しかし物質の豊かな土地は悪に満ちて、 神によって

7

ったのだ。弟子たちは徒労感を味わったに違いない。しかし、天から、つまり自分の外から復活の イエスの弟子たちはイエスに望みをかけて、すべてを捨ててイエスに従った。そのイエスが十字架に 声 が か カン

った。自分の努力を基準にすると徒労と考えられることも、神の基準では恵みである。

人を生かす真理は合理性ではなく、不合理の中にある。不合理の典型が十字架であり、 人を生かしたのが

復活である

## 放蕩息子のたとえ ―ルカ 15: 11 - 32

たのに生き返った。いなくなっていたのに見つかったのだ。祝宴を開いて楽しみ喜ぶのは当たり前ではないか。 子よ、お前はいつもわたしと一緒にいる。わたしのものは全部お前のものだ。だが、お前のあの弟は死んでい

こに居られるか探し求めるが、今ここにいる私たちの中に居られる。 た兄に対して、父は「子よ」として迎え入れた。兄が救われたのがこの物語の要点である。私たちは神がど 兄はファリサイ人と同様に毎日神の家に住んでいるがゆえに、 兄の主張は十五章前半のファリサ 父は走り寄って息子を抱いた。この姿は、 かし破滅に陥ることがある。 画になるほどの自由を与えている。神は、ひとが真実を踏まえて生きることを信じて自由を与えている。 この物語の前半は弟の話、後半は兄の話である。通常は前半のみ語られるが、聖書の主眼は後半にある。 人生の再生である「死んでいた人の生き返り」がこの物語のテーマである。一読すると、弟息子は極度に 父親はそれに対して甘過ぎる印象を受ける。 弟息子は我に返って、つまり悔い改めて再出発の場所を父のところに求めた。 イ人の不平である「イエスは罪人と食事をする」という不満と同等である。 神の方から近寄ってくることを示している。そこに救 しかし、 神の御心を忘れていた。心では遠く離れてい 神は放蕩息子のたとえのように、 がある。 人に無計

はっきり言っておく。一粒の麦は、地に落ちて死ななければ、一粒のままである。だが、死ねば、多くの実を 自分の命を愛する者は、それを失うが、この世で自分の命を憎む人は、それを保って永遠の命に至る。

麦の話をされた。これまで積み上げてきた知識や体験の上に増し加わる形で、イエスとの面会を考えていた 礼拝は積み上げてきた知識や経験をさらに磨き上げるところではなく、神の一方的な指針を聞くところであ ある。しかしイエスは面会者の個人的事情とは無関係に、 のだろう。ここまで磨き上げた姿をイエスに認められたいのが普通の人のあり方であり、常識的な生き方で 来たのだろう。 イエスに会いにきたギリシャ人は宗教的に意識の高い改宗者であり、信仰の事実を見るためエルサレ 一方的な指針のためにこれまで築き上げたものが打ち砕かれるところである。 イエスに面会した時、 イエスはギリシャ人の宗教体験などを聞くのではなく、唐突に一 神の国に起こりうることを一方的に語り始めた。 レムに 粒

表面的な思い それを率先したのがイエスである。この神の指針は、イエスとの面会により経験を加えていくといった · を根 底か ら覆した。 経験を増やして満足することは、人に仕えることと反する。 礼拝は、この

粒の麦が死ぬからこそ多くの実を結ぶ。救いには殉教が必要である。人の偉大さは仕える中に見えてく

ような逆転を受け入れるところである。

07/2/4

# キリストの体 — コリント I 12: 12 - 31

つの部分が苦しめば、すべての部分が共に苦しみ、一つの部分が尊ばれれば、すべての部分が共に喜ぶので あなたがたはキリストの体であり、また、一人一人はその部分です。

心に神殿のある交易の盛んな町であった。人の出入りが多いため、不道徳で悪評高かった。 コリント教会はパウロの第二回の伝道旅行の時に作られ、分派争いの絶えない教会だった。 コリントは中

すべての部分も苦しむ。キリストの代理人として隣人の苦しみを担い合うのがキリスト教のあり方である。 さの中の美しさは、 体であることを強調している。「あなたはキリストの一部である」と言われると自分の不具合の悪さが気にな が異なった働きをするのが教会である。とくに弱い者が尊重されるところでは、 るが、不具合までも認められた集まりが教会であるという。 何 ウロの語る体のたとえ話は、古来から欧州で用いられた話である。教会はキリストの体につながる共同 人かのキリスト者が集まったところにイエスが共におられる(マタイ 18)―これが教会の真髄である。 教会を支える原点であり、その頭 (かしら) がキリストである。一つの部分が苦しめば 画一的な人の集まりではなく、違った種 その集まりが成熟する。 0 弱 人

# 育つままに ― マタイ13:24 - 30 (36 - 43)

まにしておきなさい。刈り入れの時、『まず毒麦を集め、焼くために束にし、麦の方は集めて倉に入れなさい』 主人は言った。「いや、毒麦を集めるとき、麦まで一緒に抜くかもしれない。刈り入れまで、両方とも育つま

刈り取る者に言いつけよう。」

悪い性質を除いていくのが常識的なやり方である。しかし良い麦も抜いてしまう可能性があるから、主人は 収穫を得るための鍵である。悪い芽は早いうちに除く必要がある。全体を良くするため、良い性質を伸ば 麦が現れたのは自然現象ではなく、 誰かがわざわざ毒麦を蒔いたからである。 しかし毒麦の除去は良い

11

この常識に反対した。ここでは全体の収穫量に関して関心がない。

私自身が神に待たれている大切な存在ではないか。自分が毒麦でも神は待っていてくださる。待たれている とする熱狂集団が、自分たちについて来ない人を除去してきた。「主が来られるまで先回りをしてはならない」。 ったらよいか。パリサイ人は純粋な集団を作ろうとますます純化しようとした。同様に、教会を純化しよう イエスの例えは、初代教会に次のように語り継がれた。神の国の到来を妨害するものをどのように取り扱

ことに気づくのが信仰である。

# 気を落とさずに祈る ― ルカ18:1-8

まして神は、昼も夜も叫び求めている選ばれた人たちのために裁きを行わずに、彼らをいつまでもほうってお

かれることがあろうか。

ならないことの譬えである。やもめは、日夜神に頼み求める選民であるユダヤ人を代表している。 えたのは、やもめに同情したのではなく、やもめが願い続けたからである。この物語は絶えず祈らなければ ユダヤの裁判官は律法学者を兼ねていてパリサイ派が多かった。神を神とも思わない裁判官が考え方を変

ている方と出会うことである。祈りが叶わないから不平をいうなんてことはあり得ない。 の願い通りにならない答えを最も良く表しているのがイエスの十字架である。本当の祈りは、祈りを見通し 方である。 ョブは、自分は何も悪いことをしていないと主張した。神はヨブを突き放す。神は祈りを聞いてくださる しかし、 それは人の願い通りに、ではない。人の予期しないやり方で、神は答えを返す。私たち

られている存在である。私たちは本当には祈れないけれど、祈られることが許されている恵みの存在である。 本当に祈っているとき、祈りができない自分に出会う。そのとき祈っているのは聖霊であり、 私たちは祈

だから主が良しとしたまえば受け入れてください、と祈る。

### 香油を注がれる マルコ 14: 1 - 9 (受難節第二聖日)

はっきり言っておく。世界中どこでも、福音が宣べ伝えられる所では、この人のしたことも記念として語り伝 この人はできるかぎりのことをした。つまり、前もってわたしの体に香油を注ぎ、 埋葬の準備をしてくれた。

えられるだろう。

行われた祝福のしるしである。 編二十三の五節に敵陣の前で祝宴を行い、 香油は結婚式のとき花嫁に注がれた。 油を注いだ歌がある。 油注ぎは王の戴冠、 栄誉の公表などに

無駄にするなと女をとがめたが、この指摘は常識的であり社会では正しい。 て「持っているものを売り払って貧しい人に施せ」と言っている。 一人の女が香油を注いだ場所は、祭壇もなく歌もない普通の食事の場であった。弟子たちは高価なものを イエスさえ富める青年に向か

しかしイエスはこの女の浪費を良しとした。 埋葬の準備つまり十字架を示す行為となった。油を注 いで福

音を示したのは、長老や律法学者ではなく、ある一人の女であった。この行為が福音を聞く人を、香油が部

屋一杯に広がるほど豊かにする。

2007/3/4

### 過越の食事 マルコ 14: 10 - 21 (受難節第三聖日)

わたしのことでは」と代わる代わる言い始めた。 人で、わたしと一緒に食事をしている者が、わたしを裏切ろうとしている。」弟子たちは心を痛めて、「まさか 同が席に着いて食事をしているとき、イエスは言われた。「はっきり言っておくが、あなたがたのうちの一

エジプトから脱出した神の救いのしるしである過越の祭りには、過越の子羊を燔祭に捧げた。 子羊の血は

イエスの十字架の血と同一視されている。

エスが十字架に付けられたとき、

あなたはどこにいたか」初代教会の人は集まるたびに聖餐式を行

りの奥には「神の御心に従って」との意味が込められている。ユダはこの席にいてもらわなければならない。 裏切りを含めたすべてのものを包みこむものと考えた。 実はユダだけでなく十一人の弟子もイエスを裏切って逃げた。この矛盾したなかに人の罪が最も強く表れ 人の子は聖書にあるとおり去っていく。 ユダの裏切

てくる。晩餐の場所はイエスが準備し、人が準備したのではない。裏切りの場を主が準備された。

2007/3/11

V)

#### ゲッセマネの祈り マルコ 14: 32 - 42 (受難節第四聖日)

しが願うことではなく、 「アッバ、父よ、あなたは何でもおできになります。この杯をわたしから取りのけてください。 御心に適うことが行われますように。」 しかし、 わた

れば人は誰でも従ってくるが、それを主張するサタンを追い払い、イエスがサタンに勝利した。ゲッセマネ われる。ゲッセマネのイエスの姿と荒れ野の誘惑と比較すると理解しやすい。荒れ野では、石をパンに変え ターは 「イエスほど死を恐れた人はいなかった」と語った。 一方、死を恐れずに殉教する人は聖人と言

ダの行った人の合理性は、 な人間を作り上げるのがサタンの仕業である。弟子が眠っている間にうごめいていたのはユダである。 ていたとき、 の輝かしい業が現れるに違いないと考えた。十字架の道は人の感情ではなく、神中心の歴史の開始であ では、これから自分をサタンに引き渡そうとし、形の上では、イエスが敗北する。 三人の弟子は、 イエスは祈りの場所と眠っている弟子たちの間を三度行き来した。 御心のままに」と神中心の歴史に置き換えていくのがゲッセマネの祈りと考えられる。 弟子は慌てふためいた。その時こそイエスを信じて眠っていてよい時であったのに。このよう 神の奥義が最も強く現されようとしているとき、眠っていた。嵐の中の舟でイエスが眠 神への服従を妨害する。ユダは、イエスを最も厳しいところに追い詰めれば 神は眠っている私たちに三度も声をか イスカリオテ 神 ユ

けてくださる。「もうこれでいい」(enough)とは、弟子のそのままの姿をすべて背負って十字架への道を歩ま

れたイエスの象徴的な言葉である。

### トロの否認 マルコ 14: 66 - 72 (受難節第五聖日)

とイエスが言われた言葉を思い出して、いきなり泣きだした。 するとすぐ、鶏が再び鳴いた。ペトロは、「鶏が二度鳴く前に、 あなたは三度わたしを知らないと言うだろう」

事が起きた。ペトロは女中を無視すればいいものを、 をきっかけとして、ペトロの内側が表に出てしまった。 大祭司の法廷でイエスの裁判という歴史的出来事があり、その裏庭で、ペトロを責める女中の小さな出来 むきになってイエスを否定した。女中の言われたこと 周囲の人たちは、 イエスを否認するペトロの 口調を

隅々までイエスは知っておられた。ペトロは、主が自分を知っておられたことをここで悟る。一方、  $\sim$ 繰り返し初代教会でイエスの否認を告白し、それを信仰の原動力にしていたのではない 異様に感じたのではないか。我を忘れたとき、その人の内側が現れる。 1 後に初代教会の創立者となるペトロがイエスを否定した。この事をなぜ聖書に記したのか。ペトロ自身が . П 0) 恥が全て表に出された。ペトロが泣いたその時、 神がペトロに最も近い所にいた。ペ か。 鶏が トロの 鳴 1 イスカ 行 たとき 0

リオテ

ユダは恥を表に出さず、

神に泣き求めることをせずに自殺した。

# イエスの死 ― マルコ 15: 16 - 41 (棕櫚の主日)

「わが神、わが神、なぜわたしをお見捨てになったのですか」

関係を絶叫で応えた。子供の死に接するときのように、愛する人のみが死の意味を理解できる。 沈黙は人の極限状態を表しており、私たちの死に対する思い上がりを突き崩すものである。イエスは人との エスは十字架上で二度叫んだ。 いようにして神を侮辱し続けてきた。 人々はイエスに紫の衣を着せ、 この最期のときにあって「呼べる方」を求めた。ピラトの裁判以降、イエスは何も語らなかった。 一度は「エロイ・・」 茨の冠をかぶせてイエスを侮辱した。 イエスの十字架は人としての尊厳をすべて奪い去る形で起こっ (詩編二十二の引用)であり、 私たちはこのように自分の都合の 二度目は不明の 叫びであ 長い 1

れ とイエスは言われた。 が空しいことを示した。 私たちの祈り求めるものと逆のことが起こることはしばしばである。つまずきながら最後まで祈り続けよ 神殿 ロー の幕が裂けた。人は幕を作ることによって聖と俗とを分けたが、イエ マ人の百卒長はイエスの死後の第一番目の信仰告白者であった。 この信仰告 ースの 死 は そ

白をローマ人に与えたのは神の奥義であろう。

# 主のよみがえり ― マルコ 16: 1 - 8(復活祭聖日)

さあ、行って、弟子たちとペトロに告げなさい。「あの方は、 あなたがたより先にガリラヤへ行かれる。…」

かる前に弟子たちに三度、三日目によみがえると宣言した。しかしイエスの処刑後、弟子は放心状態となり、 こで三人の女は香油を買って安息日の過ぎた後、香油を塗りにイエスの墓へ行った。 イエスの死は午後3時ころであり、安息日の始まる夕方までに香油を塗って埋葬する時間がなかった。そ イエスは十字架にか

主は常に、どこにいるかわからない魂にも声をかけてくださる。主の復活は、証拠を集めて論じた結果では トロは、自分のせいでイエスが処刑されたと思い、悔いていたであろう。それでもなおペトロを名指された。 七節に「弟子たちとペトロに告げなさい」と、わざわざペトロが名指しされた。イエスを三度否定したペ

墓へ行ったのは三人の女たちであった。

なく、主から声をかけられた結果の表れである。 の恵みの中で受け入れられるのが復活である。 失敗の繰り返しの中にあったペトロに復活が表された。 主

あなた方より先にガリラヤへ行かれる」イエスは、弟子たちに先回りして、ペトロのふるさとの方言が

語られるガリラヤへ行かれた。

007/4/8

スが来て真ん中に立ち、「あなたがたに平和があるように」と言われた。 さて八日の後、弟子たちはまた家の中におり、トマスも一緒にいた。戸にはみな鍵がかけてあったのに、イエ

ず、イエスの死後、どこかに出て行った。弟子たちの集まっている中で最も信仰が弱かったトマスひとりに 向って、イエスは 釘跡に入れてみなければ・・・決して信じられない」と主張するほど正直で勇気のある人だった。 手に頼るのではなく、ただイエスのみを信じる群れに帰ってきた。 復活を期待して、トマスは弟子たちの中に帰ってきた。トマスは見ないで信じることを選んだ。自分の目や ってイエスは部屋に入ってこられたのだ。信じるということは本来見えないものを認めることである。 った。ロダンの「考える人」はトマスをモデルにしている。トマスは十字架と復活をなかなか受け入れられ トマスは、イエスの死への予告に対して「皆で死のうではないか」、「はっきり言ってください」、この指を 「指をここに当て、私の手を見なさい」と言われた。私たちの信仰の弱さと疑いの壁を破 思慮深

19

それに対してトマスは「わが主よ」と、主を呼ばわった。 自分があり、それに対してイエスは「平和があるように」、つまり、そのままのトマスの形で良いと言われた。 信仰者がもっているものは輝きをもって生きることである。トマスの中には信じたい自分と信じられない

# キリストの体は一つ ― エフェソ 4: 1 -

6

すべてのものの父である神は唯一であって、すべてのものの上にあり、すべてのものを通して働き、すべての

ものの内におられます。

人を一つの存在として作り出してくれるのが信仰である。しかし信仰の主張が国家の分裂や争いを起こし

てきたのは事実である。

創造に従った事情があり、時によっては、その人ができないことも特徴の一つである。教会は一枚岩を好む 6節「すべてのものの上にあり」と書いてあり、キリスト教だけが上にあるのではない。人にはそれぞれ

が、教会にもそれぞれの事情がある。

るものになりたい。 ない。自分の制服を人に着せたがる。真理には謙虚さが必要であり、 の違いを超えて、キリストへ向かう一致がある。自分と異なるものをどのくらい理解できるか、真剣に捉え 信仰は最も自由な心の作用である。人

一つになること、一直線であること、ひたすらであることは優等生の論理である。これは他人を受け入れ

致の究極が三位一体である。父子聖霊それぞれ異なっているにもかかわらず一体である。

しかし、今は神を知っている、いや、むしろ神から知られているのに、 ところで、あなたがたはかつて、神を知らずに、もともと神でない神々に奴隷として仕えていました。

作られている。人が像を刻むとき、他人が入れないよう自分の都合のいい形に作り、他人を支配する。つま ①「自分の利益のため」を許さない ②人によって支配されない ③否をも言う。 り像(神)を限定する。だから偶像は、作った人に対して否を言わない。偶像ではない神は生きた神であり、 偶像を作って拝むのは宗教心が高いからだと世では言われるが、偶像は自分の幸せや欲求を満たすために

いて聖と俗を厳しく区別した。その熱心さは主人公が自分であり、他人の非を非難することにおいて偶像礼 宗教的な利己主義、自分を主張する信仰、これらはすべて偶像である。ユダヤ人は食べ物、安息日等にお

拝と似ている。本来は神が主人公になるべきで、神に自分の行動を問うべきだ。「神に知られている」という ように、主人公が神であるのが本当の姿である。

分が主人公となって神を知るときである。 神を知るとは、 神に知られている自分を知ることである。自分の都合のいい時だけ神を持ち出すのは、

自

# その人たちの信仰を見て ― ルカ 5: 17 - 26

の信仰を見て、「人よ、あなたの罪は赦された」と言われた。 …屋根に上って瓦をはがし、人々の真ん中のイエスの前に、病人を床ごとつり降ろした。イエスはその人たち

た人は病人に対する愛に支えられていたとは書いていない。必ず治るという信仰に支えられた。 起こった。 「驚くべきことを見た」を言語ではパラドクサといい、paradox の元になっている。日常と反することが 屋根から病人を吊り下ろすのは、気力のいる激しい行動であり、また不作法である。 吊り下ろし

うとするのは本当の祈りではなく、自分が神となる偶像礼拝である。 病人を運んできた人は玄関を閉ざされた。だから屋根に入り口を求めた。自分の願いによって神を動かそ 神がよしとするならば聞き入れてくだ

22

さいと祈るべきである。神の御心を求めるものでなければならない。

神の御心をどうしても受け入れられないとき、

屋根からつり下ろす行動は、御心を変えてくださるような祈りに似ている。運んだ人の信仰は運ばれた人を

御心を変えてくださるように祈ることは許されな

救った。とりなしの業である。

ペトロは言った。「わたしには金や銀はないが、持っているものをあげよう。ナザレの人イエス・キリストの

名によって立ち上がり、歩きなさい。」

いうのは、み名のあるところに神がおられ生きておられる、という信仰告白である。男には金ではなく、 エスの名による力」をあげようと言った。「イエスキリストの御名によって」「御名をあがめさせたまえ」と 自分自身は醜いものでも、光に照らし出されたとき、いくらでも美しくなれる。光が必要である。 足の不自由な男は何かもらえると思った。しかしペテロには金や銀はなく、持っているもの、すなわち「イ ルサレム城壁の「美しい門」はそのものが美しいのか、そこから見る景色が美しいのか、諸説がある。 み

主体性なく無意味に生きる方向から喜びをもって生きる方向に変えられたことこそ、金銀を超えた本当の奇 にそれを指示している。「ある」ところから始まるのは自己満足的なものに終わる。病を癒された奇跡以上に、 金銀のないことはペテロも男も同様である。教会は「ない」ことから始まっている。ペンテコステはまさ 名による力が与えられた。

跡である。

007/06/03

# 実によって木を知る ― マタイ 7: 15 - 20

良い実を結ぶこともできない。 良い実を結ばない木はみな、切り倒されて火に投げ込まれる。このように、 すべて良い木は良い実を結び、 悪い木は悪い実を結ぶ。良い木が悪い実を結ぶことはなく、また、悪い木が

あなたがたはその実で彼らを見分ける。

台の話にあるように、自分は堅い土台の上に家を建てたと思っている。 良い木とか悪い木とか、あるのだろうか。人は皆、自分は良い木だと思って生きている。二十四節の家と土 良い実を結ぶのがよい木だといっても、果実は結果であるから、初めからはわかっていない。もともと、

どと思うことは、妄想かもしれない。自分だけが、そう思っているだけなのではないか。 なんと多いことか。目的に向かって自分なりに走ってきたが、「私がよい木」「私は岩の上に家を建てた」な 特別良い木でなくてもよく、せめて普通でありたいと願う。しかし、そうなっていない事に気づく場面が 良い悪いは神が裁

く内容である。

# 品位をもって歩む ― ローマ13:11-14

品位をもって歩もうではありませんか。酒宴と酩酊、淫乱と好色、争いとねたみを捨て、主イエス・キリスト 夜は更け、日は近づいた。だから、闇の行いを脱ぎ捨てて光の武具を身に着けましょう。 日中を歩むように、

を身にまといなさい。

に生じる心の動きである。「良い姿をして」「美しい形で」と同じように解釈できる。 |魅力がある」「魅力がない」は、誰にでもわかる事実である。品位はそれと同じで、人の目を意識しない中 「品位をもって」は口語訳では「つつましく」とある。「魅力」とは何か、言葉では説明できないけれど、

それぞれすぐれた母親や聖人ではなく、普通の人であった。過ちを犯しても聖なるものに向かったところに アウグスチヌスの「告白」を出すきっかけとなったのが、この聖句である。母モニカもアウグスチヌスも、

目を向けたい。

具体的にはバプテスマを受けたとき、私たちは変えられる。 られる。自分の内なる力では心の状態を変えられない。外なる力であるイエスキリストを身にまとうとき、 すべての人は罪を犯す。しかしイエスキリストを身にまとおう。私たちは外の力によって心の状態を変え

#### 汚れた手で マルコ7:1-7

そこで、ファリサイ派の人々と律法学者たちが尋ねた。「なぜ、あなたの弟子たちは昔の人の言い伝えに従

て歩まず、汚れた手で食事をするのですか。」

聖と俗の接点に食事がある。食事とは生きていくには必要欠くべからざるものであると同時に、楽しいこ その意味で信仰と類似している。必要なことと楽しいことが一致したとき、最も素晴らし

の祝福は心の豊かさだけでなく生活の豊かさにも表れる、というのがユダヤ人の考えである。

と霊の一致を重視する。それに反するのが、ギリシャのグノーシスである。 よく見えるかどうかではなく、神にどう見られているか、そこに関心を持たねばならない。 神の祝福が活かされているかどうかが問題である。清いか清くないかという観点ではパリサイ人の勝ちであ は見かけ上の大きなところで語られるのではなく、食事をはじめとする身の回りの小さいことの中に働く。 して、他人が手を洗わないことにまで目がいってしまい、偽善行為となる。イエスはそれを批判した。 だけでなく、律法に反し、神を冒涜したことになる。しかし自分の手を洗うことは、清くなったと自己満足 この背景のもとにファリサイ人はイエスを非難した。手を洗わないことは、 リサイ人の方が清く見える。「人によく見える」かどうかにより、 イエスは十字架に架けられた。 先祖から伝わる秩序を乱 した

ユダヤ人は肉

神

# み声を聞き分ける ― ヨハネ 10: 22 - 39

わたしの羊はわたしの声を聞き分ける。 わたしは彼らを知っており、彼らはわたしに従う。

している。 ている。しかしパウロはロマ書で、神からくる心の割礼こそ真の信仰であり、それは血筋によらないと告白 イの福音書の冒頭の系図は、その証拠である。 それを信じなかった。 ・エスに「あなたはメシアか」との問いは、これまで何度もなされた。人々は返答を知っていたけれど、 ユダヤ人は血縁信仰が強く、ダビデの王家からメシアが生まれると信じていた。マタ ユダヤ教の歴史では、イエスの弟ヤコブが義人として描かれ

文盲率は極めて低い。)しかし、イエスは安息日に働いた。そのような人はメシアではあり得ないと人々は判 安息日には仕事を休んで、子供に神の祝福の歴史を語るのがユダヤ人の習慣であった。(だからユダヤ人の

て従うことは難しいが、主が正しい道へ導いてくださる(詩編二十三)。 信仰はイエスの声に聴き従うことであり、社会に従うことではない。 神は姿や形でなく、声である。 聞い

2007/7/1

#### 五つのパンと二匹の魚 マタイ 14: 13 -

21

た。弟子たちはそのパンを群衆に与えた。すべての人が食べて満腹した。 そして、五つのパンと二匹の魚を取り、天を仰いで賛美の祈りを唱え、パンを裂いて弟子たちにお渡しになっ

初代教会では食物がないどころか、命も危うかった。その中にあって、イエスは常に自分たちと共にあり、 れるから私たちはもう働く必要がないとか、祈っていれば食物が増えてくると考える人はいないであろう。 イエスを信じることの喜びを、給食の物語を通して語りつないできた。 給食は四つの福音書に共通した記事であり、多くの人が喜んで語った出来事である。神が食事を与えてく

浮いたようなことを言うイエスに、弟子たちは、いらだったに違いない。こういうときに信仰が問われる。 もあると言って、用いられた。この転換が信仰の働きである。 エスは用いられた。私たちは「これしかない」と言って、いつも不満気である。 暮れになった。それだけに危機感があった。皆、空腹である。「お前たちの手で群衆に食事を与えろ」と宙に イエスが天を仰いだとき、手にしていたのは五つのパンと二匹の魚であった。弟子の持っていたものをイ ロデを逃れて人里離れたところに来たにもかかわらず、イエスは目立つ存在だった。 主は、今あるものに目を注がれる。 しかしイエスは、こんなに 群衆が集まり、

夕

## ムナのたとえ ― ルカ19:11 - 27

呼んで十ムナの金を渡し、「わたしが帰って来るまで、これで商売をしなさい」と言った。 ある立派な家柄の人が、王の位を受けて帰るために、遠い国へ旅立つことになった。そこで彼は、十人の僕を

相応の額があり、ムナのたとえでは皆同じだけ額を与えられた。イエスのたとえ話は、当時の人がわかりや でいる人は、与えられたものを最大限に活かすはずだ。タラントのたとえ(マタイ 25:11)では、人それぞれ い題材を選んだ。 ルサレムに入場すれば、何もしなくても神の国が来ると考えていたのであろう。 このたとえ話は、民衆がすぐさま神の国が来ると思っていることに対して、イエスが語られた。イエスが ヘロデアケラオがローマに領主となる許可を願い出た歴史を選んだ。 本当の神の国を待ち望ん

その恵みを十倍にして人々に与えることが、福音的な生き方である。 架につけて己を変えることによって、恵みを与えた。終点ではなく、それが出発点であることを示された。 どう受けとめるかが、このたとえ話である。 神は私たちのために等しく、 キリストの命を与えた。己を十字

これから歩む十字架の道をめぐって人々がどのような態度を取るか、人々に一ムナずつ与えられ、それを

2007/7/15

音は、世界中至るところの人々に宣べ伝えられており、わたしパウロは、それに仕える者とされました。 ただ、揺るぐことなく信仰に踏みとどまり、 あなたがたが聞いた福音の希望から離れてはなりません。この福

能性、つまり臨在を示していた。私たちは空の椅子を準備する余地なく生活している。イエスの誕生時に空 の東は荒れ野、 ヨシュヤがヨルダン川を渡ったとき、契約の箱を持って川の中にとどまるように民に命じた。 詩編六十九ではヨルダン川を渡る恐れを述べている。 西は肥沃な地で、ヨルダン川は地勢の堺であった。 契約の箱には空の椅子があり、 同時に信仰の堺でもあり、 人生の 神が座 ヨルダン川 る可

スは神の救いを担う大祭司として、深い川の中に踏みとどまられた。川の深みにこそ、神の救いが現れる。 いている部屋がなかったように。特に情報時代の社会では、踏みとどまることのない生活をしている。 踏みとどまる」の語源は「平安を得る」を意味する。平安を得ることだけでなく、平安を与えたのがイエ

スの十字架であった。

平安を求めるようにと、パウロはコロサイ教会だけでなく、私たちにも勧めている。 いと考えることもあり、 ロサイの教会ではグノーシス主義が広がり、肉体と精神を別々に考えた。 道徳的に乱れていた。 方で禁欲主義的でもあった。 神と和 精神があれば肉体は何でもよ 解して踏みとどまり、

イエ

## つまずき ― マタイ 18:6-9

わたしを信じるこれらの小さな者の一人をつまずかせる者は、大きな石臼を首に懸けられて、深い海に沈めら

れる方がましである。

が偉いか」に関係する。イエスは、子供を弱くて小さくて神の助けを必要とする者の代表として挙げた。 つまずきの話は一節から五節の「天国で一番偉いのは誰か」から続いている。争いや憎しみの多くは

教会は、弱く小さいものをつまずかせてはならない―とイエスは厳しく戒められた。人は他者のつまずき

の噂話をするとき、人を小さく見ることによって自分を大きくしている。つまり自分の偉さを主張する。良 を喜ぶ。イエスはそれを見抜いた。 他者のつまずきを喜んでいるとき、その人自身がつまずく。 私たちが人

い羊飼いは、値打ちのないつまずいた一匹の羊を、危険を冒して探しだした。

ずかせるものがある。私たちは不完全な罪の存在であるから。 イエスの存在そのものが、つまずきでもあった。つまずく者が大勢いた。喜んでやっている中にも、つま

2007/7/29

## 命に至る水 ― ヨハネ 4: 1 - 18

この水を飲む者はだれでもまた渇く。しかし、わたしが与える水を飲む者は決して渇かない

りにくいところが多い。より手近で御利益的な話のほうが大衆にわかりやすいはずだが。ほんとうに大切な ハネの福音書では、 愚問から始めて抽象的かつ象徴的な展開へと進んでいく。 抽象的な話なので、

んなに誠実になってくれる人に圧倒された。この女は隠れて井戸へ水を汲みにきたけれど、イエスとの出会 を五度飲んでも渇いた。そのとき、「あなたの夫を呼んできなさい」とイエスは本質をつく。自分に対してこ である。はじめから恵みを求めるのは御利益信仰である。イエスと対話を続けることに、信仰の実体がある。 ある部分だけ、 る水は、川のように流れる水であり、 ことは「わかる」ではなく、「感動する」とか「力を受ける」ことであろう。 の後、 サマリアの女は仕えることの喜びを知らず、自分の願望が叶えられることを目指して生きてきた。この水 「この水を飲むと必ず渇く」とは、この五人の男と別れたサマリア女の人生を象徴していよう。生きてい 町へ 行って信仰を証する人となった。この世の価値を求めてきた女が、渇かない命の水に感動 ある時だけのことで判断しても、生きた交わりは見えてこない。生きた交わりの成果が恵み 試験管の水ではない。信仰はイエスと「私」の生きた交わりである。

人生の方向が反転したのである。

#### 神の選び コリント I 1: 26 - 31

神は知恵ある者に恥をかかせるため、世の無学な者を選び、力ある者に恥をかかせるため、世の無力な者を選

ちエリートとして人を支配すること。聖書にある「神による選び」は全く異なる。 は、神の一方的な愛に他ならない。だから、弱いものに対して手助けをするのが当然とユダヤ民族は考えた。 れた理由として、ユダヤ民族は取るに足りない弱い民族であるからと記されている。弱小な民を選んだ理由 第二次大戦中にドイツが誇った民族の優秀さとは、選民意識の象徴である。「選ばれた」とは、人の上に立 申命記(7:6-8)に神に選ば

信仰が生まれる。

に神の前に立つ、これが信仰の本質である。無に等しいものとして選ばれ、無しかないことを告白するとき、

コリントの教会はこの世的に価値のあるものを多くは持っていなかった。

二十六節を見ると、

かないこの時点で、 信仰を持つ者のみに与えられる知恵であり、十字架の中に勝利を見出すことである。この世的に私が否でし って、買い戻してくださる。どんなつまらない者も義とし、聖としてくださる。 三十節に「キリストは、私たちにとって神の知恵となり」とある。「知恵」とは、信仰的な洞察を意味する。 キリストは私たちの義となり「しかり」としてくださる。私たちの「否」をあがないと

何も持たず

### 主の掟を学ぶ ― 詩編 119:65 - 72

あなたの口から出る律法はわたしにとって、幾千の金銀にまさる恵みです。 卑しめられたのはわたしのために良いことでした。わたしはあなたの掟を学ぶようになりました。

章の生まれながらにして盲目の人のような苦しみもある。その理由を誰も説明できない、因果を求めること ができない。イエスは盲目の原因として、その人の過去ではなく将来に求めて、「神の業が将来に現れるため きに喜びを感じる。 人が苦しむのは、人が有限な存在であるからだ。喜びの大部分は苦しみと共にあり、それを乗り越えたと ヘブル十二章では、そこにも救いがあるという。上から一方的にやってくる苦しみ、たとえばヨハネ九 苦楽を無意味に感じた時、人は最も悲劇的である。 自分の蒔いた種で苦しむことも多い

わりで考え、 解決になる。 過去に原因を求めても解決にならない。十字架を通して将来に現れる主の恵みに求めることこそ、本当の 御言葉を輝かせることにつながる生き方である。 七十一節の「卑しめられたのは私のために良いことでした」とは、苦しみも喜びも神とのかか

と語った。

07/8/19

### 新しい生命に生きる ― ローマ 6: 1 - 1

御父の栄光によって死者の中から復活させられたように、わたしたちも新しい命に生きるためなのです。 わたしたちは洗礼によってキリストと共に葬られ、その死にあずかるものとなりました。それは、キリストが

だ心が悪魔となった。 エスを妬んで天から落ちた天使である。なぜイエスだけ特権があるのか、なぜ特権は自分にないのかと妬ん を捨てることである。とは言っても、私たちは古き自分に捉われている。 度死んで新しく生きることを意味し、 ユダヤ教などの他の宗教にも洗礼があって、罪を水に流して清める。キリスト教の洗礼は、古い自分に一 自分の欲望は、自分が主となることであり、 自分の栄光を高くするのではなく、 罪の大もとである。 ミルトンの失楽園では、 神の栄光のために自分の 悪魔は 栄光志

る。 のは、沈黙すること、心に主を受け入れる空間や余白を作ることであるという。 人は極限に置かれたとき、 沈黙する。すべてを委ねるとき、沈黙する。このとき自分を神に捧げ、 そこに神の言葉を迎え入れ 神の

宗教改革者ツイングリンは教会の中の二義的なものを全て排除した。

音楽も美術も排除し、礼拝に大切な

恵みの下にいることがわかる。

2/6/7002

と告げておられます。同じように、現に今も、恵みによって選ばれた者が残っています。 神は彼に何と告げているか。「わたしは、バアルにひざまずかなかった七千人を自分のために残しておいた」

背負うと、ひとつはイエスが背負ってくださるから、艱難を乗り切れる。 ことのない生き方を説き、世に捨てられた者では決してない、と教え続けられた。一つの荷物を二つにして すべての生徒が、自分が平等に扱われないことに対して不平を言う。谷校長は、その中にあって、たじろぐ ている。 「不平不満は病気の心理である」と家庭学校(家庭裁判所委託の子供の学校)の校長である谷先生が言わ 不平不満があるときは病気である。たじろぐことがないのは健康のしるしである。家庭学校では

いくらでも金を出す。 自分に媚びてくれる宗教を好む」とルターは言った。なんと見えない目、 なんと聞え の仲間を残したと告げられる。私たちは味方の中に敵を作っていく存在である。また、「人々は偶像礼拝には

エリヤは自分だけが神を崇める者として取り残された、と神に訴えた(三節)。しかし、神は彼に、七千人

ない耳であろうか

が、教会と社会を支えている。残された者(remnants)は、地の塩である。 今も恵みによって取り残されたものが私たちの気がつかない 所にいる。 エリヤさえも知らなかった礼拝者

## 郷里での主イエス ― マタイ 13: 53 - 58

われないのは、 我々と一緒に住んでいるではないか。…」このように、人々はイエスにつまずいた。 息子ではないか。母親はマリアといい、 人々は驚いて言った。「この人は、このような知恵と奇跡を行う力をどこから得たのだろう。 その故郷、 家族の間だけである」と言い、人々が不信仰だったので、そこではあまり奇跡をな 兄弟はヤコブ、ヨセフ、シモン、ユダではないか。 イエスは、「預言者が敬 この人は大工の 姉妹たちは皆

るにもかかわらず。 イエスがどこから力と知恵を得たのか、人々は驚いた。 私たちは疎遠な人はあまり批判しないが、身近な人が尊敬を浴びるようになると、 村の人はイエスの身の回りのことをよく知ってい

人を妬む。

私たちは自分の意見や領域を主張しながら生きている。

その世界と全く異質のものが入ってくると、従来

に現れ、人間中心の秩序をこわした。「故郷で敬われない」というのは、イエスの十字架の予言でもある。 を忘れた社会の中にイエスが低い姿勢で入り込んだ。 の秩序を保とうとして異質物を排除する。神は神殿に納まって静かにしていればいいのに、イエスの形で世 イエスはまばゆい形で人々に現れたのではなく、 肉と 神

して血として現れた。

07/9/16

# いちじくの木の下にいるのを ― ヨハネ 1: 43 - 51

がフィリポから話しかけられる前に、いちじくの木の下にいるのを見た」と言われた。 ナタナエルが、「どうしてわたしを知っておられるのですか」と言うと、イエスは答えて、「わたしは、

から信仰に入ることはないと知っていたので、「来て見よ」と言った。証明できる神は偽りである。「来て見 は寒村のナザレから良いものが出ないという通説を基に、フィリポに反論した。フィリポは議論すること 弟子の召命(1:29 以下)には「見る」という語が繰り返し出てくるが、これこそが召命である。ナタナエ

る」ことしかできない。

セマネの園と同じであった。イエスは、弟子たちを見るとき、その一番深いところをご覧になられた。 でもあり、休らいの場でもあった。神と語る場でもあった。いちじくの木の下はナタナエルにとって、 ナタナエルはイエスの「まことのイスラエル人だ」には満足しなかった。いちじくの木はユダヤの何処に

ではない。 を見つめている。主に召し出される場は特殊なところではない。 イエスは弟子が網を繕って漁をするのを、また、取税所に坐っているのを、ご覧になった。普通の私たち 当たり前のことを当たり前にしている私たちの姿を、 人の特別な能力をイエスに認めてもらうの イエスは見ておられる。 そのとき、イエス

2007/10/

は天と地の梯子になると約束しておられる(五十一節)。

## 信仰生活の吟味 ― コリント1 13:5-10

だから。 愛は決して滅びない。預言は廃れ、異言はやみ、知識は廃れよう、 完全なものが来たときには、部分的なものは廃れよう。 わたしたちの知識は一部分、 預言も一部分

理解する必要がある。 とがある。 反省と吟味は大切なものであるが、血の熱を奪うこともある。 他人を裁くことは罪であるが、自分を裁くことも罪になる。 特に信仰についての吟味は、信仰を失うこ 反省と吟味の基準と根拠をしっか

決定的な出会いが浮き彫りにされている。基準の中にどっぷりつかった人がイエスと衝突した。 細に作り上げた歴史がある。 る。 しかし基準を大切にすると、 日本の教会における吟味の根拠は、 聖書の主眼は心にあるから儀式を軽率に扱いがちであるが、力強さを含むことも事実である。 それからはみ出す人が出てくる。 社会の中にどう生きるかの倫理もある。三つの基準を大切にする必要がある。 儀式と教義と倫理であった。儀式は目に見える形で行う信仰告白であ 聖書には基準 からはみ出した人とイエスとの 教義を詳

それが信仰である。

あなた方複数の内に居られる。私を生かすと同時にあなたを生かすという形で、イエスがただ中におられる。

私とあなたの間にイエスがおられる、それが信仰の根拠である。

キリストが私たちの根拠になっているかどうかが本質である。イエスは私の内のみに居られるのでなく、

## 断食についての問答 ― ルカ 5:33 -39

来る。その時には、 が一緒にいるのに、 しています。 人々はイエスに言った。「ヨハネの弟子たちは度々断食し、祈りをし、ファリサイ派の弟子たちも同じように しかし、あなたの弟子たちは飲んだり食べたりしています。」そこで、イエスは言われた。 彼らは断食することになる。」 婚礼の客に断食させることがあなたがたにできようか。しかし、花婿が奪い取られる時

の断 う質問は、周到に準備されたものだった。祈りと断食は宗教活動の主流である。 模範であるパリサイ人も断食をしているのに、 は、金を沢山使って乱痴気騒ぎをし、パリサイ人から非難された。 徴税人レビは、イエスのために盛大な宴会を催した。国民を売り物にして人々から罪人とされていたレビ 一般を表す。パリサイ人は断食をしているところを人に見せた。イエスは、断食をするとき頭と顔を洗 なぜイエスの弟子たちは食べたり飲んだりするのか ―イエスと同系列のヨハネや、社会の 断食は日常性や世俗性

すが、信仰は自分が低くなる。 また、イエスと共に居ることを結婚に例えた。信仰は修養とは異なる。修養は自分が高くなることを目指 神の前で低く裸になり、 神と共にあることを喜ぶのが信仰である。

普通の生活・日常性の中で行えと主張した。断食する人は他の人と違うことを示すなと言う。

12/01/10/21

さい。自分を賢い者とうぬぼれてはなりません。 喜ぶ人と共に喜び、泣く人と共に泣きなさい。互いに思いを一つにし、高ぶらず、身分の低い人々と交わりな だれに対しても悪に悪を返さず、すべての人の前で善を行

うように心がけなさい。

賜物を受けている人は奉仕に専念し、その中にとどまれと忠告している。「惜しまず」「熱心に」「快く」は、 聖餐式でパンと葡萄酒を分け合うのは、各自が部分として賜物を分かち合うことを意味している。

愛の十戒では、愛において、相手を尊敬することにおいて先んじよと忠告している。私たちは人に負ける

素直に、ということであり、人目を気にすることではない。

人は器である。器の中に何を盛るかが問題である。 神自身、憐れみを盛るために器を作ってくださった。

な、早くせよ、と急かされる日々にある。

それなのに、自分が神から大きな憐れみを受けていても気づかないことがある。

ックの人は信じている。最も小さい中にキリストを見出すために、貧しい人を憐れみの器とする信仰であ 聖餐を受けていない人は、最も小さいものだから、本来ならば真先に聖餐を受けねばならない、とカトリ

:/O1/7005

## 三度祈るパウロ ― Ⅱコリント 12: 1 -12

みはあなたに十分である。力は弱さの中でこそ十分に発揮されるのだ」と言われました。だから、キリストの この使いについて、離れ去らせてくださるように、わたしは三度主に願いました。すると主は、「わたしの恵

事が沢山ある。 は、この矛盾と闘っている。パウロが徹底的に祈り、神から得た答えは、「弱さの中にこそ神の恵みが現れる」 が欠落していることが多い。本当に他者を大切にする人は、自分をも大切にする。ゲッセマネの祈りには「取 れるまで徹底的に祈ったことを表している。「他者のために仕える教会」も重要であるが、「自分のために」 パ り除いてください」と「神の御心のままに」と矛盾した内容が並んでいる。具体的な問題に直面している人 ウロ 福音は喜ばしい知らせであり、それを受け入れたのがクリスチャンである。聖書には真剣に祈り求める記 パ ウロはマラリヤの後遺症で悩み、 力がわたしの内に宿るように、むしろ大いに喜んで自分の弱さを誇りましょう。 の祈りは尊大で力強い(エフェソ二章)。パウロの病気は、切なる祈りへと働いた。 しかも個々の祈りは具体的な内容を持っている。パウロの三度の祈りは、 特に目が不自由であった。 また、てんかんも持っていた。 神から答えが得ら

であった。弱さの中でこそ証ができる。

恵みは弱いところにこそ完成される。

下に集めるように、わたしはお前の子らを何度集めようとしたことか。だが、お前たちは応じようとしなかっ ルサレム、エルサレム、預言者たちを殺し、自分に遣わされた人々を石で打ち殺す者よ、

た。

ちのなす業を見ておられる。 直視し、偽善が神の目にどのように映っているか考える必要がある。イエスは私たちの考えを超えて、私た くする。それがイエスの歩みであった。 サイ人は絶えず信仰を磨き続け、自分を清めた。しかし、本当の信仰は自分を高くするのでなく、自分を低 は避けられないが、人の外側を良く見えるように努力することは、生きる上での第一歩である。 ダヤ人は律法の細かいことを忠実に守り、 私たちの欲は、金、名誉もさることながら、信仰をも高いものを求める。 律法学者とファリサイ人はその典型であった。 偽善者 その偽善を の発生 IJ

とをしなかった。一人立派に、高くなりたかった。 神の言葉を殺してきた。救われるとは、神の恵みの翼の元に入ることである。しかし、民は翼の下に入るこ 律法学者は人類初の殺人であるアベルからザカリヤに至るまで、預言者を殺してきた。人殺しではなく、 私たちは偽善の不必要なところに招かれている。

### りくだり フィリピ 2: 6 - 11 (待降節第二聖日)

キリストは、神の身分でありながら、神と等しい者であることに固執しようとは思わず、かえって自分を無に して、僕の身分になり、人間と同じ者になられました。人間の姿で現れ、へりくだって、死に至るまで、それ

も十字架の死に至るまで従順でした。

刑した。イエスは、 った。イエスの生き方こそ、へりくだりであった。しかし、人々はイエスのへりくだりを犯罪とみなし、 と誕生を同じ色で表してきた。イエスの生涯は、誕生から十字架まで、ただ一つの目的―私たちの罪の 贖 -のためであった。それは僕として仕える道であった。そのようなイエスは飼葉桶の中で生まれるしかなか アドベントでは悔い改めを表す色として紫の布を飾る習慣がある。受難節にも同じ布を飾る。教会では死 社会の隅に置かれた人—徴税人や罪人—と親しくしたが、周囲の反感を買った。 処

キリストの生き方には、代価を求めないへりくだりがある。そこに満ちる心の静かさがある。 求められる時である。錨は水中で船を守り、不平を言わず隠れる。「隠れる」表現が、へりくだりである。主 は隠れたところを見ておられる。水が最も低いところで静まるように、私たちの心も低いところで静まる。 番先に立とうとする人は最後のアンカー(錨)となれと言う。アドベントは錨となって深く沈むことが

#### 別 の道を通って マタイ 2: 1 - 12 (待降節第三聖日)

帰るな」と夢でお告げがあったので、 学者たちはその星を見て喜びにあふれた。家に入ってみると、幼子は母マリアと共におられた。彼らはひれ伏 して幼子を拝み、宝の箱を開けて、黄金、乳香、没薬を贈り物として献げた。ところが、「ヘロデのところへ 別の道を通って自分たちの国へ帰って行った。

ニアをはじめとする恐ろしい国である。東方とか占星術など、福音書には書きにくかったはずであるが、そ 十節に「学者たちはその星を見て喜びあふれた」とある。ユダヤ人にとって東方の国はアッシリアやバビロ のような屈辱的なことを書かざるを得なかった背景があった。ミカ書にメシヤの預言があるのだ。 クリスマス の物語は楽しく語られることが多いが、マタイの記事は悲しみの中に沈んでいる。ただ一ヶ所

わった。クリスマスはこのような意外性にある。占星術学者は黄金、 い東方の クリスマスの喜びを指し示すものとして、 人が、真先にイエスに会見した。 神から最も遠くにいると思われる人が、クリスマスの喜びを味 神は東方の占星術学者をお立てになった。ユダヤ人にとって罪 乳香、没薬をささげたが、ささげるこ

ない」と拾い上げ、用いて下さる。占星術学者は別な道を、守られて帰った。 福音は「決して小さくないところに与えられる」という(ミカ書)。小さいと嘆く私たちを、 2007/12/9 神は「小さく

とはクリスマスの意外性の一つであり、喜びである。

### 民全体への大きな喜び ルカ 2: 1 - 14 (待降節第四聖日)

栄光が周りを照らしたので、彼らは非常に恐れた。天使は言った。「恐れるな。わたしは、民全体に与えられ その地方で羊飼いたちが野宿をしながら、夜通し羊の群れの番をしていた。すると、主の天使が近づき、 る大きな喜びを告げる。 今日ダビデの町で、 あなたがたのために救い主がお生まれになった。…」

は に大きな活躍をした人でも、最後には世の周辺部に取り残される。そのとき本当の自分に目覚める。救 はずれの家畜小屋に生まれた。 周 世 辺部に、 の クリス 私たちと共にいてくださる。 マス の光景は賑やかであり、 神の救いは、 明るさに満ちている。 人の世界の最も周辺部や貧しさの極みの中にある。 しかしイエスは 世の 賑わ 1 から離れ 世でどんな れて、

まそうなったのではなく、 クリスマスである。 ってきたのだ。人のにぎわ 人里離れて生活する羊飼いは、世の「例外者」であった。その羊飼いに、民全体に伝えるメッセージが 救い主と共に自分を知る。 周辺部で生まれ、人にあざけられ、最後に十字架につけられたイエスの生涯は、 神の摂理であった。 į, .の中を駆け巡っているとき、自分のありのままの姿が見えない。 周辺部において、「神共にいます(インマヌエル)」の恵みを知らせるのが 愛がすべてを解決するわけではない。 周辺部において摂理を 周辺部 たまた B

見出す―このことこそ、解決につながる。

2007/12/16

# 神に栄光、地には平和 ― ルカ 2:8 - 20(降誕日)

すると、突然、この天使に天の大軍が加わり、神を賛美して言った。

「いと高きところには栄光、神にあれ、

地には平和、御心に適う人にあれ。」

Christmas の mass は messa であるから、Christmas は「キリストの礼拝」を意味する。降誕の意味はない。

イエスをキリストとして初めて告白したのは、ペテロだった。キリストはギリシャ語で「救い主」を意味し、

待たれていた。 「油を注がれた者(王)」を意味する。当時、人々を苦しみから解放する王・祭司・預言者を兼ねる救い主が 私たちの信仰生活そのものが、イエスをキリストと告白し、私の祭司となる生活でありた

47

がキリストの道を歩み、キリストとなっていく。つまり神の御言葉に従っていく生活に変えられていく。 イエスがキリストであることを本当にわかったとき、私たちはキリストという称号を得る。そのとき皆

者のために小さな業を積み重ね、神に祈る生活に変えられていく。 「いと高き…神にあれ、人にあれ」(二章十四節)は、待降節の期待や予言ではない。また、 御心にかなう

資格のある人に平和があれというのではない。御心にかなうように、主が導いてくださる。

### インマヌエルの信仰 マタイ 2: 13 - 23

主の天使が夢でヨセフに現れて言った。「起きて、子供とその母親を連れて、エジプトに逃げ、わたしが告げ るまで、そこにとどまっていなさい。ヘロデが、この子を探し出して殺そうとしている。」

約の箱を持ってきて神を操ろうとした。 意が先行した。 自分の立場を貫くためにイエスを殺した。信仰的であることを貫くため、人の言葉を聞かなくなる。サムエ デは赤子のイエスの殺害に失敗したが、ヘロデに代わって成功したのがユダヤ人指導者であった。 神殿を再建した。 の発言である新しい王の誕生の情報を耳にし、二歳以下の男子を殺し、近辺の疑わしい人を殺した。学者は ロデの命令に背いたので、ヘロデは大いに怒った。このようなことは私たちの信仰生活にもあろう。 クリスマスを暗くしたのはヘロデ大王であった。ヘロデはユダヤ人の人気を得ようと努力し、エルサレム ロ の 四章に、 神がともにいます「インマヌエル」ではなく、 契約の箱を先頭にして戦ったが敗北した記事がある。そこには神はおられなかった。 ローマの支配下にあったにもかかわらず、ユダヤ的な王国を作った。ヘロデは東方の学 神に共にいるように要求した。自分勝手に 指導者は ヘロ

業である。 信仰とい 信仰とは、 う名を掲げながら過ちを犯す、 主のあとから、主に従うことである。 自分の行きたい所へ神を連れてゆこうとする。 これはサタンの仕

したちの主イエス・キリストによって、わたしたちは神を誇りとしています。 であれば、 したちに対する愛を示されました。…敵であったときでさえ、御子の死によって神と和解させていただいたの わたしたちがまだ罪人であったとき、キリストがわたしたちのために死んでくださったことにより、神はわた 和解させていただいた今は、御子の命によって救われるのはなおさらです。それだけでなく、 わた

は、 務省の役人のとき天皇崇拝を命ぜられ、役人をやめて神学生になった。パウロは「余裕」と類似のことを「平 アウグスチヌスは の苦難を誇りとした。 我々は自分自身との不和を起こす。自分の置かれている状況を受け入れることができない。神との平和と 信濃町教会の山谷先生の自叙伝「渓流」を読むと、洗礼を受けた後の生活を「余裕」と表現している。 神が自分を受け入れてくださることである。だから背伸びする必要はなく、他人と比較する必要もない。 と表現している。 |節の「信仰によって導き入れられ」とは「イエスキリストへ近づきお目にかかれる」と訳した人がいる。 「秩序の静けさ」と訳している。「義とされた」とは神との正しい関係にあることを意味 秩序の静けさへと導かれる。 口語訳聖書では「誇り」を「喜び」と訳す。自分についての喜ばしい誇りである。 しか し信仰生活の多くは平和どころではなく、苦難と不平の連続である。 パウロはそ

信仰によって、

### 罪人を招くため ― マタイ 9: 9 - 13

るのか」と言った。イエスはこれを聞いて言われた。「医者を必要とするのは、丈夫な人ではなく病人である。 ファリサイ派の人々はこれを見て、弟子たちに、「なぜ、あなたたちの先生は徴税人や罪人と一緒に食事をす 『わたしが求めるのは憐れみであって、いけにえではない』とはどういう意味か、行って学びなさい。 わたし

イエスはなぜ人の姿になって現れたか、古くからの問いである。イエスは罪人を招くために世に現れた。

が来たのは、正しい人を招くためではなく、罪人を招くためである。」

人の能力や価値ではない。主がみずから、見捨てられた者に同席された。 招きに直ちに応答した。取り立てるものから与えるものに変えられた。 イエスがマタイを選んだのは、 その

通常、信仰に入るには、宗教を十分に納得したとか大きな奇跡を見たとかが必要である。

エスは食卓を生きた交わりの姿として喩に引き出した。 神の国が喩の世界に抽象化されるのではなく、

現実として食卓の席にあることを示している。

ら理屈では救い 聖書の中では罪人が救われているが、罪とは人の前で言えないことであり、祈りの中にも出てこない。だ がない はずである。しかしそこにイエスが手を差し伸べてくださる。「私の求めるものは憐

みである」からである。

008/1/13

マタイはイエスの

皆はイエスをほめ、その口から出る恵み深い言葉に驚いて言った。「この人はヨセフの子ではないか。」イエス は言われた。「きっと、 ムでいろいろなことをしたと聞いたが、郷里のここでもしてくれ』と言うにちがいない。」そして、言われた。 はっきり言っておく。 あなたがたは、『医者よ、自分自身を治せ』ということわざを引いて、『カファルナウ 預言者は、 自分の故郷では歓迎されないものだ。

てみよという。 ことになると自分勝手になる。 が描いているイエス像と実際のイエスとは異なった。社会の中で気に入らないことは耐えられるが、信仰 うことである。 の成句を読み、 ナザレは非常に小さい町だった。ガリラヤは異邦の地であり、反乱の地でもあった。イエスはヨベルの年 自分の気に入ったイエス像を神に要求した。 ナザレ 今ヨベルの年の喜びが訪れたと説いた。 の民衆は一度は褒めたものの、すぐさまイエスに対する憎しみに変わった。 平気で神を僕とみなす。 聖書では「褒める」とは褒めた事実を証言したとい ナザレの人はイエスに、今ここで大きな奇跡をやっ 郷里

る かにつまらない そのような神に恐れを持ってひれ伏すだろうか。黙し、御言葉に耳を傾け、自分の気に入っているものが 工 ルサレ ム教会は早い時期に消滅し、 ものかに気付 かされるのが信仰である。 キリスト教は郷里から離れた形で発展した。 自分の知らない イエ スに出会うとき、 道が開 か

0

それとも、ほかの方を待たなければなりませんか。」・・・(答)「行って、見聞きしたことをヨハネに伝えなさ い。目の見えない人は見え、 ヨハネは弟子の中から二人を呼んで、主のもとに送り、こう言わせた。「来るべき方は、あなたでしょうか。 人は聞こえ、死者は生き返り、貧しい人は福音を告げ知らされている。わたしにつまずかない人は幸いである。」 足の不自由な人は歩き、重い皮膚病を患っている人は清くなり、 耳の聞こえない

ザヤ五十三章の成就を表しているルカ七章二十二―二十三では、 僕としてのメシヤではなかった。イエスの言葉と行いを知れば知るほど、イエスを理解しにくくなった。イ いる。福音は体系や理論ではなく、人が癒される事実・証である。この素朴な事実を受け入れられるか、イ ヨハネは、なぜ弟子をイエスに遣わしたか。ヨハネが待望していたメシヤは、怒りや審判のメシヤであり、 イエスはヨハネに「実態を見よ」と命じて

工

スはヨハネに問うてい

け入れられた時は他者との利害が一致したときに限られることを知らずにいる。求めながら満たされないこ しい人は、誰にも受け入れられなかった、イエスを除いては。福音は貧しさの中にこそ見えてくる。 2008/1/27 人の営みは他者に受け入れられたい、認められたい、の連続である。それは本能に近い欲求であるが、受 罪 の状態である。 罪は包み隠すものであり、 自己中心的なものである。 だから人との関係を壊す。

が無駄でなく、労苦したことも無駄ではなかったと、キリストの日に誇ることができるでしょう。 ・・世にあって星のように輝き、命の言葉をしっかり保つでしょう。こうしてわたしは、自分が走ったこと

ていたからこそ、 益だけあって害のない遺産は「勇ましい高尚な生涯」であると主張した。その生涯とは、 に、 よって用いられ生かされたことを、かけがえのないものとして誇っている。他人と比較して誇っているので ように勧めている。 リピへの手紙は、 あることを信じ、それを人に伝えることである。また、神が私を捉えてくださることを信じることである。 パウロは、人が同じ失敗や誘惑の奴隷になりやすいことを良く知り、フィリピの人に、救いの道に徹する 人は徒労に耐えられないので、自分の人生は何であったか問う。その価値判断は人それぞれである。フィ パウロ自身も導かれていることを実感している。パウロの手紙の特徴的な言葉に「誇り」がある。 ウロ は獄で殉教死を覚悟していた。 自分の嘆きを知っている人がいること(詩編五十六) 明日の命が保障されていない獄中で書かれたので、心の奥深くが記されている。 殉教死をも喜びと感じた。 怖れおののく信仰こそ確かな救いに導く。フィリピの人が御言葉に導かれていると同時 救いの確信を持っていたから、 自分を主が受けとめてくださると信じていた。 が終わりの日に救いとなる。 さらに神との永遠の交わりを確信 希望と喜びの世で 内村鑑三は 主に

### ムナのたとえ ― ルカ19:11 - 2

で彼は、十人の僕を呼んで十ムナの金を渡し、『わたしが帰って来るまで、これで商売をしなさい』と言った。 イエスは言われた。「ある立派な家柄の人が、王の位を受けて帰るために遠い国へ旅立つことになった。そこ

ある。 そのひとりヘロデアケラオが王としてローマの許可を得るために、ローマへ旅立った。ユダヤ人はアケラオ れた事実を前にして、 は黙っていても一ムナを与えられ、神の恵みの中にいると考えていた。この一ムナを持っている人が ム入城との間にあり、 はその金を十倍にし、さらに十の町を支配する途方もない権利を得た。持分を最大限に生かすのが処世訓 イエスは当時皆が知っていた歴史を福音の題材に用いた。 を嫌って、ローマの直轄を陳情して、ローマへ使者を出した。陳情したユダヤ人はアケラオに皆殺しされた。 ムナのたとえには歴史的背景がある。ユダヤ人に嫌われていたヘロデ大王の死後、三人の息子が後継した。 ムナは十万円程度の価値であるから、 しか その人たちのためにイエスは自分を砕き、 ·し、イエスの主張はそれと異なる。この記事は徴税人ザアカイに救いがやってきた話とエ 一ムナを当然与えられた者として、 イエスが今後どのように行動するか、 特別な大金ではない。一ムナが平等に人々に与えられた。 神の御心を成就した。 何もしないでいられようか。 エルサレムの指導者は気をもんでいた。 あなたのためにキリストが死 指導者 イエス ルサレ ある人

どうか、平和の神御自身が、あなたがたを全く聖なる者としてくださいますように。また、あなたがたの 魂も体も何一つ欠けたところのないものとして守り、わたしたちの主イエス・キリストの来られるとき、

らす。 をさし伸べ 前のパウロにはありえないことであったが、それが今、パウロを生かした。神はこのような形で私たちに手 ウロはテサロニケに人に霊、魂、体の一致を祈っていたが、これは同時に、自分への祈りであった。 鼻に息をいれたとき、それが命となった―と記すが、人は神の霊のもとではじめて心と体が一体となる。 思いとは別な方向に行ってしまう私たち。つまり、心と体が一体になっていない。創世記二章に-分で制することのできないことを悔やむことについて、テサロニケに人に手紙を書いた。 平和を得るには、自分の努力などの内的なものではない。外にある新たなもの、異質なものが平和 「人生はリハーサルのないドラマだ」と言った人がいる。その場面ごとに一回だけの対処。パウロ うちどころのないものとしてくださいますように。 イエスが十字架上で、憎しみの中にある人を許してくださいと神に祈った異質な姿。ダマスコ途上の て下さる。 二十五節に「私たちのためにも祈ってください」と最大の使徒であるパウロは、 心がけていながら | 神 が人の 兄弟

たちに祈りを求めた。

この姿は十字架で人々への許しを求めたイエスに通じる。

### 万事が益に ― ロマ8:28

神を愛する者たち、つまり、御計画に従って召された者たちには、万事が益となるように共に働くというこ

とを、わたしたちは知っています。

生きる希望が湧いてくる。人々が十字架上のイエスを罵ったとき、イエスは人々の罪が許されますように祈 上げられることは、すばらしい。オーストリアの Victor Frank が第二次大戦中、収容所の経験を基にして「天 ください」と神に祈り、神と契約を結んだ。自分に降り注ぐ苦難分だけ、他人に苦難がないように祈るとき、 からの契約」という本を書いた。収容所で生死を分けたのは、体力の差ではなく、希望の有無であったとい ったが、その姿と類似している。 これは最もよく知られている聖句である。失敗や後悔の多い生活の中で、失敗を神の恵みに転換して数え 希望のない人は次々に死んでいった。「私は喜んで死を迎えます。寿命が短くなった分だけ、母に与えて

復活という形で完成し、神は万事を益とされた。 項目からできていると言われる。主との出会いによって、万事が益となる形で完成する。十字架による死は 二十七節の「執り成し」は、「我々のために」、「我々の弱さの中にあって」、「主は出会ってくださる」の三

2008/2/24

#### 理とは何か ヨハネ 18: 28 - 4 (棕櫚

の世には属していない。」そこでピラトが、「それでは、やはり王なのか」と言うと、イエスはお答えになった。 イエスはお答えになった。「わたしの国は、 「わたしが王だとは、あなたが言っていることです。わたしは真理について証しをするために生まれ、 にこの世に来た。真理に属する人は皆、わたしの声を聞く。」ピラトは言った。「真理とは何か。」 わたしがユダヤ人に引き渡されないように、部下が戦ったことだろう。 この世には属していない。 もし、 しかし、 わたしの国がこの世に属 実際、 わたしの国はこ

るの に人格的に私に迫ってくるものである。真理とはイエスキリストを、 本当に真理を知ろうとしていたのではない。真理とは聞かされて分かるものではなく、 ピラトは質問 あるはずである。 ユダヤ人はローマの権力によりイエスを殺したかった。 か、 邦人 神様」の品詞 神の子を殺すのか、どちらが重要なことか、著者ヨハネは読者に考えさせたかったのだろう。 .の家へ入るのは汚れであったので、清めを重視するユダヤ人は官邸に入らなかった。 イエスは した。 人から聞いたりしてわかるのではなく。 二千年もの は何かという問いがある。名詞ではなく動詞である。 イエスは真理 「自分はこの世に属していなくて、軍も王冠もない」と答えたが、それでも王なのかと 間 人々が闘ってきたものは、ピラトのこのような内なるささやきであ のために世に来たと言ったが、 主体的人格的に動いたとき、 一方、ピラトはユダヤ人の宗教論争に関わりたく ピラトは 人格を持って知ることである。 真理は抽象的なものでなく、具体的 「真理とは何か」とからか 神の方から生きるよう、 深い意味で人格的 清めを重視 つった。

愛するよう、

語りかけてくる。

#### 工 マオ途上の主イエス ルカ 24: 13 I သ (復活祭聖日)

緒にお泊まりください。そろそろ夕方になりますし、もう日も傾いていますから」と言って、無理に引き止め えていたではないか」と語り合った。 なくなった。二人は、「道で話しておられるとき、 祈りを唱え、パンを裂いてお渡しになった。すると、二人の目が開け、イエスだと分かったが、その姿は見え ちょうどこの日、二人の弟子が、エルサレムから六十スタディオン離れたエマオという村へ向かって歩きなが 一緒に歩き始められた。 イエスは共に泊まるため家に入られた。一緒に食事の席に着いたとき、イエスはパンを取り、賛美の 一切の出来事について話し合っていた。話し合い論じ合っていると、イエス御自身が近づいて来て、 しかし、二人の目は遮られていて、イエスだとは分からなかった。・・・二人が、「一 また聖書を説明してくださったとき、わたしたちの心は燃

主人になったとき、 を確認しようと、 た(三十二節)。弟子がイエスを食卓に招いた。その食事の間に主客が逆になった。二人の弟子がイエスの姿 がえりの主の方から二人の弟子に近づいてきた。見えないとき復活のイエスと語り合い、 見ているとき見えず(十六節)、目が開かれたとき見えなくなった(三十節)。これが著者ルカの信仰告白 人間の目からは、復活はありえないし、私たちの触れることのできる領域ではない。 つまり自分で見ようとしたとき、イエスを見失った。客であった弟子が自ら動こうとして 見えなくなった。己を主人とする人はイエスの姿を見失う。 お互いの心が燃え だからよみ

支えている時をいう。復活 エルサレムに帰らせたのは、一切を支えた永遠の時のゆえである。 イエスがパンを取り感謝しているとき、弟子たちはイエスであることを感じた。 体験である。弟子たちには永遠の時であった。 の主が見えなくなったとき、二人は思い出したくないエルサレ 永遠とは時の長さではなく、 2008/3/23 私たちの一切を包み込み、 聖餐は ムへ引き返した。 理論ではなく、

## エルサレムの広場に ― ゼカリヤ 8: 1 -

6

それぞれ、 万軍の主はこう言われる。 長寿のゆえに杖を手にして。 エ ルサレムの広場には 都の広場はわらべとおとめに溢れ 再び、 老爺、 老婆が座すようになる 彼らは広場で笑いさざめく。

う主 活基 されるエルサレ 主張した。 家カケイ氏 れたとき、 ーカリ 張するの 盤 0 形 ヤはバビロン捕 人には時に越えるべき山 は 次の 成 が  $\mathcal{O}$ ムは、 可能性がやってくる。 <u>\f</u> 通常であろうが、 前 っている彫像を造らず、 に、 老人が共にいる神の祝福 神殿を再 囚から帰ってきたころの預言者である。 建するよう主張 ゼカリヤ があり、越えられないとき後遺 ゼカリヤは王権や軍の中 は町に老人がゆっくり座することを予言した。 座っているか這 の場であった。 した。 その時 いずる像を造った。 の預言が八章である。 に次 ゼカリヤとハガイは捕囚後の自分たち  $\mathcal{O}$ 症 時 が 代の 出 る。 工 しかし、 それ ル サレムを見なかっ が本来の 強 1 王 ありのままを受け入 キリスト者 が 人の姿であ 町を支配 0 す ると る 復 彫 刻

み手 た人は、 集められた。 n 目 教会は 的 る。 の働く場をエ 向 教会は、 組 社会で失敗し、 かって進 一織体とか運動体とか言われることがある。 老人も集められ、 王 ル む必要がある。 0 サレ 命 令で目的 後遺症 ムに見た。 神 12 0 しか 向 のみ手にゆだねられてゆっくり座している。 ある人たちだった。 それが今の教会であ カン う軍 し、どちらにも当てはまら 隊とは異なる。 教会は召し集められ 組織体では、 ŋ 自主的 主はその真ん中に座られる。 に集まった な 11 制度や形を保つ必 人が た者の 沢 にのでは、 Ш ゼカリヤは、 į١ 集い る。 なく、 要が イエ エ 2008/4/6 クレシア) あ 神の導きに スに招き入 る。 このように神 運動 と言 れら 0

### 永遠の住まい — コリントII 5: 1 -

တ

込まれてしまうために、天から与えられる住みかを上に着たいからです。 うめいておりますが、それは、 います。それを脱いでも、わたしたちは裸のままではおりません。この幕屋に住むわたしたちは重荷を負って わたしたちは、天から与えられる住みかを上に着たいと切に願って、この地上の幕屋にあって苦しみもだえて 地上の住みかを脱ぎ捨てたいからではありません。 死ぬはずのものが命に飲み

人は本質的に裸であるが、実際には裸で生きられず、恥ずかしさや醜さを覆って生きている。 つ足りない服を着ていると言われ、不足分を一時的に手で補うが、そこから醜さが現れる。 我々は裸で生まれ、裸で彼処に帰る」(ヨブ記)ように生死を分けるとき以外、私たちは衣服を着ている。 人はボタンの 自分でボタン

が足りない服を着るか、完全な服を着せられるかである。

る必要がある。 中に隠れたとき、 私たちは自分の醜さを超えてキリストの義の衣を着せられることを願っている。 私たちは罪に満ちているが、キリストをとおして命に飲み込まれたとき、天の命の書に永遠 神から良しとされる。上から下までひとつで織ったイエスの服を、 神に着せられて神 完全な全存在として着 :の義に

に名前が残る。

そこに永遠の住まいがある。

008/4/13

### 悲しむものは ― マタイ 5:3 - 12

心の貧しい人々は、幸いである、 天の国はその人たちのものである。

悲しむ人々は、幸いである、

その人たちは慰められる。

幸いなことに違いない。しかし悲しみはそのまま悲しみであり、なくなったわけではない。問題は、「悲しみ 実な祈りを聞きとどめてくださらなかったかと、つぶやく。悲しみの涙をもって主に訴えることそのものは みを背負っているのはあなただけではなく、イエスキリストが共に悲しんでいてくださる。 が幸いである」と言ってくれる人は誰か、である。ルターは、「悲しみを担う人は幸いだ」と解釈した。悲し 本当に悲しんでいる人の前で、「悲しんでいる人は幸いである」とは言えない。悲しい時、なぜ神は私の切

とき、人を悲しみのどん底に落とす。世界の悲しみを一人で担っているように思う私たちに、否というため、 イエスキリストが世に来られた。イエスが共にいることを知った時、自分の悲しみではなく人の悲しみに涙 を生じさせる不信仰という罪がある。主が共に居ることを見失うとき、悲しむ。また、悲しみを絶対視する

どんなことを悲しむのが幸いなのか。高級な悲しみとか次元の低い悲しみはない。どんな悲しみも、それ

する生き方に変えられる。

### キリストを得るため フィリピ 3: 7 - 11

そればかりか、 しかし、わたしにとって有利であったこれらのことを、キリストのゆえに損失と見なすようになったのです。 キリストのゆえに、 わたしの主キリスト・イエスを知ることのあまりのすばらしさに、今では他の一切を損失とみ わたしはすべてを失いましたが、それらを塵あくたと見なしています。 キリス

正 なる。信仰の成熟度は、自分と異なるものをどのくらい受け入れるか、その人がどれほど御言葉に生かされ ているかである。 の箱の前で踊った。妻ミカルはダビデの姿が王にふさわしくないと蔑んだ。(サムエル下六章) これ ことにより、 つ積み上げる生活をしている。低いものから高いものを求める。上から与えられたものであることを忘れ 論である。 パウロは当時の社会の第一級のエリートだった。学歴、 キリスト者には様々な生き方がある。ダビデがペリシテ人から神の箱を取り返したとき、喜びあふれて神 追求した全てを塵芥(ちりあくた)とみなした。私たちは益なるものを選び取り、 しかし、ダビデは喜びを神に示したかったのだ。自分が大切と思っている事柄は、 キリストの内にいる者と認められるためです。 これは型にはまった静的な信仰ではなく、人と環境によって変わるキリストに支えられた 地位、家柄を追求したパウロは、キリストを知る ひとつひと 他人には異

62

動的な信仰である。

### 愛がなければ — Iコリント 13: 1 - 7

愛は自慢せず、高ぶらない。 完全な信仰を持っていようとも、愛がなければ、無に等しい。… 愛は忍耐強い。愛は情け深い。 たとえ、預言する賜物を持ち、 礼を失せず、自分の利益を求めず、 あらゆる神秘とあらゆる知識に通じていようとも、たとえ、山を動かすほどの いらだたず、 恨みを抱かない。 ねたまない。 不義を喜ば

ず、真実を喜ぶ。

すべてを忍び、すべてを信じ、すべてを望み、すべてに耐える。

質や自然に湧き起こってくるものではなく、上から与えられるものである。聖書学者の塚本虎二先生は、 東大震災ですべてを失ったとき「神は愛なり」の声を聞いたという。 人のために自ら忍び耐えて、努力を積み上げる人はいない。つまりパウロの愛は、「愛の人」として努力や特 であるかのように。パウロの主張する愛は、単なる親切や気の配りだけではなく、「忍び耐える」愛である。 であることを強調した。四節からは、「愛」が人格のように主語になっている。あたかも愛がイエスキリスト コリントの教会では、異言を語る競争をしていた。パウロは愛が異言や預言、さらに沈黙をも超えるもの 関

63

自分の外側から語られるものである。ヨハネ第一の手紙四章では、愛は上からの賜物であると告白している。 愛は、世にいう順調な時に心に浮かぶものではなく、逆境が与えられ自分の傲慢さを打ち砕かれる形で、

#### 聖霊降臨と教会の誕生 使徒言行録 2: 1 I 4 (聖霊降臨日)

え、 五旬祭の日が来て、一同が一つになって集まっていると、突然、激しい風が吹いて来るような音が天から聞こ すると、 彼らが座っていた家中に響いた。そして、炎のような舌が分かれ分かれに現れ、一人一人の上にとどまっ 同は聖霊に満たされ、"霊"が語らせるままに、 ほかの国々の言葉で話しだした。

本来そのような場であり、決してすがすがしく神の霊を仰ぐところではない。 教会会議が行われ教会の設立の場でもあった。歴史的には誇り高い場であるが、かつてはここで弟子の裏切 ある言葉の象徴である。これが起こったのは、二階の広間であった。ここは最後の晩餐の場であり、 日後、風と火と舌のようなものが弟子たちに現れた。風は自由の象徴、 を受けなさい」この三つを弟子たちに命令された。弟子たちはそれを守り、祈りの生活を送っていた。 イエスは あり、 栄誉を求めて弟子が言い争った場でもある。人の弱さと貧しさを集めたような場所。教会もまた、 一章四節において「エルサレムを離れるな」、「約束されたものを待ちなさい」、「聖霊による洗 火は罪の浄めの象徴、 世に誇るものがない貧しさの 舌は神の愛で 最初 五十

霊降臨ではイエスによって注がれた聖霊が世界に広がって一つとなることを意味している。 福音が の言語 で語られ始めた。 バベ ルの塔の言語の 分裂は、 人の交わりの分裂を現わ してい たが、 中で、待ち続けて聖霊を受ける場である。

たは安らぎを得られる。わたしの軛は負いやすく、わたしの荷は軽いからである。 わたしは柔和で謙遜な者だから、わたしの軛(くびき)を負い、わたしに学びなさい。そうすれば、あなたが

軽い。重荷を負っている隣人のただ中に入って、その重荷を取り除くことはできない。できることは、共に 人を生かしたとき、「私のくびきは歌となった」と告白した人がいる。 人の荷をも背負うと、天秤担ぎのように荷が軽くなる、と、 なぜ人の重荷まで背負わなければならないのか。自分の荷だけ背負っていると重さしか感じられない ンマを打ち破るのが、イエスキリストとの「くびき」の共有である。 なかった。が、真剣に守ろうとすると、守れない自分にがっかりして重荷を背負うこととなった。このジレ 人律法を全うすることであった。ユダヤ人は、 私たちの重荷は、 エスは重荷を負っている人に、「私のくびきを負え」と言われた。自分の重さを背負うのに精 病気や死、社会的な重荷、 神の民であるという誇りの故に、 人間関係の問題などである。聖書の世界での重荷は、ユダヤ ある牧師は言われた。 愛をもって重荷を共有した時、 律法を確実に守らねばなら 隣人と重荷を共有して隣 杯 なのに 重荷は 他

2008/5/18

祈ること。

重荷を取

ら除いてくださいと祈るのではなく、主と共に歩むことができますようにと祈るとき、

くびきは主にゆだねられる。

#### 主 $\overline{\mathcal{O}}$ 言葉の権威 ルカ 4: <u>ယ</u> 37

負わせずに出て行った。 イエスが、「黙れ。この人から出て行け」とお叱りになると、 「ああ、ナザレのイエス、かまわないでくれ。我々を滅ぼしに来たのか。正体は分かっている。 人々は皆驚いて、 互いに言った。「この言葉はいったい何だろう。 悪霊はその男を人々の中に投げ倒 権威と力とをもつ 神の聖者だ。 の傷も

な褒め言葉を言わず、 近に感じたに違いない。悪霊と交わすイエスの言葉には、 を示す。また、民衆は噂によって神を知る。 に聖から遠いものであるかを知った。この人は悪霊を持っているが故に、イエスに対して社会になじむよう ペテロとアンデレ、 つまり精神病者と出会った。 カファルナウムは、イエスが育ったナザレと異なり、イエスが人間関係を選び取った第二の故郷であ 威を感じた。 て汚れた霊に命じると、 人の 徴税人マタイ、ヤイロの娘などの出身地である。その地でイエスは悪霊につかれた人、 説明、 本当のこと「神の聖者」 出て行くとは。」 悪霊とイエスの出会いは火花が起こるような激しさであり、 人の思惑、 社会の しかし悪霊はイエスと衝突するがごとく出会って、イエスを身 と告白した。 動 向とは無関 権威と力があった。 世の指導者は互いに論じ合うことによって神聖 係 1 工 スの権威と力が私たちに注がれ 悪霊はだれよりも先にイエス 悪霊は自分が 如

66

悪霊

のようにイエスと衝突するがごとき出会い、

ここには迫るものがある。

そこで、イエスは言われた。「行きなさい。あなたの信仰があなたを救った。」盲人は、すぐ見えるようになり、 イエスは、「何をしてほしいのか」と言われた。盲人は、「先生、 目が見えるようになりたいのです」と言った。

なお道を進まれるイエスに従った。

沢山あり、私たちは叫ぶ力さえ失いがちである。叫びはまた、社会の不協和音であり、迷惑になる。イエス 声を上げた。 が盲人に「何をして欲しいのか」と問うたところ、「目が見えるように」との一点を答え、 過ぎ越しの 人生のうちで叫び声を上げることは、 祭りのために、 多くの人がエルサレ ムに向かっていた時、盲人バルテマイがイエ 稀である。 自分の欠陥部分は、一つ一つ叫べない イエスに強く求め ス の前 、ほどに で叫

た。これがイエスを捉えた。

る中に救 てから一週間後、バルテマイは十字架上のイエスの叫び「ラバサバクタニ」を聞くことになる。 篇十五に「悩みの日に私を呼べ」とある。神がいないような姿勢で悩むな、と言われる。 イエスが 人々に望んでいるのは、 のあることを、バルテマイは見える目で見て、 人々が肉体的にも精神的にも見えるようになることであった。 告白した。後世の人は、 道端で救いを求めたひと 盲人の目が開 叫んで求め 詩 か 五.

りの盲人の名を、

わざわざ聖書に記し残した。

### 食卓の豊かさ ― マタイ14:1 - 21

美の祈りを唱え、パンを裂いて弟子たちにお渡しになった。弟子たちはそのパンを群衆に与えた。 弟子たちは言った。「ここにはパン五つと魚二匹しかありません。」イエスは、「それをここに持って来なさい」 群衆には草の上に座るようにお命じになった。そして、五つのパンと二匹の魚を取り、

ロデがヨハネを殺したのは大事件であった。ヘロデの誕生日には大食卓が準備され、何でも要求できた。

すべての人が食べて満腹した。そして、残ったパンの屑を集めると、十二の籠いっぱいになった。

ハネの首までも

与えてくださる。十七節に「五つのパンと二匹の魚しかない」と、弟子たちは手に持つ食べ物を、否定の言 するほどに祝福された。ささやかな物でも神の前に差し出すことによって祝福され、大きな実を結ぶ。もし い方で表現した。 かな五つのパンと二匹の魚を比較したかった。荒野では、少年が差し出したわずかなものが、五千人を満足 かがパンを自分のためだけとして食べたら、 マタイは虐殺の直後に五千人への給食の記事を記した。 私たちは いつも、 これしかないと否定する。 飢餓が始まる。人と分かち合うことによって、神は豊かさを 宮廷における豪華な食卓と、荒野におけるささや しかしイエスはそれを用いて、 肯定に変えら

れた。信仰は否定を肯定に変える。

### キリストのしもべ ― ガラテヤ 1: 10

の気に入ろうとしているなら、わたしはキリストの僕ではありません。 いるのでしょうか。あるいは、何とかして人の気に入ろうとあくせくしているのでしょうか。もし、今なお人 こんなことを言って、今わたしは人に取り入ろうとしているのでしょうか。それとも、 神に取り入ろうとして

然りと言う。何事にも喜ばれようとするとなれば、人に付くしかない。しかし、人に取り入ることはその場 喜ばれようとするとき、私たちは自分が主となり、自分が高くあげられることを喜ぶ。 限りの解決であり、 細かい注意を払いながら、という心持ちであろう。一方でパウロは、神の国で然りであれば世に拘泥せずに にうまく生きていける。パウロはコリントIの十章三十三節で「わたしもまた、何事にもすべての人に喜ば れるように努め」と言い、自分を犠牲にすることを厭わないと言う。「何事にも」とは、枝葉のことがらでも 人に喜ばれるような生き方をしたいと願っている。人に喜ばれれば、 神に付く生き方は、歴史形成の大きな流れの中で見えてくる一つとなるであろう。人に 困難なことがあっても、

となって福音を受け入れる。その福音とは、喜びをもたらす前に、ひとたびは人を苦悩に陥れる。 決定的なことは、「人の気に入ろうとしているなら、キリストの僕ではありません」である。キリストの僕

22/6/80

# わたしにつまずかない人 ― ルカ 7: 18 - 23

病を患っている人は清くなり、耳の聞こえない人は聞こえ、死者は生き返り、貧しい人は福音を告げ知らされ 「行って、見聞きしたことをヨハネに伝えなさい。目の見えない人は見え、足の不自由な人は歩き、重い皮膚

ている。

わたしにつまずかない人は幸いである。」

弟子を遣わして、イエスに尋ねる。ヨハネでさえ迷ったのだ。イエスは祈る気持ちで、 つまずかない人は幸いである」と言った。 イエスは、バプテスマのヨハネが期待していたメシヤ像とは異なっていた。そこで獄中にあったヨハネは ヨハネに「わたしに

貧しい人、病人、これらの人の所に身を置かれたイエス。そのあり方は社会の役に立たないばかりか、社会 動きを妨げるほどであった。しかし、福音はそのような人に向けて語られた。 イエスにつまずく人は、大勢いた。 イエスの存在そのものが、つまずきでもあった。盲人、歩けない

求める。浮き輪とか竿とか船とかの物ではなく、人は最終的には、人を頼む。ヨハネは獄中で希望が見えな ヨハネは「来るべき方はあなたでしょうか」と人を求めた。人は溺れかけている時、誰か助けて、と人を 人を求めた。 この世の最も小さく弱い者たちと共に居給う主、インマヌエルを求めた。

008/6/29

## 主の庭で過ごす一日 詩篇

門口に立っているのを選びます。 あなたの庭で過ごす一日は千日にまさる恵みです。主に逆らう者の天幕で長らえるよりは に幸いなことでしょう。 主は太陽、 盾。 神は恵み、栄光。…万軍の主よ、あなたに依り頼む人はい わたしの神の家の

カ

するという目標を家族と共に共有した。 動き回っているけれど、 喜びも充実感もなく生きているのが現代人である。 イエス一家もまた、成人となる十二歳の折に、 この詩 人は、 長い旅を共にしてエ 主の祭りに参加

点は、 巻くなかで、 生活が、それを良く表している。 までの生活を受け取りなおし、 から遠く離れさせる。 の奥に何か重要なものが隠されていると信じ、 ルサレム神殿を訪れた。 私たちの生活は週から週へ渡っていく巡礼の旅である。そこでは定住が許されない。 出来事を偶然のものとせず、上からの深い導き手であったと告白することである。 自分の希望通りには動かない私たちの生活。 この詩人は嘆きの谷の中に入っても、 主の庭で過ごす感謝する生活となる。それが信仰である。 遊牧の旅人は、虚無と無関心と戦った。空しく思えることがあっても、 求め続けた。 しかし、 泉を見出した(七節)。偶然と虚無と無関心の渦 偶然と虚無と無関心は求めることを拒み、 その中にあって求め続けていくとき、 旅を続ける人の共通 アブラハムの遊 祈り

# 私を受け入れるもの ― マルコ 9: 33 - 37

入れる者は、わたしではなくて、わたしをお遣わしになった方を受け入れるのである。」 「わたしの名のためにこのような子供の一人を受け入れる者は、わたしを受け入れるのである。わたしを受け

始めとする霊的な高揚があった。 心を見通すイエスを前にして、沈黙せざるを得なかった。 間に誰が一番偉いか、 イエスの一行は異邦人のいる危険地帯であるフィリポカイザリアを通った。そこで「ペテロ信仰告白」を の議論が始まった。何を論じているのかとのイエスの問いに、弟子たちは沈黙した。 故郷のカファルナウムへ来ると、その緊張が解けた。 その時、 弟子たちの

る。 今あるがままであれと言われる。主は私たちの心を深くご覧になっているが故に、 ささを受け入れるものが神を受け入れる、 は弱さ、無力さ、小ささを表している子供を取り上げ、幼子の価値のためではなく、イエスの名のために小 は全く受け入れられないことである。上へ上へと行こうとする私たちに向かって、 「一番先になりたい者はすべての人の後になり・・」は聖書を知っている人には当たり前だが、 一番になってもいいが、 イエスの言われる一番の意味は、積極的な謙遜である。その例として、 と言われる。 幼子を真ん中に置かれたイエスは、 イエスは否と言われる。 むしろ下へ行けと言われ 最も弱いも 世 イエス 一の中で

象徴として馬小屋で生まれた日の姿と重なり合う。

## 傷ついた葦 ― マタイ 12: 9 - 21

いた葦を折らず、くすぶる灯心を消さない。 を知らせる。 「見よ、わたしの選んだ僕。わたしの心に適った愛する者。この僕にわたしの霊を授ける。 彼は争わず、叫ばず、その声を聞く者は大通りにはいない。 異邦人は彼の名に望みをかける。」 正義を勝利に導くまで、 彼は異邦人に正義

ずる。 汚れた物に近づかず、善かれと思うことをする日であった。 とこそ、安息日の本質である。「傷ついた葦」のイザヤ書の引用は、マタイ自身の信仰告白である。安息日は た人を救うのが安息日の本質ではないかと問うた。命を与えられて神の愛の中に置かれていることを知るこ は祈る人が とを表している。当時、障害をもつ者は罪の結果と考えられ、社会から疎外された。疎外された人のために ヤ人は安息日を守ってきたが、安息日がユダヤ人を守ってきたとも言われる。 者と扱い、 二十節の ユダヤの むしろ肩の力を抜いて、あるがままの姿で神の前に立つとき、本当の安息が得られる。 仲間にいれたくなかった。だからこそ、ユダヤ人の特異性が長い間保たれたとも言えよう。 ľ١ 周 「傷ついた葦を折らず、くすぶる灯心を消さない」とは、弱い人をつぶさずに生きるよう導くこ なかった。そこにイエスが 囲の民族は、 ユダヤ人が安息日をはじめとする律法の順守に厳格だったため、ユダヤ人を厄介 ,現れ、 かけがえのない一匹の羊が穴に落ちた例を出し、片手の萎え 善かれと思ってもできない人がいると差別が 2008/7/20 ユダ

あなたがたのことを思い起こす度に、わたしの神に感謝し、 をもって祈っています。それは、あなたがたが最初の日から今日まで、福音にあずかっているからです。 あなたがた一同のために祈る度に、いつも喜び

活に変えられていく。 慮してくれるより更に多く、 祈りへと変えられていく。生きる方向が自分のことから他者へと向かう。神による生まれ変わりである。 人で苦しむな、イエスキリストが共に苦しんで下さる、と説いている。 あきらめずに神を呼び求める、この姿勢こそ信仰である。詩篇五十篇に「苦難の時に私を呼べ」とあ 人のために祈りをささげ、その中に喜びを見出す生活をしたい。 人が救われるのは律法の行いによるのではなく、キリストへの信仰によるとの確信である。 フィリピの教会へのパウロ 聖書では 人、貧しい人を真っ先に受け入れた。 「苦しい時の神頼み」をある意味で積極的に推奨している。イエスは障害をもつ人や世に受けら その時、自分のためにだけ神に求めた姿勢が、今苦しんでいる人のための取 神はわたしに配慮していてくださる。苦しみを抱えているにもかかわらず、 の祈りは、まさに他者のための祈りである。このような祈りへと導い 神は私たちの生活を隅々まで知っておられる。 呼び求めた結果、苦しみが喜びの生 最も苦しい時に 人がわたしに配 たのは、 りな

74

他

わたしの咎をことごとく洗い、罪から清めてください。 神よ、わたしを憐れんでください。御慈しみをもって、深い御憐れみをもって。背きの罪をぬぐってください。

て祈った。虫のよい祈りだが、ダビデにはそれ以外に解決法がなかった。神の御前で真っ直ぐ立つことので あったダビデ王は、部下ウリヤを前線で戦死させ、ウリヤの妻バテシェバを妻とした。ダビデはそれを悔い を隠しながら生きている。神をたえず怖れて生きたダビデにも、隠すところがあった。 聖書で言う清さとは、単純、影のないこと、隠れたところのないことを意味している。私たちは醜 軍人であり詩

きないものを感じていたのだ。

ちが自ら清めて努力できるものではない。ユダヤ人は、文字を読めない人や律法を理解できない人を汚れと かれ、祈りによって新しくされる。自らを砕いて十字架の道へと歩んだのがキリストである。 ものである。 して退け、みそぎに専念して満足を得た。人は努力して創り上げるものではなく、神の前に立って砕かれる いので、「清い心を創造してください」は第二イザヤの言葉と言われる。創造できるのは神一人であ |創造||という言葉は、旧約では捕囚期に書かれた第二イザヤ (イザヤ書四十―五十五)以外には出てこな 「神の求めるいけにえは、打ち砕かれた霊(十八節)]とあり、砕かれた魂は悔 い改めの道へと導

エスはこれを見て憤り、弟子たちに言われた。「子供たちをわたしのところに来させなさい。妨げてはならな イエスに触れていただくために、人々が子供たちを連れて来た。弟子たちはこの人々を叱った。

子の考えだった。この聖句は、信仰には幼子のような素朴さが必要だと解釈されることもあるが、イエスが 得ようとして集まる。子供にはイエスの話など分かるはずはないから子供を寄せ付けるな、という合理が弟 (ユダヤ教の教師) 神の国はこのような者たちのものである。…」 が旅をするとき、弟子に囲まれた集団が動くので目立った。 人々がラビの祝福

論争が登場する。 てきた歴史がある。教会では人の支配が問題になることがあり、マルコ九章にも、誰が一番偉いかと弟子の 宗教改革の主張である。しかし、「信仰のみ」が差別に変質する可能性がある。教会は信仰のない人を差別し 弟子たちになぜこれほど憤慨したのか、それでは説明がつかない。イエスは幼子そのものを受け入れようと したのだろう。子供、障碍者、病人は弱者の代表である。イエスはその人らを条件なしで受け入れた。 教会への所属が救いである」というのはカトリックの主張であり、信仰さえあれば救われるというのが 自分の都合のよい神を作っていないか。神に知られている自分に気づくことが信仰である。2009/8/10 教会は仕える場でなくてはならない。聖書を正しく学ぶことは大切だが、学んだ人は神を

おり、その人の内から生きた水が川となって流れ出るようになる。」 「渇いている人はだれでも、わたしのところに来て飲みなさい。 わたしを信じる者は、聖書に書いてあると

た。ニコデモはイエスに関心を寄せながらも遠くから眺めていて、イエスの集団には入らなかった。著者ヨ 得たのか」のように、血筋や学歴を問題にした。パリサイ人は律法をわきまえないイエスをとらえようとし ハネは、あなたはどの人の立場にいるのだろうかと、問いかけている。 出ろとイエスに言い、群衆は「メシアはガリラヤから出るだろうか」とか「どのようにして律法の知識 七章に登場してくるのは、兄弟、群衆、パリサイ人およびニコデモである。兄弟は有名になるように都会

それが消えて問題にならなくなったとき、「どこから」ではなく「どこへ」の希望が見えてくる。「どこへ」 入れる条件に、「渇いているならば」がある。渇いているからこそ祈り、主の導きが見えてくる。2008/8/17 を導くのが生きた水。生きた水は川となって流れ出し(三十八節) 人を希望へと導く。 の質問と同様に、自分はどこから来たか、つまり血筋や学歴また育ちや富など社会の風評などを自分に問う。 してイエスは、自分の意志ではなく神の命令で世に来たと答えた。人々はイエスに対する「どこから来たか」 人々はイエスの話ではなく、キリストは誰か、どこから来たのかとの問いに関心があった。その問いに対 ただし生きた水を受け

# 強く生きよ ― Iコリント 16: 13 - 14

目を覚ましていなさい。信仰に基づいてしっかり立ちなさい。雄々しく強く生きなさい。

何事も愛をもって行いなさい。

作り出す強さであり、こう言うことこそ、弱さの象徴である。聖書はそのような弱さを求めていない。 わかってくるし、人をも受け入れられる。あなたは怠けているから弱くなる、という理屈は、周囲に弱さを である。自分の弱さに気付いたとき、または、自分の中の強さと弱さの両面を知ったとき、はじめて強さが 不安や不確実さの上に立っている。不確実さに頼るから、生きる中心を失う。うろたえる人を受け入れて是 の自分であれ、自分の弱さを受け入れよ、与えられたものに満たされよ、迷っている人は迷いを受け入れよ」 ある。パウロの命令は、「強く立派になったことがないのにそれを目指せ」というのではなく、「あるがまま パウロはコリントの教会に向かって「強くあれ」と言った。誰でも強くなりたいが、なれないのが実状で イエスに見つめられ、暖かい豊かさに支えられながら生きる。これが、、聖書の示す道である。人の強さは

るものである。イエスキリストが、私たちの弱さに直接にかかわってくださる。分裂である十字架を超えて、 としてくださるのが、神の愛である。愛は勝手気ままな感情ではなく、弱い者に関わって、分裂を結びつけ

私たちを愛で結びつけられた。

2008/8/31

# あなたの家に泊まりたい ― ルカ19:1-1

「ザアカイ、 急いで降りて来なさい。今日は、 ぜひあなたの家に泊まりたい。」

のが、 望を断たれたとき「ローマへ行かねばならない」と神の声があった。 むなしく去って行く人もいた。 声にあずかる。その声は、 出し、主体的な自由な気持ちで財産を出すことを宣言した。この救いはザアカイ個人から家全体へと広まる。 い」と言われた。ザアカイの生涯にとって奇跡であった。木から降りて、ありのままの自分をイエスに差し は身分も考えず、 カイは民衆に嫌われたばかりではなく、背が低くて見栄えの面でも社会に溶け込んでいなかった。 神の御心は 徴税人はローマの手先で、 イエスの第一回目の受難予告は「三日目によみがえらねばならない」であり、パウロがローマへ行く希 聖書の書き方である。 「あなたの家に泊まらねばならない」であり、 木に登ってイエスを求めた。イエスはザアカイを特別に選び出し、「あなたの家に泊まりた 成功、 ザアカイは神の「ねばならない」を単純に受け入れたが、富める青年のように 同胞から金を取り立てていたから、ユダヤ人の間では罪人とされていた。ザア 神の 不成功に無関係である。 「ねばならない」を、 神の声があったとき、人の感情によらず事が進 必要不可欠なものとして受け入れることこそ信仰 神はザアカイに対するえこひいきを良しとされ 神に招かれた人は 「ねばならない」の ザアカイ

である。

人の子が、仕えられるためではなく仕えるために、また、多くの人の身代金として自分の命を献げるために来 あなたがたの中で偉くなりたい者は、皆に仕える者になり、いちばん上になりたい者は、皆の僕になりなさい。

た。しかしその思いは人を出し抜く。弟子にとっては、誰が偉くなれるかは切実な問題だった。弟子の求め エスに、二人の息子が一生を賭けていいものなのか、母は不安だった。母は正直な思いをイエスに打ち明け 二人の弟子とその母は、 適切な地位が与えられるよう、イエスに願い出た。 世の評価が定まらなかったイ

イエスは自分の命を捨てて、人に仕えた。仕えることによって人を出し抜くのではなく、共に歩み、 に意味は「地をくぐって泥をかぶる」ことで、イエスの言われる「仕える」は、十字架を通ることであった。 言われた。仕えるには低くならねばならない。それが十字架であり、仕えることの印である。「仕える」の元 の杯を飲めるか」と言われ、十字架の苦しみを示唆された。同時に、仕えることが真に求めるべきものだと ていたものは、王座に着く輝きであった。 イエスが十字架にかけられた時、真に求めるべきものは何か、弟子たちは初めて分かった。イエスは

いう目標から他人という目標に案ずる視点が変わってゆく。

した。なぜなら、ケファは、ヤコブのもとからある人々が来るまでは、異邦人と一緒に食事をしていたのに、 さて、ケファがアンティオキアに来たとき、非難すべきところがあったので、わたしは面と向かって反対しま

ペテロは人々の目を恐れ、キリストの恵みだけに生きるのを心もとなく感じた。同様な例は、旧約聖書に種々 見られる。モーセがシナイ山にいるとき、民衆は身近に手に触れ得る神を求めて、金の子牛像を造った。 ペテロ(ケファ)は異邦人と食事をしたが、規律を守るエルサレム教会の人を恐れて食事の席を引き上げた。 ユダヤ人は他民族の人と食事をしなかった。 彼らがやって来ると、割礼を受けている者たちを恐れてしり込みし、身を引こうとしだしたからです。 しかしイエスは多種の人々と食事を共にした。それに倣って

81

悲しいことである。 なく、真理に沿って生きたかどうかで決まる。 も同じようなところがあると語っている。自分の歩んできたものが無駄だったと思わざるを得ないのなら、 無駄でないと知ることは救いである。無駄かどうかは、結果や社会の目が決めるのでは 福音の真理は無駄を超えて喜びをもたらす。 自由(二章四節

込んで人を揺さぶる偽(にせ)兄弟がいた。信仰の仲間が真っ直ぐに歩んでいないのを見て、パウロは自分に

人が神の恵みに気がつかなくなったとき、人を恐れるようになる。ガラテヤの教会にも、心の隙間に入り

が真理を説明し、解放の喜びへと導く。

### 信仰の歩み Iテサロニケ

どうか、その歩みを今後も更に続けてください。 ばれるためにどのように歩むべきかを、わたしたちから学びました。そして、現にそのように歩んでいますが、 さて、兄弟たち、主イエスに結ばれた者としてわたしたちは更に願い、また勧めます。 あなたがたは、

地まで辿り着かなくても目的地に向かう希望がふくらむ。 込まれた事実が重要である。歩くことによって、信仰の完成から遠ざかることを感じることもあるが、 いる。信仰を考え方や知性に置き換える人もいるが、信仰は座って考えることではなく、 い者比べをしていたが、イエスの死後に使徒行伝に現れる弟子は、目的に向かって留まるなく歩み続 信仰とは歩むことによって神を喜ばすこと、とパウロは言う。 イエスと共にいた頃の弟子は、方向が分からずに 聖書は信仰の表現として「歩み」をよく用 絶えず動いて刻み ける。

では 信仰生活に希望を与える。 私は道であり、真理である」では先に道があり、道があるから真理が見えてくる。エペソ信徒への手紙 神の愛の広さ、高さ、深さ、長さを理解するよう求めている。特に長さは重要で、 歩み続けた長さが

けなく私の前 たマナは、翌日腐っていた。マナは通常の食物とは異なる。 出エジプト十六章に朝ごとに与えられるマナの記事が出てくる。昨日の物で間に合わせようと余計 止まるな、 に現れ、 歩き続けよ、 私の所有物となる。マナのように朝ごとに新しくされるのが信仰の歩みである。 神の永遠性にあずかるまで。 つまり、 私と異質な他者として、新しく思い

2008/9/28

### 主のあわれみ ルカ 7: 11 - 17

その母親はやもめであって、町の人が大勢そばに付き添っていた。主はこの母親を見て、憐れに思い、「もう イエスが町の門に近づかれると、ちょうど、ある母親の一人息子が死んで、棺が担ぎ出されるところだった。

泣かなくともよい」と言われた。

ラザロの復活(ヨハネ十一章)でもイエスは激しく感動された。ギリシャの世界では、人の情に動かされる神 をもって挑戦し、私たちと共にいてくださり、この母は主の姉妹になった。 は本当の神ではないと考えられていた。しかしイエスは、人をどん底に落とし入れる悲しみに対して、怒り と言われた。イエスは神が取り上げた息子を母に返し、悲しい葬式の列を、神を賛美する喜びの列に変えた。 失った子の葬儀の列にイエスの集団が通りかかった。イエスは深く同情し、棺に手をかけ、「起きなさい」

は一匹の羊、 な」と「起きよ」の二つの言葉をもって死に勝利された。 現代の社会は、できるだけ広く理解できるように、すべてが統計的、平均的に処理される。 一粒の種、一人の人間に関心を寄せられる。 イエスは一人の人に目を向けられて同情し、「泣く しかしイエス

# ついて来なさい ― マタイ 4: 18 - 25

イエスは、「わたしについて来なさい。 人間をとる漁師にしよう」と言われた。

二人はすぐに網を捨てて従った。

病気、 れぞれ固有の苦しみを持ち、死に至る苦悩から小さな悩み事まで幅があるが、神の真理に近づく最大の回答 の度合いが高くても低くても、神から与えられる解決は最大の恵みの形で与えられる。教会へ集う人々はそ 民衆はイエスの到来を歓迎した。 苦しみから、ただ解放されるためにイエスを迎えた。人によって苦しみや悩みの程度は異なるが、そ 神の真理や義を求めていたのではなく、多くの民衆が抱えていた悩み、

を祈り求めればよい。

を超えて「はい」に尽きる。イエスは、人それぞれ与えられた今の環境のもとで「ついて来い」と言われる。 条件は何もなかった。 召されたのは、ペテロ等の知識が豊富とか、 イエスの召しに「はい」と応えると、 神は社会条件には無関係に人を召される。だから召された時の応えは、私たちの事情 運命論的で生物的生存から、人を活かす主体的な生活へと変えられて 話がうまいとか、人気があるとかではなく、 漁師 以外の 特 莂 な

ペテロやヨハネは、代々続く漁を営む平凡な日々の繰り返しであった。そこにイエスが現れた。イエスに

イエスは言われた。「『できれば』と言うか。信じる者には何でもできる。」 信仰のないわたしをお助けください。」 その子の父親はすぐに叫んだ。「信

れた謙遜の心と言えよう。 れんでください」と訴える。この「できれば」という父親の言葉は、長い年月さんざん祈ったあげくに生ま の力では、霊を追い出すことはできなかったと言う。父親はイエスの前に「おできになるなら、私どもを憐 と論争中だった。その輪の中心には、てんかんと思われる病で苦しむ息子と、その父親。 イエスが三人の弟子と共に山から下りてくると、他の弟子たちは大勢の群衆に取り囲まれ、律法学者たち イエスの更なる問いかけに対し、父親は「信じます。信仰のない私をお助けくだ イエスの弟子たち

さい」と叫ぶ。

訴えである。 生きた関係が見えてくる。「私にはこれしかない。これだけの信仰にすぎないものですが・・」という切実な 父親の信仰。 「信じます」と「信仰のない私」は相反する言い方。矛盾するこの言い方の中に、この父親とイエスとの 自分の不信仰が祈りの対象になっているのだ。病を癒せなかった弟子たちとは対照的な、この これだけの者にすぎないが、主がよしとされ給うなら、 主よ、助けたまえ 一この祈りは

信仰告白の最たるものである。

「神の国は、見える形では来ない。『ここにある』『あそこにある』と言えるものでもない。実に、 神の国はあ

なたがたの間にあるのだ。」

がたの間」で告白し続けている。それこそが見えない形で私たちに迫ってくる神の国である。 御国の完成は わなかった。「あなたがたの間」で私たちは生きている。神の支配はイエスの現れたときから始まっていたが、 国の到来は、自分たちが神の子を十字架に付けることを通してであった。質問したファリサイ人は夢にも思 にある」と言われた。この箇所は、信仰は心の問題であると解釈する人もいるが、本来の意味は、「あなたが 見えないことを知ることが信仰であることを知らなかった。また、イエスは は見える形では来ない」と答えた。ファリサイ人は神の国を見ようと、また人々に見せようとしていたが、 を待ち望み、 イスラエル ファリサイ人はイエスに はファリサイ人そのものである。 の特異性や選民思想を主張した。ファリサイ人は、今までの世界とは異なる特異な神の国 神の支配を自分たちの目で見届けることができるよう、日々律法を守った。イエスは イエ スの再臨のときである。キリスト者はその間を生きて、 「神の国はいつ来るのか」と質問した。「ファリサイ」とは「異なる」を意味し、 神の到来を探しているファリサイ人がイエスを十字架につけた。神の 神の国の見えないことを「あなた 「神の国はあなたがたのただ中 2008/10/26 . 「神のI

#### 笛吹けど・ マタイ 11: 15 19

笛を吹いたのに、 踊ってくれなかった。葬式の歌をうたったのに、 悲しんでくれなかった。

禁欲的な生活をしているヨハネを、人々はサタンに取りつかれていると考えて、次第にヨハネを責めるよう るには、 手の心に成りきろうとするとき、正しく批評できて、その良いところが見えてくる」とある。正しく受け取 ヨハネも踏みにじった。川端康成の言葉に「自分の場に座っていると批評できず、けなすだけであるが、相 という人々の不満、 笛を吹いたのに、 一方、イエスのもたらす癒しや恵みの食卓も、大食漢として批判するようになる。人々はイエスも ない 相手のただ中に立たねばならない。自分の場に座り込んでいて、神の方からやってきてくれると思 か。 神の喜びや悲しみに自分の心を添えるとき、 またはヨハネやイエスが喜びを語っているのに人々が拒絶すること、 踊ってくれなかった」は、人々が喜びを共にしてくださいと願うのに神は振り向 初めて恵みが見えてくる。 とも解釈できる。

ことによって人の罪を贖うことであった。 十九節の「知恵」 自分を低くして後から来る真実の人に道を作ることであり、 はイエスやヨハネを表している。 イエスと共に歩むことになる。 人々はその方向を拒絶し、 知恵は必ず特定の方向を示す。 イエスの知恵は、十字架にいたる道を歩む 批判した。 イエスの歩みに心を寄せる ヨハネの知恵 (方向

とき初めて讃美の気持ちが湧いてきて、

# 狼の群れに子羊を ― ルカ 10: 1 - 10

物も持って行くな。… わたしはあなたがたを遣わす。 それは、 狼の群れに小羊を送り込むようなものだ。 財布も袋も履

社会の中で胸を張って勢いよく進んでいける。しかしそのときこそ、最も大切なものを失っている。絵本「ぼ 神から与えられる、 くをさがしに」に類似の話がある。人は子羊のつもりでいても、自然に、不足したものを求めて準備し、 それならば、なぜ伝道旅行を準備万端にしないのか。使徒言行録では、王の前でも恐れるな、必要なものは ような」ものと表現している。羊は周囲に害を与えない動物であるが、 つの間にか狼になっている。 イエスは伝道に必要な心がけを弟子に述べ、何も持ち歩かないように説いた。「子羊を狼の群れ と書いてある。 私たちは羊としてあり続けようとしない。 私たちは自分に足りないものを求めて努力する。それを見つけたとき、 使徒はさらに弱い子羊だ、 の中に送る という。

よい、子羊であれ、とイエスは言われる。そうであっても心配ない、神は必要なものを整えてくださる。 きを取り去る象徴である。それはイエスご自身の姿であり、それゆえイエスは神の子羊と言われる。子羊と して狼の中に投げ込まれても、そこにイエスがおられる、というのが神の奥儀である。 弱くて欠けた者でも

過ぎ越しの祭りにイスラエルの家の鴨居に子羊の血が塗られ、裁きの神はその家を通り過ぎた。子羊は裁

### キリストを着る - ガラテヤ 3: 26 - 29 ガラテヤ 1:6,1:10

あなたがたは皆、 たあなたがたは皆、 信仰により、キリスト・イエスに結ばれて神の子なのです。洗礼を受けてキリストに結ばれ キリストを着ているからです。

うに神の愛は一方的にやってきて、人を愛で包む。しかし兄は世の常識と判断に従って、父を批判した。兄 の意見を支持する人がガラテヤの教会には多かった。 のたとえ話で、父は放蕩息子の過去とは無関係に、息子に最上の着物を着せ、最上の食卓を設けた。 ている「キリストにあって」は、キリストの招きに入れられ、キリストを着たことを表している。 信仰者の外側は、キリストを着て守られているので、恵みの内に生きていると説く。パウロ書簡で多用され り、二十七節で、「洗礼を受けてキリストに結ばれたあなたがたは皆、キリストを着ているからです」と言 れど内側ではキリストに向かって一致している、と考えるのが通常である。しかしパウロは外と内を逆に取 教会は生まれや環境の異なった人が集まるが、イエスキリストに注目して一つになっている。 礼拝者が目指す一つのものは、キリストから最上のものを着せられて守られることであろう。 教会は人に喜ばれようとしているのか、神に喜ばれようとするのか―これはガラテヤ教会の論点であった。 外側は違うけ 最上のもの 放蕩息子

道徳ではなく、「自分は捧げるものは何もない」という姿そのものを神に捧げることであろう。2008/11/16 を着せていただいていれば、人と比較することはない。 神に感謝し、 捧げものをするならば、 金銭や善行や

### インマヌエル 一マタイ1:18 - 25 (待降節第一聖日)

おられる」という意味である。 「見よ、おとめが身ごもって男の子を産む。 その名はインマヌエルと呼ばれる。」この名は、「神は我々と共に

殺される。 底にあるものをもってこそ、人は神に出会う。歴史の中でマリアは特別扱いされ、マリア信仰まで生まれた。 フは婚約者が身ごもっていることを知って、姦通罪を恐れ、離縁を考えた。このままではマリアは裁 マタイによる福音書のクリスマスは、深層心理を表すと言われるヨセフの夢を語ることから始まる。 今のうちに縁を切っておけばマリアを救う望みがある。 ヨセフは悩んだ。 人に話せない心の深い か れ

緒にいるのではなく、 私たちと共に、神は居てくださる。神が共に居てくださる相手は、社会に役立つ人ではなく、巡りあわせに しかし、ここに聖書は、悩むヨセフを記述するだけである。 インマヌエル「神は共にいます」は、「私は世の終わりまで共にいる」(ルカ)と同じで、私たちが神と一 そのままの姿の私たちである。ヨセフは、悩むそのままの姿で、神を受け入れた。 神が私たちと共にいることである。 私は私のままで卑下する必要はなく、そのような

ベツレヘムにいるのか、大都会か、どこに居たいのか。わからなくて迷っていても、 小屋で私たちと共にいてくださる。神のほうから私たちに「あなたはどこにいるか」(創世記)と問うてくる。 神はどこにいるか、と私たちは問う。 聖書は、神は最も小さいベツレヘムにいると答える。神は貧しい馬 神が答えをくださる。

#### 洗礼者ヨハネの誕生 ルカ വ Ī 25 待降節第二

民衆はザカリアを待っていた。 て来たけれども、 話すことができなかった。そこで、 そして、 彼が聖所で手間取るのを、 人々は彼が聖所で幻を見たのだと悟った。 不思議に思っていた。ザカリアはやっと出

神は、 だった。神はザカリアの口を閉ざす。私たちは本物に出会ったとき、 みの象徴は、 「すべてのことを心に留め」、 めていく。 カはクリスマ よしとされる時に祈りを聞き入れる。 長い間、祈りは聞き入れられなかった。私たちは自分の都合のいいときに祈りへの応答を求め 長寿、 ザカリアの記事は、 スの出来事を劇的にしかも信仰深く描いている。 子孫、 家畜であった。ザカリアは祭司であるから、 神の前に沈黙した。 老いたアブラハムに子が与えられるのと同じ筋をたどる。 なぜ今頃になって祈りが聞き入れられるの 次の出 心に浸み込んで沈黙する。 祈りがかなえられても 来事 への伏線を述べ か、 ザ 当時、 、カリアは不満 いい ながら、 母マリアは ,と思 いるが 神 わ 0 恵

が信 に介入される。それがクリスマスである。 たなくなったとき、 アは祭儀の手順が狂う。 サドカイ人である祭司は、ダビデの時代から祭儀の伝統を守ってきた。 仰の根拠ではなく、 初めて真の生活へと導かれる。 真の信仰 神ご自身が私の信仰生活に介入されて、 神が私たちに介入されるとき、 へと導かれ 信仰生活においても同様であり、 る。 神が、 具体的にはイエスキリストが私に現れ、 私たちは邪魔されたと感じる。しか これまでの知識や経験に基づいた計 聖書の知識や経験や教会生活の在 聖所に神の使いが現れて、 ĩ 私の生活 神の介入 ザカリ に直接 が ŋ 7 方

## お言葉どおり ルカ1:26-38 (待降節第三聖日)

マリアは言った。「わたしは主のはしためです。 お言葉どおり、この身に成りますように。」

母になることを恐れた。イザヤの予言(七章十四節)「おとめが身ごもって、男の子を産み」 かを知らされ当惑する。マリアは夫ではなく聖霊によって子をやどすと天使に言われ、死罪に当たる未婚の たのがマリアの懐妊物語である。可能となった現実を前に、マリアは、私たちも含めて、 語らなくてすませる口実を作ってきた。 楽や美術によってクリスマスを美しく着飾ったため、本来の姿を見失うばかりでなく、クリスマスの のか」と問うが、 障害をもつ者は障害の故に、神の恵みと祝福を知ると言われる。「どうして私が障害を負わなければならな カはマリアへの受胎告知を華やかに美しく記述した。その結果、 その答えは、「障害は神が恵みを与える手段」である。それを受け入れたとき、 人が予想できないことを神は実現してくださり、 聖母崇拝が生まれた。 如何に自分が無力 不可能を可能 の成就である。 欧米にお 神に祝福 いて音

ように」と神の御心のままに全てを受け入れた。マリアは、とまどう姿のままで神に委ね、従順のままに導 イエスの最期も「御心のままに行ってください」(ルカ二十二章四十二節)と、 従順への祈りであっ

マリアは世の道理や理性に固執せず、不安の内に「お言葉どおり、この身に成ります

されている身を知る。

08/12/14

# 思い巡らす ― ルカ2:8-20 (降誕日)

話を不思議に思った。しかし、マリアはこれらの出来事をすべて心に納めて、 羊飼いたちは、この幼子について天使が話してくれたことを人々に知らせた。 思い巡らしていた。 聞いた者は皆、羊飼いたちの

に事が進み、 ネの不思議な誕生、 におかれたとき、 わせるという意味である。マリアもヨセフもひとり思い巡らし、 いいはずだが、二章になると「心に秘めて」とあり、マリアは何も語らない。 この降誕物語を不思議に思う。 ったこと等など、マリアは考え合わせると、 沈黙は詩編一章二節の「口ずさむ」と同義語であり、牛が反芻するごとく、 天使が羊飼いに現れ、イエスの誕生を輝かしく告げた。羊飼いは赤子のイエスを見つけ、喜んだ。人々は マリアは天使から受胎告知を受けて、大胆に語った(一章)。その後、 うまく解釈できると多くを語る。 はじめて神の国に触れ、 強制的な旅の途中での出産、社会の下層階級である羊飼いからの賛美、 実際、 人々もマリアも天使を見ていないし、 救いを得ることができる。 何も語れなかったのだろう。私たちは、自分の都合のいいよう マリアは、 自分の思いでは解釈できず、 孤独の中へ突き進んだ。一番深い これを語っているのがクリスマスの物 神への限りない賛美を語り続けても 天使の賛美も聴いてい 種々のことを繰り返し思い 聖霊による懐妊、預言者ヨハ 神の前に沈黙した。 人々が信じなか 孤 独 の底

語である。

に去らせてくださいます。わたしはこの目であなたの救いを見たからです。…」 シメオンは幼子を腕に抱き、 神をたたえて言った。「主よ、今こそあなたは、お言葉どおり

ない。 められた祭司ではなく、イスラエルの慰められることを待ち望んで聖霊に満たされたシメオンであった。 を示している。祭司は貧しい一家の献げものには興味がなかったのだろう。イエスを出迎えたのは、公に認 工 のシメオンの賛歌を通して、イエスご自身が神に献げられた。 ス 一 出産後の清めの行事、および長男を通して神の恵みが家庭に与えられるというユダヤの考えに従って、イ 家は 本来の献げものは子牛であるが、貧しい人は山鳩でもいいとあるので、イエス一家は貧しかったこと エルサレム神殿を訪れた。 献げものを受け取るのは祭司の役目であるが、ここには祭司は出てこ

言われるが、クリスマス時期には目立たない。シメオンと預言者アンナの二老人がイエスの出現に目を輝か 老人シメオンによる「ヌンクデミティス」の四つの賛歌がある。ヌンクデミティスが最も形が整っていると った。「イエスに会う」祈りがかなえられ、 老人がイエスの証 カにはマリアによる「マグニフィカト」、ザカリアによる「ベネディクト」、羊飼いによる「グローリヤ」、 人になった。 神の救いをイエスの中に見出した。 人生の終点に神の平和の門を見た。 シメオンは聖霊の人、 祈りの霊

いかに幸いなことか、 流 神に逆らう者の計らいに従って歩まず、 Ī

うではない。彼は風に吹き飛ばされるもみ殼。神に逆らう者は裁きに堪えず、罪ある者は神に従う人の集いに 来れば実を結び、葉もしおれることがない。その人のすることはすべて、繁栄をもたらす。 主の教えを愛し、その教えを昼も夜も口ずさむ人。その人は流れのほとりに植えられた木。 神に従う人の道を主は知っていてくださる。神に逆らう者の道は滅びに至る。 罪ある者の道にとどまらず、傲慢な者と共に 神に逆らう者はそ

と告白する。この木は神の光で照らされる。 と考えた。エレミヤは木を信仰者に例えて(四十六章)、主に頼って根を伸ばしていく木は瑞々しい実を結ぶ、 論した。しかし マリアもペテロもパウロも、召命されるときに「どうしてそのようなことがあり得ましょうか」と神に それらの人と同じような姿を、詩編一章に見る。古代人は、 「お言葉どおりに」と告白し、神に仕えた。十字架の言葉は、救われる者には神の力となっ 木が生い茂って命の実がなるところを楽園 反

たままつながっていれば、 決しようと苦しみもがく。 は人の作った水路であり、 結ばない者でも「もう一年待ってください」と、イエスは、とりなしの祈りをして下さる。三節の ように外に投げ捨てられて枯れる」。いつでもつながっているようにと、イエスは声をかけてくださる。実を 十五章)とイエスは語る。我々は一つの枝となることを許されている。「つながっていない人がいれ 我々のただ中に、すでに救いの木が立てられている。「私は葡萄の木、 「実を結び、葉もしおれることがない」。しかし現実は逆に思えるので、 繁栄につながるという神の視点を大胆に信頼することが信仰である。 木は自然に育ったのではなく、植えられて水で育てられた木である。 あなた方はその枝である」(ヨハネ 神の造られ 自分で解 ば、枝の れ

と神は言っておられるからです。今や、恵みの時、今こそ、救いの日。 わたしたちはまた、神の協力者としてあなたがたに勧めます。神からいただいた恵みを無駄にしてはいけませ なぜなら、「恵みの時に、わたしはあなたの願いを聞き入れた。 救い の日に、 わたしはあなたを助

が恵みの時であった。 キリストの十字架は死ではなく、復活による完成である。 分の罪からの解放につながることを知った。死の前には、 を聞いたとき、人に対しても神に対しても罪を犯したことを悔いた。イエスキリストの十字架と復活が、自 ていた。パウロは、ステパノの最期の言葉「主よ、どうぞ、この罪を彼らに負わせないで下さい」(使徒 7:60) て生きている。パウロは律法を厳格に守り、クリスチャンを迫害し、ステパノを死に至らせた過去を背負 からだ」と八木重吉は言う。パウロは今をひたすら生き、恵みの時、 の花 .は着飾ることなく(マタイ6:28)ひたすら生きている。「花が美しいのは、 すべてが無意味になる。パウロにとって、イエ 許された過去と完成へ向かう未来を前にして、 救いの日と考えた。 ただひたすら咲いて 人は過去を背負 ス

ることを知った。 セは神の居ない地ミディアンで放牧していた時、聖なる地では靴を脱げ、 われていることの告白である。しかし現実の辛さを思うと、 「今こそ救いの日」とは、自分中心の生活ではなく、命あるものとして神に喜ばれる生活が、今この場で 呼び求めよ、近くにいますうちに」(イザヤ55:6) 今住んでいるこの地が聖なる土地であり、今生きているこのときが聖なる時である。「見いだしうるとき 神の存在に気付く時は少ない。「今こそ恵みの時」は、モーセが聞いた神の言葉と同じであ 単純にアーメンと言えないことが多い。 との神の命令を受け、 神が共に

### み心に適った悲しみ IIコリント 7:5-13

御心に適ったこの悲しみが、 悲しみは、取り消されることのない救いに通じる悔い改めを生じさせ、世の悲しみは死をもたらします。神の 今は喜んでいます。あなたがたがただ悲しんだからではなく、悲しんで悔い改めたからです。 しんだのは神の御心に適ったことなので、わたしたちからは何の害も受けずに済みました。神の御心に適った 確かに、 あの手紙が一時にもせよ、あなたがたを悲しませたことは知っています。たとえ後悔したとしても あなたがたにどれほどの熱心、弁明、憤り、恐れ、あこがれ、熱意、 あなたがたが悲 懲らしめを

さの中で信じ続けた。「その中で、きょうの喜びに導かれたのだ」と、パウロは言おうとしている。「悲しみ の日に、 る存在があるということ。 詩篇一三三篇一節「見よ、兄弟が共に座っている。なんという恵み、なんという喜び」共に座っていてくれ めて自分がわかり変えられてゆく。神の光に打たれ、悔い改めながら変えられてゆくのだ。 しみ」がある。後者にあっては、人を責め自分がわからなくなる。前者にあっては、 ウロ自身、 信仰者のなぐさめとは、神の前で悲しむことができること、日々変えられつつ生きるということであろう。 ウロ い悲しみがある。 もたらしたことでしょう。 悩みの日に、 は以前、 悲しんで書いたのであろう。「悲しみ」には二通り、「神のみ心にかなった悲しみ」と「世の悲 コリントの教会の人々に厳しい手紙を書き、人々を悲しませた。コリントの人々以上に キリストにあるということは、悲しみを分かち合い共にあることである。 私を呼べ。私はお前の名を呼び、 私達はキリストを悲しませながら生きており、私達の生きる背後には、 お前を救おう」主の言葉である。 神の光に照らされ パウロは弱 キリスト

飲んだり食べたりするのか。」イエスはお答えになった。「医者を必要とするのは、 律法学者たちはつぶやいて、イエスの弟子たちに言った。「なぜ、 を催した。そこには徴税人やほかの人々が大勢いて、一緒に席に着いていた。ファリサイ派の人々やその派 言われた。 わたしが来たのは、 彼は何もかも捨てて立ち上がり、 工 ースは 出て行って、 正しい人を招くためではなく、罪人を招いて悔い改めさせるためである。」 レビという徴税人が収税所に座っているのを見て、「わたしに従いなさい イエスに従った。そして、自分の家でイエスのために盛大な宴会 あなたたちは、 徴税人や罪人などと一緒に 健康な人ではなく病人であ

座っているのを見て」にあるように、レビはイエスのまなざしに捉えられた。医者へ足を運んだのでは 医者であるイエスの方からやってきた。癒されたレビは、 奇跡と思われるこの大転換は、 てきた集団である。 の出会いにより、 イエスと徴税人たちが一つに集まり、 アリサイ人は、イエスの集団がユダヤ民族の裏切り者である徴税人と食事をしているのをみて、 ファリサイ人は当時 い信仰へと専念するために、 金を惜しまず盛大な宴会を催すほど、金銭の生活から御言葉への生活に変えられた。 彼らの意識 の社会の善良な正 ファリサイ人にあるような本人の努力でなく、二十七節「徴税 の高揚は並々ならぬものがあり、 神の御心から離れがちだった。 自分の家を開放して、 しい 人であり、 自分がイエスに招かれたように、 またローマの圧力に対して信仰を貫く努力を払 取り立てる生活から感謝する生活になった。 民衆とは生まれや育ちが違うことを強調 金銭に執着した徴税人レビは、イエスと 他の徴税人を招 人が収税所に なく、

009/1/25

 $\infty$ 

しが求めるのは憐れみであって、いけにえではない』という言葉の意味を知っていれば、あなたたちは罪もな ことをしている」と言った。(中略)イエスは言われた。「神殿よりも偉大なものがここにある。もし、『わた そのころ、ある安息日にイエスは麦畑を通られた。弟子たちは空腹になったので、麦の穂を摘んで食べ始めた。 い人たちをとがめなかったであろう。人の子は安息日の主なのである。」 ファリサイ派の人々がこれを見て、イエスに、「御覧なさい。あなたの弟子たちは、安息日にしてはならない

悪魔のわざが完璧になる。イエスは、人々に安息や平安を与えるものとして世に現れ、「休ませてあげよう(マ タイ十一章二十八節)」と言われる。安息日は天地創造のときに制定され、モーセによって守られ、バビロン ばしば神より宗教的になる」と言われる。宗教的な確信に基づくと、人は喜んで最も悪い行いをして、その ファリサイ人は、イエスの行動を非宗教的で神の恵みから遠い、と考えた。自分達のほうがずっと宗教 イエスの伝道はファリサイ人の仕事の妨げになり、イエスを殺害しようと計画した。「人間はし

うのが、安息日の意味であろう。イエスは「わたしが求めるのは憐れみであって、いけにえではない」と反 の子は安息日の主なのである」と言われる。人々は安息日の奴隷ではなく、恵みの日の「ぬし(主)」である。 論した。義務や犠牲を捧げるのでなく、憐れみに支えられるのが安息である。人に安息を与えるイエスは「人 伝統を厳守する人々の努力を見る限り、イエスは人々の中に安息を見出せなかった。神と共に安息日を憩 捕囚の時にはユダヤ民族の象徴であった。この伝統に従って、安息日には徹底的に休んだ。

罪や高ぶりから解き放たれるよう、

イエスは我々を自由へと導く。

2009/2/1

ずその報いを受ける。」 る。はっきり言っておく。 を行い、そのすぐ後で、わたしの悪口は言えまい。わたしたちに逆らわない者は、 ないので、やめさせようとしました。」イエスは言われた。「やめさせてはならない。わたしの名を使って奇跡 ヨハネがイエスに言った。「先生、お名前を使って悪霊を追い出している者を見ましたが、わたしたちに従わ キリストの弟子だという理由で、あなたがたに一杯の水を飲ませてくれる者は、 わたしたちの味方なのであ

理する立場は仕える人ではなく、イエスの主張とは遠い。 という理由で子供たちを追い払った。そのときの弟子は、 にあるだろうか。また、イエスの周りに寄り集まる子供たちに対して、弟子たちはイエスの労力を軽くする に都合よく利用する人が沢山いた。ヨハネは、イエスの名を勝手に使って悪霊を追い出す呪い師を攻め立て. が栄光を受けるときヤコブと共にイエスの左右に置いてくれ、と頼んだ。有名になったイエスの名を、 「私たちに従わないのでやめさせようとした」と言った。張り切って大声で語る中に、イエスの御心が本当 ゼベダイの子ヨハネは雷の子という愛称があり、突然語りだす熱血漢的なところがあった。実際、 神の恵みの管理人や番人の立場になってい イエスと共にある自分達は他の人と違い、 イエ 神から ス

とあるように、 キリストの弟子だという理由であなたがたに一杯の水を飲ませてくれる者は、 水を差し出せる人となることが恵みの証である。 必ずその報いを受ける\_

選ばれた聖なるもの、と弟子たちは考えたのだろう。

薄いからだ。はっきり言っておく。もし、からし種一粒ほどの信仰があれば、この山に向かって、『ここから に来て、「なぜ、 あそこに移れ』と命じても、そのとおりになる。あなたがたにできないことは何もない。」 イエスがお叱りになると、悪霊は出て行き、そのとき子供はいやされた。弟子たちはひそかにイエスのところ わたしたちは悪霊を追い出せなかったのでしょうか」と言った。イエスは言われた。「信仰が

動かすとは、 である小ささを、 えねばならない。弟子は、てんかんの子とその親の苦しみを共有できなかった。民衆の目に関心があった。 が動き、 たのではなく、「からし種一粒ほどの信仰があれば」と、信仰の有無を問題にした。信仰が一粒でもあれば山 弟子たちは、てんかんを癒すことができず、 私にとってキリストは何かと問うとき、私が主人になっていることが多い。わたしのためのキリストでは イエスと三人の弟子が山へ登って不在の時、てんかんの息子を連れた人が残りの弟子に救いを求めてきた。 キリストが世の初めから居られ、そこに私が歴史の一コマに造られただけである。 不可能が可能になる。弟子はてんかんを癒そうと専念し、癒さなければ民衆からの 世の常識からみるとバカバカしいが、小ささを神に差し出すとき、不可能を可能にする神 神はご覧になられる。一粒の小ささをそのまま神の前に差し出そう。 悩んだ末にイエスに尋ねた。 イエスは信仰の大きさを問題に からし種 その一コマ 厳 しい 一粒が 、批判に・ 0 . の 業 Щ 粒

が見えてくる。

ないようにしなさい。しかし、キリスト者として苦しみを受けるのなら、決して恥じてはなりません。むしろ、 あなたがたのうちだれも、人殺し、泥棒、 愛する人たち、 キリスト者の名で呼ばれることで、 に非難されるなら、幸いです。栄光の霊、すなわち神の霊が、あなたがたの上にとどまってくださるからです。 かのように、驚き怪しんではなりません。むしろ、キリストの苦しみにあずかればあずかるほど喜びなさい。 キリストの栄光が現れるときにも、 あなたがたを試みるために身にふりかかる火のような試練を、何か思いがけないことが生じた 神をあがめなさい 悪者、あるいは、他人に干渉する者として、苦しみを受けることが 喜びに満ちあふれるためです。あなたがたはキリストの名のため

る弾圧を受けた。同胞から受ける迫害は厳しかった。 が天皇制に反対し、 牲になったとも言われる。とくに韓国での迫害が厳しかった。 キリスト者に最も大きな迫害があったの 国から迫害を受けた。 は、 反対の仕方が徹底していたので、 口 ーマ帝政や中世ではなく、二十世紀であり、 日本では戦時中にホーリネス系のキリス キリスト者仲間からも妬みによ 数百 万人が犠

である。神はキリスト者を「万事が益として共に働く(ローマ八章)」ように創造された。 分かるときが与えられる。また、条件が変わっただけで試練が苦しみでなくなる。 の御心に従って生きようとしているのに試練に会うのは不条理だ(十二節)、苦しみが与えられるのはな 試練を受け取りなお と我々は問う。 試練はミステリーだと言われる。というのは、その時に試練 し、苦しみが質的に変えられる。 この展開 が神の与えた恵みであ の意味が 神の愛に照らし出された 分からなくても、 2009/2/22

#### 祈りの家 7 タイ 21: 12 - 17 (受難週第一聖日)

て来たので、イエスはこれらの人々をいやされた。 を倒された。 あなたたちはそれを強盗の巣にしている。」境内では目の見えない人や足の不自由な人たちがそばに寄っ スは神殿の境内に入り、そこで売り買いをしていた人々を皆追い出し、両替人の台や鳩を売る者の腰掛け そして言われた。「こう書いてある。『わたしの家は、祈りの家と呼ばれるべきである。』ところ

たが、 子供達だった。 殿や祭りは強盗の巣であった。 殿に入れなかった。 自分の無力を知って神に祈り求めるが、本当の祈りは神を信頼し、 も奪った。人々の信仰は自分中心で、自分の思い通りになるように神を利用していた。私たちは苦しいとき、 行は祭りに参加し、弟子たちは神殿の大きさや祭りの華やかさに目を見張った。しかしイエスにとって ユダヤ民族が大切にしていた祭りは、 たのは ルサレムの先住民エルス人はダビデ王をからかって、体の不自由な人でもダビデ軍を追い払えると言っ ダビデは 社会の 建物としての神殿ではなく、 ールサレ ところがイエスに寄り添って体の不自由な人が神殿に入り、歴史を覆した。 指導者では ムを簡単に落城させた。この歴史的背景のもとで、体の不自由な人は 指導者は神殿と祭りを利用して、民衆から金を奪うだけでなく、 なく、 障碍者とホサナと叫 民族の象徴であるエルサレム神殿を中心に催されていた。 弱い私自身が神殿となる場所が祈りの家であり、 ぶ子供達だった。 神殿を祈りの家と思える時から始まる。 祈りの家に入ったの そこで本当の 工 神の は障碍者と イエスを讃 ル サレ イ ものを エスの 神 神

009/3/1

礼拝が生まれる。

## 記念として マタイ 26: 1 - 13 (受難週第二聖日

世界中どこでも、この福音が宣べ伝えられる所では、この人のしたことも記念として語り伝えられるだろう。」 貧しい人々に施すことができたのに。」イエスはこれを知って言われた。「なぜ、この人を困らせるのか。わた わけではない。この人はわたしの体に香油を注いで、わたしを葬る準備をしてくれた。はっきり言っておく。 しに良いことをしてくれたのだ。貧しい人々はいつもあなたがたと一緒にいるが、わたしはいつも一緒にいる 油を注ぎかけた。弟子たちはこれを見て、憤慨して言った。「なぜ、こんな無駄遣いをするのか。高く売って、 一人の女が、 極めて高価な香油の入った石膏の壺を持って近寄り、食事の席に着いておられるイエスの頭に

非常識で終末的な行為である。弟子は無駄だと憤慨した。 ただ精一杯の感謝をイエスに捧げた。 食事を中断して油を注いだ。この女性のやりかたはスマートではない。自分のしたことの意味すらわからず、 エスに高価な香油を注いだ。王、祭司、 賓客の歓迎にも油が注がれた。この女性が油を注いだ場所には、祭壇も賛美もない。イエス一同 女性がシモンの家に入って、 香油は年収に相当する高価なもので、女は壺を割って注いだ。 詩篇23:5「わが頭に油を注ぎたもう」を思い起こさせるごとく、 預言者は神の印を受けたものとして、祭壇の前で賛美と共に油が 油を売ってもっと有効に、という比較による正 これは  $\mathcal{O}$ 

リント I 、十一章)、全人類の救いの根拠を語り伝えることにほかならない。 神の国を証するこの行為が「記念として語り伝えられる(十三節)」は、イエスの十字架を記念として (コ 計算したとき正論でないほうが神の国に近い。神の国は無言のままで事実だけが生きるところであ に走った。弟子は評論家になっていた。イエスは無言のまま、油を受け入れた。

#### 0 7 ル П 14: 22 26 (受難週第三

むことはもう決してあるまい。」一同は賛美の歌をうたってから、オリーブ山へ出かけた。 同が食事をしているとき、イエスはパンを取り、 契約の血である。 彼らは皆その杯から飲んだ。そして、イエスは言われた。「これは、多くの人のために流されるわたしの 「取りなさい。これはわたしの体である。」また、杯を取り、感謝の祈りを唱えて、彼らにお渡しになっ はっきり言っておく。神の国で新たに飲むその日まで、ぶどうの実から作ったものを飲 賛美の祈りを唱えて、それを裂き、弟子たちに与えて言

の契約 を記念する行事であった。 過越の食事の準備をされた。 だわけでもなく、かってに余計なことをしてくれた、という論議 まなくてもイエスが十字架を通して救いの道を示してくれたことは、 で変な自分に育てた、 「二千年もの昔、しかも七千キロ西の地で、イエスがあなたのために死んだ」と言われても、 により、 門に子羊の血を塗ったユダヤ人 という不満に似ている。これは自分を受け入れ難いときに現れる考えである。 イエスが十字架で流す血も、 過越 の食事は、 ユダヤ民族が奴隷でいたエジプトから脱出するとき、神と民と の家は死を免れ、 過越と同様に人々の救済のための血である。 エジプトから救済された、という言 がある。 素晴らしいことではないか。イエスは 親は頼みもしないのに自分を生 自分が頼

であることを示した。 あなたの て差し出される救 スは一方的に条件抜きで、 救いのために」と言われても、 いの道を、 自分の問題として受け入れるかどうか、その人に任された自由な課題で 最後の晩餐のときにパンと杯を人々に分け与え、 私たちには頼んだ覚えはない。しかし神の側から一方的 の道は十字架の あ 7

### ゲッセマネの主 マルコ 14: 32 - 42 (受難週第四聖日)

あなたは何でもおできになります。この杯をわたしから取りのけてください。しかし、わたしが願うことでは 伏し、できることなら、この苦しみの時が自分から過ぎ去るようにと祈り、こう言われた。「アッバ、父よ、 と言われた。そして、ペトロ、ヤコブ、ヨハネを伴われたが、イエスはひどく恐れてもだえ始め、彼らに言わ れた。「わたしは死ぬばかりに悲しい。ここを離れず、目を覚ましていなさい。」少し進んで行って地面にひれ 同がゲツセマネという所に来ると、イエスは弟子たちに、「わたしが祈っている間、ここに座っていなさい」

ない。イエスは悲しむ我々と共におられ、我々をはるかに超える十字架の悲しみを背負って解決者となって 作ることが多い。このような我々は、人の苦しみを自分の問題として取り組んでいない。 におられるのを知ることである。人がうまくいかないとき、 イザヤにあるよう僕(しもべ)の形をとったメシヤが、我々の痛みと悲しみを担う者として、 せられて成長し、 イ 立 なく、御心に適うことが行われますように。」 スはゲッセマネで眠りこける弟子たちに「目を覚ましていなさい」と何度も言われた。 また、何に対して目覚めるかによって成長が異なる。 興味本位にからかってバカにし、 イエスの求めていた目覚めは、 解決者とはなりえ 自分の体裁を 我々のただ中 人は目覚めさ 第二

2009/3/22

### キリストの沈黙 マルコ 15: 1 - 15 (受難節第五聖日)

か。」群衆はますます激しく、「十字架につけろ」と叫び立てた。ピラトは群衆を満足させようと思って、バラ と言った。群衆はまた叫んだ。「十字架につけろ。」ピラトは言った。「いったいどんな悪事を働いたというの そこで、ピラトは改めて、「それでは、ユダヤ人の王とお前たちが言っているあの者は、どうしてほしいの たみのためだと分かっていたからである。祭司長たちは、バラバの方を釈放してもらうように群衆を扇動した。 ピラトは、「あのユダヤ人の王を釈放してほしいのか」と言った。祭司長たちがイエスを引き渡したのは、

知り尽くすことができない。 た。そして、死刑になるはずであった を直視したい。イエスが私たちのために死んでくださった―と言うが、本当のところ、その理由を私たちは は「十字架につけよ」と叫ぶ。ピラトも、妬みとわかっていながら、 とのない意思を表す。 かった。ピラトが不思議に思うほどに沈黙された。沈黙は極限の形である。十字架に向かっての、変わるこ 祭司長、 バを釈放した。そして、イエスを鞭打ってから、十字架につけるために引き渡した。 (ねた)み〉である。祭司長、 律法学者たちがイエスを縛ってピラトに引き渡し次々と訴えたが、イエスは何もお答えにならな イエスの十字架は神のご計画とは言え、 ただ、 律法学者たちは妬みのために協力し合うほどであった。 妬みという感情を常に根源に持つ自分を知り、 〈罪びとバラバ〉がイエスの命を代償に赦された。このバラバの事実 イエスを十字架へと追いやったのは 群衆を満足させようと言いなりになっ 群衆に、 また自分をバ 扇動され た群衆 人間 ラ  $\mathcal{O}$ 

バに重ねて見るとき、

私たちの真のあゆみが始まる。

# 十字架の言葉 ― ルカ 23: 26 - 49 (棕櫚の聖日)

た。するとイエスは、「はっきり言っておくが、あなたは今日わたしと一緒に楽園にいる」と言われた。 に。我々は、自分のやったことの報いを受けているのだから、当然だ。しかし、この方は何も悪いことをして いない。」そして、「イエスよ、あなたの御国においでになるときには、 を救ってみろ。」すると、もう一人の方がたしなめた。「お前は神をも恐れないのか、同じ刑罰を受けているの 十字架にかけられていた犯罪人の一人が、イエスをののしった。「お前はメシアではないか。自分自身と我々 わたしを思い出してください」と言っ

②母に「婦人よ、ごらんなさい。あなたの子です」 ③十字架上の犯罪人に「今日私と一緒に楽園にいる」 イエ スは十字架上で七種類の言葉 ― ①ユダヤの指導者たちに 「自分が何をしているの カン 知らな

あり、その結果がイエスを十字架へ追いやった。イエスの死後、 べてが終わった」― を語られた。自分のしていることがわからないのが罪の本質であり、 つか」ではなく「今」共に居ることが救いである。 救われた第一号者は犯罪人であった。キリ 私たちそのもので ④神に「なぜ私をお見捨てになったのですか」 ⑤「私は渇く」 ⑥「私の霊を御手にゆだねます」 ⑦

ちの為すべき姿である。 いていた。 救いは神に見捨てられたと叫ぶことから始まる。 渇いた御自身を御手に委ねた。委ねる姿は偉大な王の姿と逆であり、礼拝ですべてを奉げる私た すべてが終わって死となったが、 見捨てられて渇く。主は渇きつくされ、最も義に飢え渇 それが命の始まりとなった。

## シモン、私を愛するか ヨハネ 21: 15 - 19 (復活祭聖日)

あなたを愛していることを、あなたはよく知っておられます。」イエスは言われた。「わたしの羊を飼いなさい」 ているか」と言われたので、悲しくなった。そして言った。「主よ、あなたは何もかもご存じです。わたしが と言われた。ペトロが、「はい、主よ、わたしがあなたを愛していることは、あなたがご存じです」と言うと、 イエスは、「わたしの小羊を飼いなさい」と言われた。(中略)ペトロは、イエスが三度目も、「わたしを愛し 食事が終わると、イエスはシモン・ペトロに、「ヨハネの子シモン、この人たち以上にわたしを愛しているか」

なんの係わりがあるかと答えられ、ひたすら復活のイエスとの交わりの中で生きるよう勧められた。 は三度「私を愛するか」とペトロに問われた。官邸の庭でイエスを知らないと言ったペトロは、イエスに負 イエスはどのように処遇するか気になり、「この人はどうなのか」(二十一節)と問うた。イエスは、あなたと い目を持っていたので、イエスの問いに対して説明をするような答えしかできなかった。さらに他の弟子を スは現れたからだろう。ペトロにも、最も日常である漁の場にイエスは現れた。漁の後の食事の時、イエス 四福音書は、復活の記事を統一性のある形で記載しなかった。人それぞれの生活にしたがって復活のイエ

の中で生きるよう勧められたペトロは、ペンテコステ以後、確信ある短い言葉で信仰を解き明かす。2009/4/12

去の出来事や他人の行動を超えて、無条件に復活の主と共に歩む中に救いがある。

復活の主を愛し、そ

## 人の思いを超えて ヘブライ 12: 14 - 17

も知っているとおり、エサウは後になって祝福を受け継ぎたいと願ったが、拒絶されたからです。涙を流して すべての人との平和を、また聖なる生活を追い求めなさい。聖なる生活を抜きにして、だれも主を見ることは の権利を譲り渡したエサウのように、みだらな者や俗悪な者とならないよう気をつけるべきです。 って多くの人が汚れることのないように、気をつけなさい。また、だれであれ、ただ一杯の食物のために長子 神の恵みから除かれることのないように、また、苦い根が現れてあなたがたを悩まし、 あなたがた

さやかな家庭生活に生涯をささげた。イサクに性格の異なる息子、エサウとヤコブがいた。兄エサウは 兄から相続権を奪い取るという、人には理解しがたい不条理な手段を通して神の御心は実行された。 いた。一方、ヤコブは神から大いなる祝福を受け、神との契約に基づいてイスラエルの十二部族を形成した。 の食欲に惑わされて、長男の特権をヤコブに奪われた。 族長初代のアブラハムは変化に富んで華やかな生活を送ったが、その息子イサクは、愛妻リベカと共にさ 求めたけれども、事態を変えてもらうことができなかったのです。 相続権までも奪われ、自分で選び取った道を生涯悔 目 前

の裏切りを通して十字架の刑が始まり、それを根底から覆す復活が起こった。神は我々の過ちをも通して、

その典型がイエスキリストの十字架と復活である。

イスカリオテユダ

世に救いを現わす。

人の思いを超えて神の御心は働く。

置く。そうすれば、家の中のものすべてを照らすのである。そのように、あなたがたの光を人々の前に輝かし 山の上にある町は、隠れることができない。また、ともし火をともして升の下に置く者はいない。燭台の上に 「あなたがたは地の塩である。だが、塩に塩気がなくなれば、その塩は何によって塩味が付けられよう。 何の役にも立たず、外に投げ捨てられ、人々に踏みつけられるだけである。あなたがたは世の光である。 人々が、 あなたがたの立派な行いを見て、 あなたがたの天の父をあがめるようになるためである。」

すのでなく、 出る。光そのものが素晴らしいのではなく、光は反射して物を見えるようにしたとき、光の意味が現れる。 るもののない普通の人である める(プラトンの理想主義)。しかしイエスが語った相手である民衆は世を動かす社会の指導者ではなく、 まに従え」との教訓として語られることがある。 つまり塩や光が他を通して自分自身の姿を変えたとき、その効き目が見える。 Щ 上の 垂訓 他人の中に働いて他人が豊かにされるとき、その人は喜びと感謝に満たされる。 地地 の塩、世の光となれ」は、「安易な生活をせずに、塩や光であったイエスキリストの生きざ 塩が見えるような料理は塩辛くて食べられない。 人は世を動かす塩や光となりたいという理想の美を慕 それと同様に、 塩は姿を消すことで効力が 自分が姿を表

として現れたとき、 イエスキリストは自分の姿をむなしくして、人の救いのために十字架の道を歩んだ。姿を消して復活の主 真実の喜びがあった。

らをお呼びになった。この二人も父ゼベダイを雇い人たちと一緒に舟に残して、イエスの後について行った。 進んで、ゼベダイの子ヤコブとその兄弟ヨハネが、舟の中で網の手入れをしているのを御覧になるとすぐに彼 たしについて来なさい。人間をとる漁師にしよう」と言われた。二人はすぐに網を捨てて従った。また、少し シモンとシモンの兄弟アンデレが湖で網を打っているのを御覧になった。彼らは漁師だった。イエスは、「わ

ペテロの裏切をもあらかじめ知っておられた。漁師である平凡なペテロの傍らにおいて主イエスは業をなさ 無きに等しい者をあえて選ばれて。(コリント I 一章)シモンを弟子として選びペテロ(岩)と名付けた時、 速さではなく、決断の質を表わす。そしてイエスは弟子と共に歩み弟子と共に生活した。この世の弱い者、 照らされ、もう一度受けとめようとする弟子の視点を通して福音書は書かれている。イエスが神の福音を述 れる。裏切りを絶望で終わらせず、不可欠な存在として招かれている自分自身をペテロに発見させ、光をも べ伝える最初になされたことは、弟子の召命であった。その呼びかけにすぐに応えた弟子達。「すぐに」とは 三年前に主イエスに出会って従ってきた歩みは何であったのか―「主の十字架とよみがえり」という光に

いありのままの姿、その中において「わたしに従え」という主のことばを聞く。

神である主、今おられ、 かつておられ、やがて来られる方、全能者がこう言われる。「わたしはアルファであ

り、

オメガである。」

やふやに生きている。C. S. Lewis の『悪魔の手紙』には、―悪魔は人を過去か未来のどちらかへ向かわせ、 される。つまり自分の過去をどう評価するかは、客観的な事実より、今の状態に依存する。それほど今をあ 人は逆境にあるとき、その理由を過去に押しつけて、過去を悔む。順境にあるとき過去が美しく思い起こ

現在に注目させない―とある。

我 修正を良しとしてくださり、神が全責任をもって喜びの完成に導いて下さることである。 られ」(一章四節八節)る神が支配される。神から与えられた現在の一コマを条件抜きで生きよ、と命ぜられ 々は何度も人生の軌道修正をし、今も修正にあくせくしている。「ωである」とは、終わりの時に神は軌道  $\lceil \alpha$ であり $\alpha$ である」とは、 神は開始であり完結でもある、に等しい。若い時の夢の実現が破たんして、 現在の私を「今お

そのとき、不安と焦りの代わりに恵みをくださる。

なおさら従順でいて、恐れおののきつつ自分の救いを達成するように努めなさい。あなたがたの内に働いて、 だから、わたしの愛する人たち、いつも従順であったように、わたしが共にいるときだけでなく、いない今は

御心のままに望ませ、行わせておられるのは神であるからです。

何に難しいかを示している。 与えられた恵みを無駄にしないように、とフィリピの教会に勧めた。 るように、 て真の信仰生活が見えてくる。 アウグスチヌスは、信仰生活に必要なのは第一に謙遜、第二に謙遜であると告白した。謙遜であることは如 あると神人協力主義者は主張するが、パウロは、不足分を自分の努力で補うのではなく神の前に従順であり、 パウロは、自分が不在でも「なおさら従順で」(二章十二節)と言われた。救いの道には人の努力も必要で 「互いに愛し合うことのほかは、だれに対しても借りがあってはなりません。(ロマ十三章八節)」とあ 愛の借金があればあるほど、愛が増す。 我々は何度も破綻して砕かれ、最後に神の前に謙遜で従順になった時、はじめ 我々は神の前に立った時、愛が見え、 神の前での従順は、謙遜と同等である。 傲慢さが消えるか

キリスト・イエスにおいて造られたからです。 なぜなら、 わたしたちは神に造られたものであり、しかも、神が前もって準備してくださった善い業のために、 わたしたちは、 その善い業を行って歩むのです。

分の善さに生きて、 である。 福をもって受け入れてくださる。 の祝福として味わうのが日曜 天地 創造に際して神は創造したすべてを善しとされ、 神に造られたと自覚したとき、恵みと感謝を感じることができる。 止まるのでもなく走るのでもなく、 の礼拝である。 自分の弱さに意気消沈しても、 礼拝では、 毎日たゆみなく歩むことである。 自分は神の駄作だと思われても、 七日目に祝福のために休まれた。 それは自分から出たものでなく、 「善い業を行って歩む」とは、 神の作品とし 創造の祝福を自分 神 0 賜 そ祝 物

きるよう、 神 の作品となるのは、自分だけでなく私たちであるから、 勧められている。 信仰的な善い業は、 ①目先のことや人の考えに依らず、こつこつ天に宝を積ん 自分の善さだけでなく他人の善さをも認めて生

でいく業、

②自由と自発性に基づく業である。

神の作品であるから。

# 聖霊の降臨 ― 使徒言行録 2:1-4 (聖霊降臨日)

五旬祭の日が来て、一同が一つになって集まっていると、突然、激しい風が吹いて来るような音が天から聞こ すると、 彼らが座 一同は聖霊に満たされ、。霊,が語らせるままに、ほかの国々の言葉で話しだした。 っていた家中に響いた。 そして、炎のような舌が分かれ分かれに現れ、一人一人の上にとどまっ

は、 たが、 復活 しさを表すごとく、 イエスの弟子たちは、しもべである救世主の説教、 人の努力や功績によってではなく、 の主の出現、と続くめまぐるしい経験をし、当惑していた。イエスの使命は十字架の形でのみ完成 死後に使命を語るための聖霊を必要とした。モーセが律法を与えられた日である五旬節に、 聖霊が炎の形で、多種言語の形で、天から一方的に弟子たちに下った。イエスの降誕 聖霊によってマリアが身ごもった。 民衆からの賛美、 指導者による策略、 イエスの処刑 使命 の激

れた。 ものを変えるということで、 さる。そのとき私たちの心は貧しく、神の言葉を恵みとして受け入れる。「執り成す」とは、手にとって他 ために執り成してくださる(ローマ八章二十七節)」とあるように、聖霊は私たちを弱さにおいて助けてくだ 福音書の弟子は、イエスの前でおろおろしていたが、聖霊降臨以降の弟子は勇敢に立ち向かう姿に変えら 弟子の努力によるのではなく、聖霊によって変えられた。「聖霊は神の御心に従って、聖なる者たちの 関係の修復である。自分の思い通りでなく、 神の御旨に従うよう、 聖霊は私た

ちを変えてくださる。

#### 狭い門 マタイ 7: 13 - 14

に通じる門はなんと狭く、 い門から入りなさい。滅びに通じる門は広く、その道も広々として、そこから入る者が多い。 その道も細いことか。それを見いだす者は少ない。」 しかし、命

日本で用いられる「狭き門」は、皆の注目で殺到した結果、事実上狭くなった門を指す。 聖書では逆で、

門戸は広いが、 欲主義と考えるグループがあり、排他的、 皆が見ようともしないから狭く見える。 独善的、 清教徒的な信仰を生んだ。ジイドの『狭き門』も一例か。 聖書の狭き門を、人が努力すべき道、 厳格な掟、 禁

社会の掟に従い、自分の考えに固執するほうが、命の道を求めるより安住していられる。 スは人々を悲しむ。 1 エスの語る狭き門は、 イエスに忠実な弟子たちも命の道を見出せず、十字架を前にして逃げ去った。 目立たず人生の片隅にあり、見出す人は少ない。この門が見えないのか、とイエ これが広き門であ 格好よく

はないが、 る。 狭き門の前では、 悔い改めにより門を見出すよう、 私たちは日ごとに新たにされ、 招かれている。 神の言葉の真実に頭を下げる。 この世的に簡単な道で

V いつも喜んでいなさい。 て、 神があなたがたに望んでおられることです。"霊"の火を消してはいけません。 絶えず祈りなさい。どんなことにも感謝しなさい。これこそ、 キリスト・イエスにお

イエスが十人のライ病患者を癒したとき、感謝のためにイエスに戻ってきたのは、一人のサマリヤ人だけ

九人は病から癒されたが、一人は病の癒しに加えて、

主と共に生きる自分を得た。

何もできない自

分を認めて主の前にぬかずき、自分を受け入れていただいた。これが感謝であり、礼拝のあり方と一致する。

1 エスはサマリヤ人の感謝を、 あなたの信仰があなたを救ったと語った。人のために何かができるのは大

さに気付き、 かにされる。 きな恵みである。他方、人からしてもらうことを感謝して受け入れることも恵みである。 他者から与えられて感謝するとき、 私たちは他を補う存在であると同時に、 神が私をどう創造されたか、見えてくる。 補ってもらうべき不完全な存在である。 それによって、 自分の不完全

り、復活にあずかる者として、神の子だからである。死者が復活することは、モーセも『柴』の個所で、 とされた人々は、めとることも嫁ぐこともない。この人たちは、もはや死ぬことがない。天使に等しい者であ の神なのだ。すべての人は、神によって生きているからである。」 アブラハムの神、イサクの神、ヤコブの神と呼んで、示している。神は死んだ者の神ではなく、生きている者 われた。 「この世の子らはめとったり嫁いだりするが、次の世に入って死者の中から復活するのにふさわ 復活の時、その女はだれの妻になるのでしょうか。七人ともその女を妻にしたのです。」イエスは 、主を

性は当時、生きていけなかった。サドカイ人はそれを問答の種にしたほど、弱者を考えない集団であ か」が問題になった。 復活の記事がないモーセ五書に頼るサドカイ人は、復活に関する愚問をイエスに投げかけた。 自分達が築き上げた宗教秩序は、 それに対してイエスは 復活後の世界にも継続すると考えていた。 「神は生きている者の神なのだ」と、 神不在で自分達を中心に だから 「復活後は 子のない女 った。 0

:動くと考えていたサドカイ人を非難した。

在による片時の静けさが訪れることがある。 年老いて喜びのないアブラハムに神が現れ、 生きている者として耳を傾けるとき、 神の足音が聞こえてくる。そのとき自分の都合はどうでもよくな 無から有を造られる神の足音である。 子孫を約束された。 我々の騒がしい 退屈しのぎの生活ではな 日常にも、 神  $\mathcal{O}$ 御 手 か介

命を求める生き方に変えられる。

119

はいけない。」ところが、女は答えて言った。「主よ、しかし、食卓の下の小犬も、 女はギリシア人でシリア・フェニキアの生まれであったが、娘から悪霊を追い出してくださいと頼んだ。 汚れた霊に取りつかれた幼い娘を持つ女が、すぐにイエスのことを聞きつけ、来てその足もとにひれ伏した。 スは言われた。「まず、子供たちに十分食べさせなければならない。子供たちのパンを取って、小犬にやって 子供のパン屑はいただきま ・イエ

も子供のパン屑をいただきます」と返した。この女性の行いは優雅であり、 ギリシャ人の女性が偶像礼拝の中心地であったティルスで、娘の悪霊を追い出してくれるようイエスに 神の救いは真っ先にユダヤ人に注がれるべきだとイエスは応答したが、女性は不平を言わずに 傲慢さがなく自由である。 主

指導者と徹底的に論争して勝ち抜いたが、 音書の題材である降誕 我々は切に願えば願うほど、人は自分の努力を受け入れてくれないといって、 十字架、 説教、 奇跡、 異邦のやもめとの論争に負けた。そこには、 論争の内で、 論争に属すると言われている。 傲慢になる。この記事は福 神の霊が女性と共に 1 工 ス は

前で大胆に恵みを現わしてくれるように願い、その結果、祈りがかなえられた。

009/6/28

言われた。「なぜ、わたしを試そうとするのか。デナリオン銀貨を持って来て見せなさい。」彼らがそれを持っ 彼らは来て、イエスに言った。「(中略) 皇帝に税金を納めるのは、律法に適っているでしょうか、適っていな スは言われた。「皇帝のものは皇帝に、神のものは神に返しなさい。」彼らは、イエスの答えに驚き入った。 て来ると、イエスは、「これは、だれの肖像と銘か」と言われた。彼らが、「皇帝のものです」と言うと、 いでしょうか。 納めるべきでしょうか、 納めてはならないのでしょうか。」イエスは、 彼らの下心を見抜 イエ

論のために作られた議論である。 納めろと言えばローマの被征服民族の尊厳を失って民衆はイエスを離れていく。どちらの答えも窮する、 めるのはユダヤの律法にふさわ ロデ党とファリサイ派は政治的に対立していたが、イエスを責め立てることには一致し、税を皇帝に納 しいかイエスに問うた。 イエスは銀貨デナリオンに刻まれた肖像を問題にし、 皇帝に納めるなと答えればローマに対する反逆罪 貨幣は肖像である皇

ある。 エスの目は実に冷静だった。「人は神のもの」であることを見落としていた彼らは、 神は自分の形に人を造られた(創世記1)とあるように、人は神の像を宿している。人を戻す場所は神で 神の ものを本当に神に戻しているだろうか。いつのまにか金を神に置き換えてはいないだろうか。イ イエスの答えに驚き入っ

へ戻せと答えた。

ここに、人をどこへ戻せばよいか、

の問いが隠されている。

た

2009/7/5

身を慎んで目を覚ましていなさい。あなたがたの敵である悪魔が、ほえたける獅子のように、だれかを食い尽 思い煩いは、 くする兄弟たちも、この世で同じ苦しみに遭っているのです。それはあなたがたも知っているとおりです。 くそうと探し回っています。信仰にしっかり踏みとどまって、悪魔に抵抗しなさい。あなたがたと信仰を同じ 神の力強い御手の下で自分を低くしなさい。そうすれば、 何もかも神にお任せしなさい。神が、あなたがたのことを心にかけていてくださるからです。 かの時には高めていただけます。

とでなく、今という場である日々の行動の小さな積み重ねである。ルターは神から義と認められるもの 本来の意味は「じっと立ち続ける」ことである。抵抗は短時間に叫んだり武装したり頑固に主張するこ ある故に幽閉された女性が、三十八年かけて獄の床石に爪で"resist"(抵抗)の文字を彫った。 resist の 教会の歴史は抵抗の歴史でもある。十字軍の出発地である仏エグモンズ城の牢獄にプロテスタントで

ずで、神が私のすべてを最もふさわしいように準備してくださる。それで充分である。 トロは言う。復活のイエスキリストが共に居てくださるので、今のところに立ち続けることができるは が私たちに心をかけて下さるから安心して「思い煩いは、何もかも神にお任せしなさい(七節)」とペ 自分の手ですべてを解決しなければ気が済まないのが、思い煩いである。だから不安に支配される。

聖書を読む日常から悟り、九十五カ条の論題を発表した。

イエスはこの群衆を見て、 山に登られた。腰を下ろされると、弟子たちが近くに寄って来た。そこで、イエス

「心の貧しい人々は、幸いである、/天の国はその人たちのものである。

は口を開き、

教えられた。

柔和な人々は、幸いである、/その人たちは地を受け継ぐ。悲しむ人々は、幸いである、/その人たちは慰められる。

憐れみ深い人々は、幸いである、/その人たちは憐れみを受ける。義に飢え渇く人々は、幸いである、/その人たちは満たされる。

心の清い人々は、幸いである、/その人たちは神を見る。

義のために迫害される人々は、幸いである、/天の国はその人たちのものである。 平和を実現する人々は、幸いである、/その人たちは神の子と呼ばれる。

は幸いである。 わたしのためにののしられ、迫害され、身に覚えのないことであらゆる悪口を浴びせられるとき、 喜びなさい。大いに喜びなさい。天には大きな報いがある。あなたがたより前の預言者たち あなたがた

も、同じように迫害されたのである。」

り、 Ш 主の祈りにも見られる。貧しい人が幸いな理由は、天の国がその人たちのものだからである。 上の説教にある八つの「幸い」の文は、最初の句を後続する句で説明するユダヤの特徴的な並行文であ

に貧しくなって修道院に入る。貧しいが、失敗や成功をすべて神に委ねた明るさと自由がある。こだわりの 故に、神の御心を受け入れ、神の国に入れる。カトリックでは世に価値のあるものをすべて捨て、この世的 うに求め、それが祝福・幸いの根源となる。主を証ししていくことの中に本当の祝福が見出される。 ないものとを識別する知恵を与えたまえ」と祈った。人には限界があるが、心を開いて御心を受け入れるよ ことがあるという。ニーバーは「変える(こだわる)ことのできるものと、変える(こだわる)ことのでき ない自由こそ神の国に近い。しかし、修道院でこだわりのない生活を始めても、実に小さなことにこだわる

#### ニーバーの祈り

それを変えるだけの勇気をわれらに与えたまえ。神よ、 変えることのできるものについて、

変えることのできないものについては、

それを受けいれるだけの冷静さを与えたまえ。

識別する知恵を与えたまえ。 そして、変えることのできるものと、変えることのできないものとを、

009/7/19

恵みの福音を力強く証しするという任務を果たすことができさえすれば、この命すら決して惜しいとは思いま げてくださっています。 しかし、自分の決められた道を走りとおし、また、主イエスからいただいた、 わたしは、、霊,に促されてエルサレムに行きます。そこでどんなことがこの身に起こるか、何も分か (中略) 神とその恵みの言葉とにあなたがたをゆだねます。この言葉は、 ただ、投獄と苦難とがわたしを待ち受けているということだけは、聖霊がどこの町でもはっきり告 あなたがたを造り上げ、聖な

その途中、三年間滞在したエフェソ教会の人と会見した。人々は、福音を証する任務を果たすためには死を 分の力で努力するのでなく「神とその恵みの言葉に委ね(三十二節)」なさい、と勧めた。 も覚悟するパウロの言葉に、涙を流した。にもかかわらずパウロは、エフェソの教会への迫害に対して、 ほど多くの迫害に遭ったが、 使徒行伝が聖霊行伝と言われるように、使徒は聖霊によって導かれた。パウロは異邦人に伝道すればする る者とされたすべての人々と共に恵みを受け継がせることができるのです。 聖霊に導かれて、最大の迫害が予想されるエルサレムへ旅立とうとしていた。

て待つことである。 ものがあった。私たちの生活も同様である。「委ねる」は、神に向かって自分を手放すことであり、また信じ 人が委ねる相手を持っていることは、最大の幸せである。エフェソ教会には、委ねなければ克服できない 主は委ねる生き方を待ち望み、その恵みを受け継がせようと私たちを導かれる。イエス

キリストは血をもって私たちを買い取られたからである。

た人たちが家に帰ってみると、その部下は元気になっていた。 われた。「言っておくが、イスラエルの中でさえ、わたしはこれほどの信仰を見たことがない。」 しろ』と言えば、そのとおりにします。」イエスはこれを聞いて感心し、従っていた群衆の方を振り向 兵隊がおり、一人に『行け』と言えば行きますし、他の一人に『来い』と言えば来ます。また部下に『これを ヤ人の長老たちを使いにやって、部下を助けに来てくださるように頼んだ。(中略)ひと言おっしゃってくだ る百人隊長に重んじられている部下が、 わたしの僕をいやしてください。わたしも権威の下に置かれている者ですが、 病気で死にかかっていた。イエスのことを聞 いた百 わたしの下には 人隊長は、 使いに行っ いて言

ない信仰を見出し、 伝わるという自分の経験をもとに、 べを癒してください」と御言葉を求めた。 の病を癒してくれるよう、ユダヤ人長老に取り次ぎを願い出た。王からの権威的命令は言葉を通して部下に カファルナウムで会堂を建てるほど豊かな財力があり、 感心された。長老と隊長の使いは、 隊長はイエ イエ スは言葉を求める隊長の中に、 スの前にへりくだって「ひと言おっしゃってください。 イエスの意外な応答に驚いた。 ユダヤ人に人望の高い百人隊長が、イエスに部下 神の民であるイスラエルにも

生き方をしているか、 心の癒しが与えられた。「お言葉通りなりますように」とのマリアの信仰と相通じる。 御言葉にすべてを委ねるのが信仰であり、 私たちは問われている。 そのとき主は来てくださる。 体の癒しを超えて、 御言葉の力に覆われた の泉による

て赦されることがない』ようになるためである。」 で示される。 イエスは言われた。「あなたがたには神の国の秘密が打ち明けられているが、外の人々には、すべてがたとえ イエスがひとりになられたとき、十二人と、イエスの周りにいた人たちとが、たとえについて尋ねた。そこで、 それは、『彼らが見るには見るが、 認めず、聞くには聞くが、理解できず、こうして、立ち帰っ

見損なう人がいることを嘆いた。アブラハムの妻サラの女奴隷であるハガルは、渇水の荒野に追われ、息子 の死を目の前にして泣いた。「ハガル」は逃亡を意味する。裸になって逃げ、救いを求めたとき、 エスの教えは閉ざされる。イエスは神の国の秘密をたとえ話で語られ、イザヤ書を参照して、見ても本質を 1 エスのたとえ話は一見簡単そうだが、知的理解に留まって自分の問題として受け入れない範疇では、 神の手がハ

見える。イエスとの出会いによって、我々は見えるものに変えられる。 るものを、 沢山の宝を身につけている我々は、 イエスはご覧になっている。裸になって御言葉に触れ、霊の賜物を受けるとき、 神の国の宝を見てもその本質がつかめない。 我々の根源的に欠けてい 見えないものが

ガ

ルに注がれ、

井戸が与えられた。

127

イエスは、御自分を信じたユダヤ人たちに言われた。「わたしの言葉にとどまるならば、 たしの弟子である。 あなたたちは真理を知り、 真理はあなたたちを自由にする。」 あなたたちは本当に

神の栄光をほめたたえ、暗殺しなかった。 書ではそれを罪という。ダビデは、自分の命を狙うサウル王を暗殺する機会を得たが、サウルに油を注 める代わりに自分の栄光を求める。その結果、自分にとって最も大切なものの奴隷になって支配される。 信仰は消え失せることがあり、慣習や規律に置き換わる危険性もある。 信仰が変質すると、神の栄光を求

が真理にほかならない。人と共に歩む愛に根差した真理が私たちを自由にする。 るイエスキリスト(八章五十七節)とロゴスである神の言葉(一章一節)の内に歩むよう、 ハネによる福音書は「私の言葉にとどまる」や「私の枝につながっていなさい」のように、世の初めから在 私たちは、 栄光を神に返し、 奴隷から解放される方向への自由を求めるよう、 勧められている。 主張している。これ

## 神から出たもの ―― 使徒言行録 5: 27 - 42

ちの取り扱いは慎重にしなさい。 徒たちをしばらく外に出すように命じ、それから、議員たちにこう言った。「イスラエルの人たち、 民衆全体から尊敬されている律法 以前にもテウダが、自分を何か偉い者のように言って立ち上がり、その数四 の教師で、 ファリサイ派に属するガマリエルという人が、議場に立って、使

た者も皆、ちりぢりにさせられた。そこで今、申し上げたい。あの者たちから手を引きなさい。ほうっておく その後、 すことはできない。もしかしたら、諸君は神に逆らう者となるかもしれないのだ。」 あの計画や行動が人間から出たものなら、 住民登録の時、ガリラヤのユダが立ち上がり、民衆を率いて反乱を起こしたが、彼も滅び、 の男が彼に従ったことがあった。 彼は殺され、 自滅するだろうし、神から出たものであれば、 従っていた者は皆散らされて、 跡形もなくなった。

るのが人の歩みである。 のなら滅ぼせない、と説得した。我々は滅びや無視に耐えられない。永遠に他人に覚えられ、 興奮する祭司などの指導者に向かって、律法の教師ガマリエルは、人から出たものは滅びるが神から出たも 人の 聖霊降臨 所有物ではなく、それに与(あずか)るものであるとのイエスの教えに、財産と律法を中心として人 (ペンテコステ) のすぐ後、 永遠の命を得るにはどうしたらよいか、と富める青年がイエスに問うた。 大祭司はイエスの教えの拡大を恐れ、 使徒を捕えて殺そうと企 永遠を追 永遠の命 求

生を切り開こうと努力していた青年は退散した。

説教で述べられた。 分が打ち砕かれ、キリストの苦しみを共にし、苦しむ人と共にある―この人こそ幸いだ、 けたことを喜んだ(四十節)が、 から出たものを私はただ反射するだけであり、それで充分である。弟子たちはイエスの名のために辱めを受 を自分から神へ置き換える。これが悔改めである。「神から出たもの」は神から出発し、 生きる中心は自分でなく、 神から来た幸いは誰も奪い取ることができない。 神である。神の御心は何かを問い、そこから自分を受け取り直し、生きる中心 神から出たものを受けて輝いたのに他ならない。 キリストのために古 私からではない。 とイエスは山上 0

ファリサイ派とサドカイ派の人々が来て、イエスを試そうとして、天からのしるしを見せてほしいと願った。

朝には『朝焼けで雲が低いから、今日は嵐だ』と言う。このように空模様を見分けることは知っているのに、 イエスはお答えになった。「あなたたちは、夕方には『夕焼けだから、 晴れだ』と言い

そして、イエスは彼らを後に残して立ち去られた。 時代のしるしは見ることができないのか。 よこしまで神に背いた時代の者たちはしるしを欲しがるが、ヨナのしるしのほかには、しるしは与えられない。」

ために来られた。使徒トマスは復活のイエスに徴を求めたが、イエスに出会った時、論証なしで「我が主よ」 エスに天からの徴(しるし)を求めた。イエスは、徴は既に示されており、見る目があれば見えると語った。 ると考えた。しかし、イエスは自分達の思い通りのメシヤではなかった。それを民衆に証明しようとしてイ の中にはイエスをメシヤ(救世主)だという人もいるけれど、最終的にメシヤだと判断するのは自分達であ イエスは神の存在を論証するために来られたのではなく、人々が神の御心を知って受け入れるようになる ファリサイ派とサドカイ派は、それぞれ律法の順守、礼典の施行に専念し、信仰の形式を重視した。民衆

を願い求める者に与えられる。

スにひざまずいた。

これが救いの道筋、

信仰の洞察である。

神の徴はイエス御自身であり、

復活の徴

難の日、 告白を神へのいけにえとしてささげ、いと高き神に満願の献げ物をせよ。それから、わたしを呼ぶがよい。 わたしはお前を救おう。そのことによって、お前はわたしの栄光を輝かすであろう。」

当の願 さる。 悩みながら運命の絆と格闘する中で、 なくてもいいような生活をするな、と言われる。我々は願いが叶えられることを期待するが、 にある願いは、生活苦に置かれているとき日毎の糧を求めるように、具体的である。 て欲しいか」とのイエスの問いに、バルティマイは「目が見えるようになりたい」と具体的に応えた。 苦難にあるときの願いは叫びであり、祈りでもある。神は、苦難の日に私を呼べ、私を無視したり私が 盲人バルティマイは それが救いであり、 いを知らない。 最も知っていると思っている自分を知らない。 「私を憐れんで下さい」と、ひたすらイエスに向かって叫んだ(マルコ十章)。「何をし 本当の願いに気づかされる場である。 神を呼び求める。 そのとき神のほうから私を呼び、 我々はその恵みにひたすら感謝 神が私をご存じである。 神の 我々は苦しみ 実は自分の本 玉 したい。 導 いて下

2009/9/6

べて、悪いことです。人がなすべき善を知りながら、それを行わないのは、その人にとって罪です。 のことやこのことをしよう」と言うべきです。ところが、実際は、誇り高ぶっています。そのような誇りはす 現れて、やがて消えて行く霧にすぎません。むしろ、あなたがたは、「主の御心であれば、生き永らえて、あ よく聞きなさい。「今日か明日、これこれの町へ行って一年間滞在し、商売をして金もうけをしよう」と言う あなたがたには自分の命がどうなるか、明日のことは分からないのです。 あなたがたは、

拝を守る。「安息日とは、人間の業に対する神の中断である。」(ハイデルベルク信仰問答) 自分中心のあり方から神に目を向けよ、とされているのだ。 されることにより、今まで見えなかったものが見えてくるようになる。日曜ごとに私達は歩みを中断して礼 自分の予定や計画とは全く違う道を歩まされることは、人生において誰にでも起り得ることである。 中断を通して、 中断

132

する御子を十字架につけて神との交わりを断ってしまったが、神は再び復活の主として私達に主イエスを与 えてくださり、神の愛に私達を結びつけようとなされた。人々に真に生きるべき道をあらわされた。 イエス・キリストの生涯は、十字架につけられるという、まさに中断された人生であった。人間は神の愛

神は、 が宣べ伝えているイエスによって、お前たちに命じる」と言う者があった。ユダヤ人の祭司長スケワという者 祈祷師たちの中にも、悪霊どもに取りつかれている人々に向かい、試みに、主イエスの名を唱えて、「パウロ の七人の息子たちがこんなことをしていた。悪霊は彼らに言い返した。「イエスのことは知っている。パウロ パウロの手を通して目覚ましい奇跡を行われた。彼が身に着けていた手ぬぐいや前掛けを持って行って 病気はいやされ、悪霊どもも出て行くほどであった。ところが、各地を巡り歩くユダヤ人の

とき、弟子をはじめ私たちを指し示している町が輝く。 ことができない」(山上の説教)ごとく、イエスという山の土台に支えられながら揺れ動く弱さを人に伝える ストが自分と共におられることを知ることである。そのとき「あなた方は世の光」で「山の上の町は隠れる と共に病み、傷ある者に寄り添う生き方である。パウロの生き方に触れた人は主によって生かされた。 わざここで記した。 信仰の成長は不動で強くなることではなく、祈らざるを得ない自分の弱さを知ることであり、イエスキリ 聖書はパウロ のこともよく知っている。だが、いったいお前たちは何者だ。」 の奇跡をほとんど記さないが、パウロ 魔術師がパウロの方法を真似したが失敗した。人を癒すのは方法でなく、病んでいる人 の前掛けを病人に当てると癒された、との奇跡をわざ 神はこのように人の弱さや逆境を信仰の成長として

用いられる、

と著者ルカは告白する

わたしの母、 た。「御覧なさい。 しの母、 イエスの母と兄弟たちが来て外に立ち、人をやってイエスを呼ばせた。大勢の人が、イエスの周りに座 わたしの兄弟とはだれか」と答え、周りに座っている人々を見回して言われた。「見なさい。 わたしの兄弟がいる。 母上と兄弟姉妹がたが外であなたを捜しておられます」と知らされると、 神の御心を行う人こそ、わたしの兄弟、 姉妹、 また母なのだ。」 イエスは

ることの二面性を持ってい りますように」とのマリアの祈りと対照的であるが、信仰は、自分に都合良く願うことと、 のある母と兄弟だった。母はイエスを自分の手元に戻したかった。この行動は、 とか何ができる〉とは無関係に、 族に対して 悪霊につかれていると噂されたイエスの活動を制するため、家族がイエスを連れ戻しにきた。 「神の御心を行う人こそ私の兄弟」と言われた。 主の周りに、 ただ座ることである。 御心を行うとは、その人が 主の座卓の外に立っているの 降誕時の 〈社会の何に役立 「お言葉通りに 神の御心を求め イエスは家 は 血 の絆

が天の絆へと変えられ、その人のあるがままが天に受け入れられ、 最も平凡な家族の中に、 血. の絆の中に、 人の深い罪が含まれている。 「神の家族」となる。 主の周りに座ることにより、 ώ. 一の絆

## からし種とパン種 ― マタイ 13: 31 - 35

どの木になる。」 また、別のたとえをお話しになった。「天の国はパン種に似ている。女がこれを取って三サ に蒔けば、どんな種よりも小さいのに、成長するとどの野菜よりも大きくなり、 った。「わたしは口を開いてたとえを用い、天地創造の時から隠されていたことを告げる。」 たとえを用いないでは何も語られなかった。 トンの粉に混ぜると、やがて全体が膨れる。」 イエスはこれらのことをみな、たとえを用いて群衆に語られ イエスは、 別のたとえを持ち出して、彼らに言われた。「天の国はからし種に似ている。人がこれを取って畑 それは、預言者を通して言われていたことが実現するためであ 空の鳥が来て枝に巣を作るほ

に、大きい見えないものを期待しながら育てるのが、信仰である。我々の目には小さくて隠れているように えるところに、主はおられない。神に遣わされた者は、この世の小さいものに仕える僕(しもべ)である。 見えるが、神はそこに目を注いでくださる。それを受け止めようとする人に、豊かに与えられる。大きく見 福音書にあるイエスの六十のたとえ話は、からし種やパン種のように、誰にでもわかる日常の生活の場に立 っている。イエスは、種のように小さいものをたとえに用いた。今は大きくなる兆しはない小さい 最も小さくて弱い者の僕となったのが、イエスキリストであり、十字架に象徴されるように、身をもって 神の国は、あり得ないユートピア(理想郷)ではなく、現実に人が生きる信仰の国である。だから、共観 ものの中

2009/10/11

僕となられた。神はそこに目を注ぎ、イエスを復活させられた。

#### 喜ばしい香り フィリピ 15

自分の栄光の富に応じて、キリスト・イエスによって、あなたがたに必要なものをすべて満たしてください 満ち足りています。それは香ばしい香りであり、神が喜んで受けてくださるいけにえです。わたしの神は、 物を当てにして言うわけではありません。むしろ、あなたがたの益となる豊かな実を望んでいるのです。わた テサロニケにいたときにも、 しはあらゆるものを受けており、豊かになっています。そちらからの贈り物をエパフロディトから受け取って あなたがたはわたしの窮乏を救おうとして、何度も物を送ってくれました。 御

香油の香りとして神のもとへ届けられ、 た。天国へ持っていけるものは、捧げたものや分かち合ったものだけである。そのような贈り物はナルドの フィリピの教会はパウロに好意的で、パウロに沢山の贈り物を捧げた。贈った分だけ損するように思える 神はそれ以上に用いてくださる。パウロは贈り物を神に感謝し、フィリピの人々の益になるように祈っ 神の前に積み立てられ、 神に喜ばれる。

である。 である。 本当の贈り物は、 捧げるしかできないこの私を清めて受け入れたまえ、と祈る心である。 -私は価値があるから愛されるのではなく、神に愛されるから価値がある(ルター)―と思う心 いけにえではなく、「生きた聖なる供え物」(ローマ十二章一節)としての、くだけた心

る。 姉妹はわたしだけにもてなしをさせていますが、何ともお思いになりませんか。手伝ってくれるようにおっし やってください。」 主はお答えになった。「マルタ、マルタ、あなたは多くのことに思い悩み、心を乱してい マルタは、いろいろのもてなしのためせわしく立ち働いていたが、そばに近寄って言った。「主よ、わたしの しかし、必要なことはただ一つだけである。マリアは良い方を選んだ。それを取り上げてはならない。」

とは、中心が沢山あって焦点が決まらない生活を表す。イエスは「必要なことはただひとつだけ」と語り、 ことへの批判だった。 のような選ぶ形でイエスに従い、その姿が二千年経た今でも新鮮な信仰として伝わってくる。 他の可能性を捨てて選び取る生き方を強調した。 はイエスをもてなすという最も素晴らしいことを選んだが、心を煩わせた。「多くのことに思い悩んでいた」 なしは女性の務めであり、 ロテスタントの主張に従い、 イエスのための食卓準備に忙しいマルタと、イエスの話に耳を傾けるマリヤ。信仰によって義とされるプ [を聞く静かな女性と思われることが多いが、実は型破りの人で、マルタの発言はマリヤが非常識である イエスはそのようなマリヤにも「良い方を選んだ」との選択を認めた。一方、 マリヤのように女性がラビの足元に座ることは許されなかった。マリヤは マリヤのように御言葉を聞く姿勢が強調されてきた。当時の社会では客のもて マルタの生き方もあり、 マリヤの生き方もあり、 2009/10/25 姉妹はこ マルタ ・エス

# 冷たいか熱いか ― ヨハネの黙示録 3: 14 - 22

はあなたの行いを知っている。あなたは、冷たくもなく熱くもない。むしろ、冷たいか熱いか、どちらかであ アーメンである方、誠実で真実な証人、神に創造された万物の源である方が、次のように言われる。「わたし ってほしい。熱くも冷たくもなく、なまぬるいので、わたしはあなたを口から吐き出そうとしている。…」

は厳しい内容であった。皇帝 オディキアに送られた手紙 融で栄えたシリアの都市、ラ に手紙が送られた。とくに金 ある。本聖句では七つの教会 よって信仰を記した書物で で同胞にだけわかる隠語に 黙示録は、激しい迫害の中

崇拝 き 周 の命令が民衆に下っていたが、ラオディキアには甘かった。 囲 環境、 社会に同化していた。そこに、「熱くも冷たくもなく、 金と絹と薬で栄えた教会は肥え安定して生 なまぬるい」のイエスの言葉が刺

た。

何も持たずに神の前に立つことから始まる。 テ D は網を捨て、 徴税人レビは取税所を捨ててイエスに従ったごとく、 裕福な青年は、 永遠の命を求めながらも、 信仰は社会からの補償なしで、 財産の 故に 顔を曇ら

Huntの 代表作 「世の光」 では、 私たちがかんぬきを外すまで主イエスが戸を叩いておられる。 しかし私たち

イエスは私たちに貧しくなって光を受け入れるよう求めておられる。

英の

画家

W. H.

は、貧しさには目が開かれない。

せてイエスを離れた。

2009/11/1

絵 画は W. Ħ. Hunt どよる The Light of the World (Keble College, Oxford

の壁にある)

神は言われた。「我々にかたどり、我々に似せて、人を造ろう。そして海の魚、空の鳥、 家畜、 地の獣、 地を

神は御自分にかたどって人を創造された。 神にかたどって創造された。男と女に創造された。

這うものすべてを支配させよう。」

神は彼らを祝福して言われた。「産めよ、増えよ、地に満ちて地を従わせよ。海の魚、 空の鳥、 地の上を這う

生き物をすべて支配せよ。」

て生きる存在として創られた。妻にとっての夫、夫にとっての妻と同じくして、人は神と向き合う存在とし 創世記の天地創造の物語では、 神にかたどって男と女が創られた。男と女は、パートナーとして向き合っ

神は一人として同じ人間を創らず、各自に固有の宝を授けられた。社会は同質化を良しとするので、

て創られた。「神にかたどった」のは、神の像を人に宿して、自分の栄光ではなく神の栄光を讃えるためであ

有の宝を嫌うことが多い。しかしイエスは九十九匹の羊を残して、世から離れた一匹の羊を探し求められる。

追放される時、 あなたは今どこにいるかと神は問われたが、我々は神に問うのでなく、 問われる存在である

我々は、与えられた宝を不満に思い、どんな宝を与えてくれるか神に問い続ける。アダムとエバが楽園を

ことを忘れている。

#### 神殿崩壊の予告 ― マルコ 13:1-2(待降節第一聖日)

なんとすばらしい建物でしょう。」 イエスは言われた。「これらの大きな建物を見ているのか。一つの石もこ こで崩されずに他の石の上に残ることはない。」 イエスが神殿の境内を出て行かれるとき、弟子の一人が言った。「先生、御覧ください。なんとすばらしい石、

しかしイエスの言葉は神殿崩壊を告げ、 る生活であり、 してゆく。ここに登場する神殿はヘロデによって建てられた豪華なものであり、 イスラエルの民は出エジプト時代にあっては「幕屋」という移動式礼拝所を大切にした。神と共に移動す 信仰が最も高められた時期でもある。定着した生活となり、神殿が建てられ民の信仰は低下 賑わいの向こうにある廃墟とも呼びうるものに目を注ぐ。馬小屋に 弟子たちは目を奪わ れる。

深い福音理解がここにあるのではないか。 ものを見続けようとするあり方。自分の生活を通して、イエスが目を注いでおられた方向を指し示すあり方。 福音という光が私達の内に注がれるとき、罪があらわにされる。ここに立ってイエスと共に、背後にある

生まれ十字架にかけられたご自身の在り方にも象徴されるものに。

# 来るべき方 ― マタイ 11: 1 - 15 (待降節第二聖日)

たしにつまずかない人は幸いである。」 キリストのなさったことを聞いた。そこで、自分の弟子たちを送って、尋ねさせた。「来るべき方は、 いる人は清くなり、耳の聞こえない人は聞こえ、死者は生き返り、貧しい人は福音を告げ知らされている。 していることをヨハネに伝えなさい。 イエスは十二人の弟子に指図を与え終わると、そこを去り、方々の町で教え、宣教された。ヨハネは牢の中で、 でしょうか。それとも、ほかの方を待たなければなりませんか。」イエスはお答えになった。「行って、 目の見えない人は見え、足の不自由な人は歩き、重い皮膚病を患って あなた

自ら悩んだ中から、 範解答を与えず、自分で考えて決断するような形で問われる。苦しみは与えられた解答では解決されない。 させた。イエスは自分が救い主かどうかは答えず、あるがままを見よ、と答えられた。イエスは、人々に ハネが待ち望んでいた救い主は、聖霊の火と斧で世を厳しく裁くキリストであったが、その像は弱 預言者ヨハネは自らを「荒野で叫ぶ声」と呼び、神の裁きに対する悔い改めの必要を人々に解き明かした。 るイエスとは異なっていた。ヨハネはイエスへの理解に悩み、 イエスキリストを「神、 われらと共にいます(インマヌエル)」存在であることに気づい 獄から弟子を使わしてイエスに尋

09/11/29

苦しみが救いへと変えられていく。

#### 苦難の僕 イザヤ 53: 1 - 12 (待降節第三聖日)

もれた根から生え出た若枝のように この人は主の前に育った。見るべき面影はなく しい容姿もない。彼は軽蔑され、人々に見捨てられ わたしたちの聞いたことを、誰が信じえようか。主は御腕の力を誰に示されたことがあろうか。乾いた地に埋 多くの痛みを負い、 病を知っている。 輝かしい 彼はわたしたちに 風格も、

顔を隠し
わたしたちは彼を軽蔑し、無視していた。

のでなく、ほふり場に引かれる子羊のように来られると預言した。「見る面影はなく輝かしい風格も好ましい シア)が現れるはずだとのメシア思想が生まれた。しかし第二イザヤは、メシアは剣と矢で民族を解放する らないのか、と悩んだ。その疑問に答えるかのように、神の義によってダビデ王の再来として強い救い主(メ バビロン捕囚および他国によって征服されたユダヤ民族は、神の民がなぜ捕囚の苦しみを受けなければな

苦しみはあがなわれる。それを実現したのがイエスキリストだった。 まれた。 い羊飼いと異邦人である占星術師に囲まれた馬小屋のみじめさの中で起きた。苦しみの中でこそメシアが生 イエスの降誕は、 苦しみは苦しむ人を救うためにあるという真理をイザヤは語った。嘲笑と傷と十字架によってのみ 星に飾られ天使と羊に囲まれて牧歌風に語られることが多いが、実際は、 律法を知らな 容姿もない」メシア像を誰も信じ得なかった。

#### ツレヘムの星 マタイ 2: 1 - 10 (待降節第四聖日)

小さいものではない。 王は不安を抱いた。 言者がこう書いています。『ユダヤの地、ベツレヘムよ、おまえはユダの指導者たちの中で、決していちばん こにおられますか。 占星術の学者たちが東の方からエルサレムに来て、言った。「ユダヤ人の王としてお生まれになった方は、ど メシアはどこに生れることになっているのかと問いただした。彼らは言った。「ユダヤのベツレヘムです。預 エルサレムの人々も皆、 わたしたちは東方でその方の星を見たので、拝みに来たのです。」これを聞いて、ヘロデ お前から指導者が現れ、 同様であった。王は民の祭司長たちや律法学者たちを皆集めて、 わたしの民イスラエルの牧者となるからである。』

主が真っ先に現れたのは、メシアを待望していたユダヤ人ではなく、ユダヤ人が嫌う東方の異邦人だった。 ルを治めると、ミカ書五章の預言を引用し、生まれる王はユダヤ人の予想とは全く異なると主張した。 かれた地は、 メシア思想では、キリストが生まれるならばダビデを継ぐ王宮に違いないと考えられていた。しかし星に 占星術の学者は、 人の予想と反対のことが起きたのがクリスマスであり、それが神の御心だった。占星術学者は馬小屋の貧 宝も尊厳もないベツレヘムの貧しい馬小屋だった。著者マタイは、最も小さい 行く先を知らず星に導かれ、救い主の出現を恐れるエルサレ ムの王宮に着いた。 もの が イスラエ 当 時 導 0

009/12/13

しさの中で、

神をほめたたえ、

喜んだ。

をあがめ、賛美しながら帰って行った。 あなたがたへのしるしである。」羊飼いたちは、見聞きしたことがすべて天使の話したとおりだったので、神 栄光が周りを照らしたので、 その地方で羊飼いたちが野宿をしながら、夜通し羊の群れの番をしていた。すると、主の天使が近づき、 メシアである。 る大きな喜びを告げる。 あなたがたは、布にくるまって飼い葉桶の中に寝ている乳飲み子を見つけるであろう。これが 今日ダビデの町で、あなたがたのために救い主がお生まれになった。この方こそ主 彼らは非常に恐れた。 天使は言った。「恐れるな。 わたしは、民全体に与えられ 主の

に、 を告げる。 聖書はクリスマスの日付ばかりでなく季節も示していないが、 ルカは、社会に阻害されて夜に目覚める羊飼いと天使の軍勢をクリスマスに登場させた。 聖書は歴史書や記録文書でなく、体験的・人格的な記述書である。昼に行進する王の軍の代わ 人の感性が鋭いー -夜―に起こったことだけ

れた。 外者である羊飼いだけでなく、民全体へ与えられる喜びである(十節)、 ら始まり、罪人に示され、十字架において人類全体の中で成就された。 理性では解釈できない大きなことが起きるとの不安に駆られて。 いは天使のラッパを聞いて、ヨベルの年 (借金が清算される半世紀に一回の年) が本当に来たかと恐 と告げられた。 しかしそれは喜びであり、 2009/12/20 その告示は羊飼 社 の例 カン

ばれたのです。それは、だれ一人、神の前で誇ることがないようにするためです。 に恥をかかせるため、世の無学な者を選び、力ある者に恥をかかせるため、世の無力な者を選ばれました。ま たわけではなく、能力のある者や、家柄のよい者が多かったわけでもありません。ところが、 兄弟たち、あなたがたが召されたときのことを、思い起こしてみなさい。人間的に見て知恵のある者が多かっ 神は地位のある者を無力な者とするため、世の無に等しい者、身分の卑しい者や見下げられている者を選 神は知恵ある者

給うた。神はこれらの人を召して教会にお遣わしになった。これが事実であり、あなたをも召した事実を思 見捨てられた人が多かった。人の能力が高いとか富があるから神は召したのではなく、所有に関係なく呼び の仕事を得ても、 「召す」とは神から呼ばれて職務に就くことで、call は天職を意味する。しかし、天職と思った望み通り 実際は望み通りでないことはいくらでもある。コリント教会には貧しい人、 奴隷、 社会に

たを呼び求めている。 られ、今までなかった大きなものを与えてくださる。十字架の主が最も低いところから、 召される時は、誇りを失う時でもある。健康や栄誉を失った時はつらいが、その弱くなった点を神は用 誇りを失ったあな

い起こせと言われる。

行く。しかし、ほかの者には決してついて行かず、逃げ去る。ほかの者たちの声を知らないからである。」イ を呼んで連れ出す。自分の羊をすべて連れ出すと、 門から入る者が羊飼いである。門番は羊飼いには門を開き、羊はその声を聞き分ける。羊飼いは自分の羊の名 エスは、このたとえをファリサイ派の人々に話されたが、 先頭に立って行く。羊はその声を知っているので、 彼らはその話が何のことか分からなかった。

受け入れてくれる声、を待っている。 のある生活を理解する。名を呼ばれて従えば、 よく知っている方が人格的に呼んでくれるのを、 朝になると羊飼いについていった。 新約時代では、夕方に帰れない羊の居場所は共同の柵の中か洞穴だった。羊は自分の羊飼いを聞き分けて、 羊飼いは羊の名前と個性をよく心得ていた。 神から声をかけられたとき、自分が何者であるかを初めて知り、 牧草に導かれ、 私たちは待ち望んでいる。 囲いに帰る時に喜ばしく迎え入れられる。 私を欠くべからざる存在として それと同じように、自分を 意味

イエスキリストの門を出入りするたびに喜ばしい自由が与えられるのが信仰である。主の御心がどこにあ

るか求めつつ、従順と謙遜と感謝を学ぶ年でありたい。

れも、 切れが古い服を引き裂き、破れはいっそうひどくなる。また、だれも、新しいぶどう酒を古い革袋に入れたり 新しい革袋に入れるものだ。」 はしない。そんなことをすれば、ぶどう酒は革袋を破り、ぶどう酒も革袋もだめになる。 ぎり、断食はできない。しかし、花婿が奪い取られる時が来る。その日には、彼らは断食することになる。だ ですか。」イエスは言われた。「花婿が一緒にいるのに、婚礼の客は断食できるだろうか。花婿が一緒にいるか ハネの弟子たちとファリサイ派の弟子たちは断食しているのに、なぜ、 織りたての布から布切れを取って、古い服に継ぎを当てたりはしない。そんなことをすれば、新しい布 あなたの弟子たちは断食しない 新しいぶどう酒は

だけを受け入れる器ではなく、主との食事を喜ぶ新しい器を必要とする。 食卓を囲むたびに、 ことをイエスは示した。食事は体で体験する如く、 したこととは相反する。食事は最も日常的な行いであり、信仰も食事と同じく、  $\Xi$ ハネの弟子やパリサイ人は定期的に断食していた。 との期待があった。その考えは当時の人々に良しとされていたが、イエスが徴税人と喜びの食事を 主が共におられることを知り、 信仰も論理や知識でなく、日常的に体験する行いである。 感謝する。 断食には、 それには断食のように自分に都合のい 自己鍛錬や行いの否定を通じて神 イエスを受け入れる皮袋は、私た 日常的な喜びの行いである いもの .の摂 玾

ちの貧しさが購

(あがな) われた喜びのしるしである。

せられるとき、あなたがたは幸いである。その日には、喜び踊りなさい。天には大きな報いがある。この人々 なたがたは笑うようになる。人々に憎まれるとき、また、人の子のために追い出され、 さて、イエスは目を上げ弟子たちを見て言われた。「貧しい人々は、幸いである、神の国はあなたがたのもの である。今飢えている人々は、幸いである。 あなたがたは満たされる。今泣いている人々は、幸いである。 ののしられ、

ラザロが思い浮かぶ。「貧しさ」とは、その人自身でないとわからない無力さ、幸いなどとは決して言えない が生まれ、貧しさを問い続けユダヤ教とキリスト教の分岐点が生まれる。貧しい者としては、イエスが説 う。キリスト教史とは 書かれている。 の支配のもとにあり続け、新約時代に至っては散らされた民となった。貧しさを徹底的に知らされユダヤ教 ではなく、どうしても助けを必要とする文字通りの「貧しさ」。その意味ではルカ福音書の書き方の方であろ 貧しい人々は幸いである」(二十節)は、マタイ福音書では「心の貧しい人々は、幸いである」(5:3) の先祖も、 預言者たちに同じことをしたのである。 イエスがもともと言われた「貧しさ」とは、謙遜などという意味合いをもつ「心の貧しさ」 「貧しさ」の意味を問い続けてきた歴史。旧約時代においてはバビロン捕囚から大国

もの。「渇く」と告白せざるを得ない時、

神が我々の最も近くにいてくださる。

方に暮れても失望せず、虐げられても見捨てられず、打ち倒されても滅ぼされない。わたしたちは、 ちから出たものでないことが明らかになるために。わたしたちは、 エスの死を体にまとっています、 わたしたちは、このような宝を土の器に納めています。この並外れて偉大な力が神のものであって、 イエスの命がこの体に現れるために。わたしたちは生きている間、 四方から苦しめられても行き詰まらず、途

御心 器でなく、 えりの賜物を満たしていただく。そのとき、 神の言葉を証しようとするのだから、 パ の中 ウロ エスのために死にさらされています、死ぬはずのこの身にイエスの命が現れるために。 は激 に求めるとき、自分がまったく予期せぬ者に作り替えられていることに気づく。 ひびの入った罪の土で作ったみじめな器に盛る。 しい迫害にあって何度も落胆した。 失敗するのは当然である。 落胆により死ぬはずの私たちに、 伝道は、 自己中心的で価値のないものとして選ばれた者が 否、 挫折 人の目では無力に見える器の した責任を社会や他 イエスの命が現れ(十一節)、 その恵みを、 人に求めず、 中に、 よみが 金 神  $\mathcal{O}$  $\mathcal{O}$ 

イエスと共に私たちをも復活させてくださる(十四節)。

悪いものを入れた倉から悪いものを取り出してくる。言っておくが、人は自分の話したつまらない言葉につい って罪ある者とされる。」 てもすべて、 あふれていることが出て来るのである。 かる。蝮の子らよ、あなたたちは悪い人間であるのに、どうして良いことが言えようか。人の口からは、心に 「木が良ければその実も良いとし、木が悪ければその実も悪いとしなさい。 裁きの日には責任を問われる。 善い人は、良いものを入れた倉から良いものを取り出し、 あなたは、自分の言葉によって義とされ、また、自分の言葉によ 木の良し悪しは、その結ぶ実で分

は、 サイ人は、安息日にイエスの弟子が麦の穂を摘むのを批判したり(一節~)、イエスが安息日に手をいやした 言葉であれば、豊かな実を結ぶ。ひとつでも命の源を語り伝え、良い実を結ぶようにしたい。その実からあ ことを批判した(九節~)。これらは、その例である。知識を欠いたつたない言葉でも、 聖霊は神の啓示の働きであり、天地創造の際に人に吹きかけて命を与えた神の息である。 罪を犯しても悔い改めて真実を求める。 しかし自分の思いに執着すると、神の息を求めなくなる。パリ 息をかけられた人の 神の息を持つ人

ふれる言葉が神の御栄を表すことができる生活を送りたい。

## アブラハムの警告 ― ルカ 16: 19 - 31

しむのだ。 のをもらっていたが、ラザロは反対に悪いものをもらっていた。今は、ここで彼は慰められ、 しんでいます。』しかし、アブラハムは言った。『子よ、思い出してみるがよい。お前は生きている間に良いも い。ラザロをよこして、指先を水に浸し、わたしの舌を冷やさせてください。わたしはこの炎の中でもだえ苦 るラザロとが、はるかかなたに見えた。そこで、大声で言った。『父アブラハムよ、わたしを憐れんでくださ で葬られた。そして、金持ちは陰府でさいなまれながら目を上げると、宴席でアブラハムとそのすぐそばにい この貧しい人は死んで、天使たちによって宴席にいるアブラハムのすぐそばに連れて行かれた。金持ちも死ん お前はもだえ苦

は神の恵みの現れだという当時の考え方に従って、金持ちは苦しむラザロを無視し続け、何もしなかった。 今の時代へと投げかけた。ラザロの名が、赤貧に苦しみ、神の憐れみよって生きた典型として登場する。富 後の因果応報を語ったのではない。死後の世界ならば分かりやすく語れる〈神の憐れみによる生き方〉を、 神はそれを罪とした。そして、神はラザロの中に御心を現した。 金持ちと貧乏人が死後に反転されることを陰府(よみ)にいるアブラハムに語らせているが、イエスは死 ラザロは、罪人と共に歩み十字架を背負

010/2/7

たイエスキリストの姿そのものであった。

ようになって、兄弟の目からおが屑を取り除くことができる。 分の目に丸太があるではないか。偽善者よ、まず自分の目から丸太を取り除け。そうすれば、はっきり見える 分の量る秤で量り与えられる。あなたは、兄弟の目にあるおが屑は見えるのに、 づかないのか。 「人を裁くな。 兄弟に向かって、『あなたの目からおが屑を取らせてください』と、どうして言えようか。自 あなたがたも裁かれないようにするためである。 あなたがたは、 なぜ自分の目の中の丸太に気 自分の裁く裁きで裁かれ、

それを信じる者も御言葉の弱さを背負っているがゆえに弱い;しかし御言葉に苦しむことによって多くの人 ボンヘッファは 「主に従う」の中で語る。 主義に燃える人は強い ;神の言葉は人に侮られるほど弱

が癒された。-

御言葉の道を苦しみ歩んだ結果、 逮捕後にイエスが沈黙したように、 御言葉の真珠が受け入れられず、 神はこの沈黙を良しとする。御言葉の真珠は、 人からは厭われ、 自分の 目の中の丸太 限界を知って

を取り除いてくれる神の恵みのしるしである。

010/2/14

### あなたの信仰が・・・-マルコ 5: 25 - 34 (受難節第一聖日)

われた。「娘よ、 とに気づいて、群衆の中で振り返り、「わたしの服に触れたのはだれか」と言われた。(中略)女は自分の身に と、すぐ出血が全く止まって病気がいやされたことを体に感じた。イエスは、自分の内から力が出て行ったこ 起こったことを知って恐ろしくなり、震えながら進み出てひれ伏し、すべてをありのまま話した。イエスは言 後ろからイエスの服に触れた。「この方の服にでも触れればいやしていただける」と思ったからである。 さて、ここに十二年間も出血の止まらない女がいた。(中略)イエスのことを聞いて、群衆の中に紛れ込み、 あなたの信仰があなたを救った。安心して行きなさい。もうその病気にかからず、元気に暮 ずる

仰の誇りとした。(Iコリント十二章七-九節) けではない。求め方が見当はずれであり、どこに信仰があるかと疑わざるを得ない場面であるが、イエスは とであった。この女性は、<本当の健康は神の祝福の中で生きることである>というイエスの教えに従ったわ 「あなたの信仰があなたを救った」と言われた。救いは人の最も弱いところに現れ、パウロは身のトゲを信 財産も健康も失い、神殿へも参拝を許されなかった女性にできることは、後ろからイエスの衣に触れるこ 神の方から、無きに等しい信仰を私たちの中に見出してく

2010/2/21

#### 隔ての壁 エフェソ2: 11 - 22 (受難節第二聖日)

にも、平和の福音を告げ知らせられました。それで、このキリストによってわたしたち両方の者が一つの霊に の壁を取り壊し、規則と戒律ずくめの律法を廃棄されました。こうしてキリストは、双方を御自分において一 実に、キリストはわたしたちの平和であります。二つのものを一つにし、御自分の肉において敵意という隔て って敵意を滅ぼされました。キリストはおいでになり、遠く離れているあなたがたにも、また、近くにいる人々 人の新しい人に造り上げて平和を実現し、十字架を通して、両者を一つの体として神と和解させ、

壁は民族間だけでなく、神と人との関係にもある。 不安から守るため、自分で壁を作り出してきた。壁である敵意は、自分しか認めない心で、自分の中にある。 民か非選民か〉の意識の違いが大きかった。 ユダヤ人と異邦人の対立は、習慣、伝統、 結ばれて、御父に近づくことができるのです。 人種の壁を越えて交流したい気持ちは誰にでもあるが、人生の 人種などの外面的な差による相互不信だけでなく、〈神による選 人が自分を絶対視して壁を作り、 神の御心を受け入れな

得ない十字架と苦難の形をとって、

カン

つた。

壁を壊すため、

神の方から己の絶対的な立場を譲られた。

自分の平和を投げ打ち、

我々に壁のない平和をもたらした。

御子イエスキリス

トが

神 0

国ではあ

V)

2010/2/28

から、足だけ洗えばよい。あなたがたは清いのだが、皆が清いわけではない。」 あなたを洗わないなら、 と言われた。ペトロが、「わたしの足など、決して洗わないでください」と言うと、イエスは、「もしわたしが トロが言った。「主よ、足だけでなく、手も頭も。」イエスは言われた。「既に体を洗った者は、全身清いのだ った。イエスは答えて、「わたしのしていることは、今あなたには分かるまいが、後で、分かるようになる」 シモン・ペトロのところに来ると、ペトロは、「主よ、あなたがわたしの足を洗ってくださるのですか」と言 あなたはわたしと何のかかわりもないことになる」と答えられた。そこでシモン・ペ

洗礼は一生に一回、主の十字架も復活も一回限りである。不足と思われる「一回」に与えられたものを受け て受け入れることである。ペトロは手も頭も洗ってくれるよう求めたが、大切なものは一箇所で一回 に近い。イエスの奉仕を受け入れることが信仰の姿勢である。信仰は神のなされる業を無条件に感謝を持 した。ペトロは足を洗われるのを断った。ペトロの発言は謙遜ではなく、自分で何でもできるというおごり 主人の足を洗うのは奴隷の仕事だったが、イエスは自らしもべになって弟子の足を洗って仕えることを示 限

入れ、後になってその大切さを知る。それが聖書の示すところである。

2010/3/7

#### 御心のままに ルカ 22: 39 - 46(受難節第四聖日)

果てに眠り込んでいた。イエスは言われた。「なぜ眠っているのか。誘惑に陥らぬよう、起きて祈っていなさ 地面に落ちた。イエスが祈り終わって立ち上がり、弟子たちのところに戻って御覧になると、彼らは悲しみの 使が天から現れて、イエスを力づけた。イエスは苦しみもだえ、いよいよ切に祈られた。汗が血の滴るように たしから取りのけてください。しかし、 そして自分は、石を投げて届くほどの所に離れ、ひざまずいてこう祈られた。「父よ、 わたしの願いではなく、御心のままに行ってください。」すると、天 御心なら、 この杯をわ

いない スの祈り。 まれる。 さい」と。さらに「わたしの願いではなく御心のままに」と祈る。神の前で怖れおののき繰り返されたイエ (ゲッセマネという名の)オリーブ山において、主は切に祈られた。「御心なら、この杯を取りのけてくだ か? 十字架の道 その神との対話の中で、 或い は何かに夢中になるあまり、 **~**∘ 私たちは自分の心を食い止める祈りを為しているか?祈りに対してけだるくなって 神の促しがイエスを圧倒したに違いない。 大切なものが眠ってしまっていない 神に決然と聞き従う道へと歩 か? 眠りこける「弟子

たち

(私たち)」と「神」との狭間に立って、

主は私たちのために祈っておられる。

かった。だが、今はあなたたちの時で、闇が力を振るっている。」 棒を持ってやって来たのか。わたしは毎日、神殿の境内で一緒にいたのに、あなたたちはわたしに手を下さな エスは、 しようと近づいた。イエスは、「ユダ、あなたは接吻で人の子を裏切るのか」と言われた。(中略) イエスがまだ話しておられると、群衆が現れ、十二人の一人でユダという者が先頭に立って、イエスに接吻を 押し寄せて来た祭司長、神殿守衛長、長老たちに言われた。「まるで強盗にでも向かうように、 それからイ

ばに置くため ていない。一方、他の弟子たちはどうであったか。イエスの「周りに(四十九節)」は居たものの、「自分のそ 十字架への歩みの直中にある。熱心な弟子ユダが、なぜイエスを裏切るのか。他の十一人の弟子たちとは 人異なる出身地であった疎外感からか、金銭への執着か・・憶測はいろいろあろうが、聖書は理由を追求 イエスはご自身を「人の子(四十八節)」と呼ぶようになる。キリストとしての自覚にあふれた言葉であり、 (マルコ三章十四節)」という弟子としての生命的なつながりは既に危ういものであった。 イエ

この闇のただ中にあって、 イエスの歩み、神の福音が成就しようとしている。 スが

「闇(五十三節)」と呼ばれる時である。

出て、激しく泣いた。 鶏が鳴く前に、あなたは三度わたしを知らないと言うだろう」と言われた主の言葉を思い出した。そして外に うと、ペトロは、「いや、そうではない」と言った。一時間ほどたつと、また別の人が、「確かにこの人も一緒 まだこう言い終わらないうちに、突然鶏が鳴いた。主は振り向いてペトロを見つめられた。ペトロは、「今日、 だった。ガリラヤの者だから」と言い張った。だが、ペトロは、「あなたの言うことは分からない」と言った。 あの人を知らない」と言った。少したってから、ほかの人がペトロを見て、「お前もあの連中の仲間だ」と言 ある女中が、(中略)「この人も一緒にいました」と言った。しかし、ペトロはそれを打ち消して、「わたしは

とっては思い な答えを期待する問いをしたのではなく、外見や方言に関するごく自然な質問をしただけである。 つまずかないと主張したペトロは、人前で鶏が鳴く前に三度イエスを否定した。 がけない質問であったので、そのままの姿が現れてしまった。 人生はリハーサルなしの劇場で 女中は、 信仰問答 答のよう 1 ・ロに

ある、という言葉の実例である。

たのだろう。 土台の上に一段ずつ積み重ねるようなものではなく、土台を破壊する厳しい否定の上に成り立つ。2010/3/28 四福音書は共通してペトロの恥を記す。ペトロは初代教会で自らの恥を神に告白し、恥を信仰の根拠とし 恥を背負ったペトロは、神によって新しく生かされ、聖霊降臨時から伝道へと歩んだ。 信仰は

#### ガリラヤで マルコ 16: 1 - 8 (復活祭聖日)

あなたがたより先にガリラヤへ行かれる。かねて言われたとおり、そこでお目にかかれる』と。」 られない。御覧なさい。お納めした場所である。さあ、行って、弟子たちとペトロに告げなさい。『あの方は、 ない。あなたがたは十字架につけられたナザレのイエスを捜しているが、あの方は復活なさって、ここにはお を上げて見ると、石は既にわきへ転がしてあった。石は非常に大きかったのである。墓の中に入ると、 彼女たちは、「だれが墓の入り口からあの石を転がしてくれるでしょうか」と話し合っていた。ところが、目 い衣を着た若者が右手に座っているのが見えたので、婦人たちはひどく驚いた。若者は言った。「驚くことは

出せるガリラヤにおいてこそ命がある、 墓の中に命のある言葉があった。当惑して何もできなかった女達に与えられた言葉は「ガリラヤへ」である。 いと祈り、主に出会う喜びを語りたい。 い片田舎のガリラヤで、イエスは待っておられるという。罪とけがれを持っている人間が、そのままの姿を 十字架刑 への復讐をするならば「エルサレム神殿へ集合せよ」であろう。しかし、宗教色が薄くて方言の強 と示唆する。復活の日に、心のガリラヤで主と巡り合わせてくださ 若者の天使だった。

女達は香油を持ってイエスの墓へ入ったが、見たものは遺体ではなく、

死を象徴する

## 何か食べ物が ― ヨハネ 21: 1 - 1

そうすればとれるはずだ。」そこで、網を打ってみると、魚があまり多くて、もはや網を引き上げることがで があるか」と言われると、彼らは、「ありません」と答えた。イエスは言われた。「舟の右側に網を打ちなさい。 ておられた。 出て行って、舟に乗り込んだ。しかし、その夜は何もとれなかった。既に夜が明けたころ、イエスが岸に立っ シモン・ペトロが、「わたしは漁に行く」と言うと、彼らは、「わたしたちも一緒に行こう」と言った。 だが、弟子たちは、それがイエスだとは分からなかった。 イエスが、「子たちよ、 何か食べる物 彼らは

図は ない は ヤ湖で漁師の生活をせざるを得なかった。食べ物に窮していた。 三年前にガリラヤ湖畔でイエスに召された弟子たちは、イエスの十字架の後も、生活を支えるためガリラ 「何か食べ ほど窮し むなしい。 きなかった。 物があるか」であった。イエスはペトロと同じ窮した形で現れた。ペトロは形を整える余裕 「ありません」と答えた。 私たちにも同じ窮した姿で現れられ、 一晩中働いても収獲のなかった中で「舟の右側に網を打て」との指 むなしいと感じてしまう御声に語られる。 復活の主が魚をとるペトロに現れた第 しか ん神は 峀

大量の大きな魚を準備された。

異常な大量にもかかわらず、

救いの網は破れなかった。

2010/4/11

こにいるのか。」彼は答えた。「あなたの足音が園の中に聞こえたので、恐ろしくなり、隠れております。わた えてきた。アダムと女が、主なる神の顔を避けて、園の木の間に隠れると、主なる神はアダムを呼ばれた。「ど ちじくの葉をつづり合わせ、腰を覆うものとした。その日、風の吹くころ、主なる神が園の中を歩く音が聞こ べ、一緒にいた男にも渡したので、彼も食べた。二人の目は開け、自分たちが裸であることを知り、二人はい 女が見ると、その木はいかにもおいしそうで、目を引き付け、賢くなるように唆していた。女は実を取って食

旨を求めたい。 ダムとエバは裸を恥ずかしがり、文明というイチジクの葉で腰を隠した。しかし心の底まで見通しておられ る神の前に恥ずかしがり、神の顔を避けて隠れる。「どこにいるのか」と、神は隠れた二人を探しておられる。 力を持つことであり、神に代わって自分が審判者となることを意味する。これが原罪である。目が開けたア そのままの姿で神の前に立て、と神は言われる。罪の中にいるありのままの姿で、恵みの喜びとして、 エバは蛇にそそのかされ、エデンの園の中央にある善悪の知識の実を食べた。善悪を知るとは、 しは裸ですから。」 イエスキリストは罪に隠れる私たちを、十字架を背負って「どこにいるのか」と探し求めて 判断する

おられる。

# わが道の光、わが歩みの灯 ― 詩編 119: 105 -

魂は常にわたしの手に置かれています。それでも、 い。わたしの口が進んでささげる祈りを、主よ、どうか受け入れ、あなたの裁きを教えてください。わたしの 正しい裁きを守ります。わたしは甚だしく卑しめられています。主よ、御言葉のとおり、命を得させてくださ あなたの御言葉は、 わたしの道の光。わたしの歩みを照らす灯。 あなたの律法を決して忘れません。 わたしは誓ったことを果たします。

教会で語られる言葉 リストによって歴史的事実となった。しかし人の言葉は行動を伴わず、身を安全に保つために使い回される。 天地創造は神の言葉から始まり、ただちに実現した。ヨハネの福音書では、言葉は肉体となり、イエスキ 「聖書的」「もっと祈らねば」「人にはできないが神にはできる」等も、 時に使い回され

、人の自由を奪う。

神から幸福を与えられたのだから不幸もいただく(ヨブ)、という思いに置かれるとき、 言葉が、人の言葉を超えてわが歩みの灯になっているか -信仰から遠くにいる貧しい時に分かってくる。 復活のイエスキリス

トが「わが道の灯」になっていることに気づく。

2010/4/25

#### 神 の招き — ルカ 14: 15 - 24

イエスは言われた。「ある人が盛大な宴会を催そうとして、大勢の人を招き、

と言った。 どうか、失礼させてください』と言った。また別の人は、『妻を迎えたばかりなので、行くことができません』 失礼させてください』と言った。ほかの人は、『牛を二頭ずつ五組買ったので、それを調べに行くところです。 と言わせた。すると皆、次々に断った。最初の人は、『畑を買ったので、見に行かねばなりません。どうか、 宴会の時刻になったので、僕を送り、招いておいた人々に、『もう用意ができましたから、おいでください』

事情などを理由に、 であり、イエスは天国を祝宴に例えた。 食事は生きるためにせねばならない、と同時に楽しいものでもある。二つのものを備えているのが神の国 祝宴には行かなかった。事情が今、進行中であるから、と言って。家畜の世話は神より 神は祝宴を準備したが、招待者は畑の手入れや家畜の世話や家庭

に戻る選択をするならば、 我々はやるべき事は沢山ある。しかし、一つを選ばねばならないほど限定された人生である。 神の招きに応えて自分の足で祝宴に向かって歩む道であろう。 生きる原点

大切だった。

164

ん。実際、わたしたちはキリストの福音を携えてだれよりも先にあなたがたのもとを訪れたのです。 たしたちは、あなたがたのところまでは行かなかったかのように、限度を超えようとしているのではありませ が割り当ててくださった範囲内で誇る、つまり、あなたがたのところまで行ったということで誇るのです。わ 仲間どうしで評価し合い、比較し合っていますが、愚かなことです。わたしたちは限度を超えては誇らず、神 わたしたちは、自己推薦する者たちと自分を同列に置いたり、比較したりしようなどとは思いません。

越感や劣等感を持つだけだとパウロは忠告した。 派閥闘争により仲間同士の優劣付けの多いコリント教会に対して、人との比較は本当の評価ではなく、 超エリートであったパウロは、 生前のイエスを知らないこ

神の与えてくださった限度の中で弱さを誇った。 病気持ちなどによる劣等感に苦しんだ。「神の恵みは人の弱さの中に現れる」の御言葉を信じ

神を見ようとする人から神に見られる人へ、主を知る人から主に知られる人に変えられる。そのとき、弱い 特別な才能がなかろうと唯一のものとして創造されたこと(信仰的個性)。この感謝が信仰の原点である。

私に使命感と為すべきことが与えられる。

弱る。信じ

## 主を試みる ― マタイ 4: 1 - 11

うに、天使たちは手であなたを支える』と書いてある。」イエスは、「『あなたの神である主を試してはならな 飛び降りたらどうだ。『神があなたのために天使たちに命じると、あなたの足が石に打ち当たることのないよ てある。」次に、 はお答えになった。「『人はパンだけで生きるものではない。神の口から出る一つ一つの言葉で生きる』と書い 誘惑する者が来て、イエスに言った。「神の子なら、これらの石がパンになるように命じたらどうだ。」イエス 悪魔はイエスを聖なる都に連れて行き、神殿の屋根の端に立たせて、言った。「神の子なら

下りて支えられる人でなく、ひとりの人として死なれた。 得し、自分に都合のよい神に従おうというのは、創造してくださった神に感謝することではない。 上から飛び下りて天使に支えられるのを民衆が見れば、誰もが神の子だと思うはずだ。しかし奇跡を見て納 人を驚かす上からの奇跡ではなく、 イエスの宣教の初めに悪魔はイエスを試みて、聖書に書いてあるとおりにすべきだと主張した。 い』とも書いてある」と言われた。 地の底に落ちた貧しい人となって私たちと共にいる道を選ばれた。 それが神の御心であり、 我々に向けられた愛の印 神殿の頂 1 -エスは 飛 てド

2010/5/16

だった。

五旬祭の日が来て、一同が一つになって集まっていると、突然、 激しい風が吹いて来るような音が天から聞こ

彼らが座っていた家中に響いた。そして、炎のような舌が分かれ分かれに現れ、一人一人の上にとどまっ

え、

すると、

一同は聖霊に満たされ、"霊"が語らせるままに、

ほかの国々の言葉で話しだした。

現れ、 記述した。 使徒言行録の著者ルカは、 使徒にとっては外国語である新しい言葉を与えた。 十字架から五十日目、 イエスの異邦人への関わりを中心として、 風や息と同じ語源をもつ聖霊が、風の音と炎のような舌の形で弟子たちに 聖霊が下った場所は、最後の晩餐が行われたり、 使徒の働き、 さらには聖霊の働きを

弟子たちの恥が明らかになった二階の広間だった。

ほど弱い時、 の広間の一点から、 恥ずかしさを早く逃れたい弟子に対して、イエスはその場所に留まれと言われる。人の弱さが現れた二階 聖霊が私たちに訪れる。 救いの歴史が世界へと広まった。うめきのとりなし(ローマ八章)に頼らざるを得ない 聖霊降臨を境にして、弟子たちは大胆に神の国を語る者へと変えられ

これが教会の誕生である。

た。

声を聞いて戸を開ける者があれば、 りする。だから、熱心に努めよ。悔い改めよ。見よ、わたしは戸口に立って、たたいている。だれかわたしの 買い、また、見えるようになるために、目に塗る薬を買うがよい。 哀れな者、貧しい者、目の見えない者、 になるように、火で精錬された金をわたしから買うがよい。裸の恥をさらさないように、身に着ける白い あなたは、『わたしは金持ちだ。満ち足りている。 わたしは中に入ってその者と共に食事をし、彼もまた、 裸の者であることが分かっていない。そこで、あなたに勧める。 何一つ必要な物はない』と言っているが、 わたしは愛する者を皆、 わたしと共に食事 叱ったり、 自分が惨めな者、 、衣を

然り、 のを待っておられる。 イエスキリストを除いて何でもあった。 録である。 耳を澄ませて音に気づき、 リスト教の迫害時代、 をするであろう。 十字架に付けた。戸の外にキリストは立っておられ、 神 キリストの声を聞くところであるはずだが、人々は自分の権利を守るためにイエスを宮から追 は 織物と薬で繁栄した金融の中心地ラオディキアの教会に手紙を送った。この教会は豊か キリストは私たちの魂の扉をたたいておられるが、 同朋だけに通じる言葉を使い、 戸を開けるものになりたい。 2010/5/30 肝心のイエスキリストは教会の外に追いやられた。 異常現象や獣を登場させ、 共に食事をしようと戸を叩きながら、 世間の音が大きくて耳には届 信仰を語 1 工 ったのが ス 戸 0 が 歴 開 カン

な

<

ヤコブの神である』とあるではないか。神は死んだ者の神ではなく、生きている者の神なのだ。 ちは聖書も神の力も知らないから、そんな思い違いをしているのではないか。 その女はだれの妻になるのでしょうか。七人ともその女を妻にしたのです。」 の個所で、神がモーセにどう言われたか、読んだことがないのか。『わたしはアブラハムの神、イサクの神、 は、めとることも嫁ぐこともなく、天使のようになるのだ。死者が復活することについては、モーセの書の『柴』 こうして、七人とも跡継ぎを残しませんでした。最後にその女も死にました。 復活の時、 イエスは言われた。「あなたた 死者の中から復活するときに 彼らが復活すると、 あなたたちは

苦も無駄にならず、生きる方向が示される。 2010/6/6 イエスは 守するファリサイ派としばしば衝突した。 ではない。 きに誰の夫になるか」をイエスに叩きつけ、どちらに味方するか問うた。 無から有を創り出す力は神にある」というモーセ五書の主張をわかっているのかと、サドカイ派に問うた。 貴族の祭祀の小集団であるサドカイ派は、 大変な思い違いをしている。」 「わたしはヤコブの神である」を引用した。かつてヤコブの神であって今は違う、というような神 神は、今も後も生きておられ、今あなたに働き、 衝突する論議のひとつである「七人の夫に死なれた妻は復活のと 現実を重んじ、 生き返らせる。主に結ばれているあなたには労 モーセ五書のみを正しいと確信した。 むなしい議論であるが、 イエスは、 律法を堅

言っておくが、このように、悔い改める一人の罪人については、悔い改める必要のない九十九人の正しい人に り、友達や近所の人々を呼び集めて、『見失った羊を見つけたので、一緒に喜んでください』と言うであろう。 見失った一匹を見つけ出すまで捜し回らないだろうか。そして、見つけたら、喜んでその羊を担いで、家に帰 あなたがたの中に、百匹の羊を持っている人がいて、その一匹を見失ったとすれば、九十九匹を野原に残して、

回る。見つけたら、その羊を担いで家に帰り、人々を呼び集めるほどの大きな喜びを表す。」と。 の真理を伝える〈たとえ話〉をされた。「他の九十九匹を野原に残してでも、見失った一匹を羊飼い からであろう。「罪人を迎えている」と、ファリサイ派や律法学者たちは不平を言う。そこでイエス 徴税人や罪人が、 ついてよりも大きな喜びが天にある。」 話を聞こうとイエスに近寄ってきた。自分たちに注いでくださる関心を感じ取っていた はさが は神 0 玉

神の大きな関心と熱心さによって捜し求められている存在である。ありのままの姿で、たった

私たちは、

るだろうか。戻って来て農夫たちを殺し、ぶどう園をほかの人たちに与えるにちがいない。 そして、息子を捕まえて殺し、ぶどう園の外にほうり出してしまった。さて、このぶどう園の主人は、どうす あるのを読んだことがないのか。『家を建てる者の捨てた石、 夫たちは話し合った。『これは跡取りだ。さあ、殺してしまおう。そうすれば、相続財産は我々のものになる。 まだ一人、愛する息子がいた。『わたしの息子なら敬ってくれるだろう』と言って、最後に息子を送った。農 **/これが隅の親石となった。** 聖書にこう書いて これは、 主がな

ば、 建築家が捨てた石が、実は親石となった。その様は、人の目には愚かとしか見えないが。 喩を通しては、 えて、あえて息子を送ったのがイエスの十字架の歴史である。 心となりたい存在である。 立 しもべを袋叩きにするような農夫に、息子を使いとして送らないだろう。 さったことで、/わたしたちの目には不思議に見える。』」 スは旧約の歴史と自分の生涯の喩として、ぶどう園の主人と農夫との争いを用いた。 、その罪の世界が、神の恵みの働く場となった。 農夫はその姿を示している。神の息子を自分の神に仕立てるという人の罪。この 人は自分に都合の良い偶像を刻んで自分が中 神は人が捨てたものに最高の栄誉を与える。 しかし、 人の理解や論理を超 賢明な主人なら

に行って、自分の分を買って来なさい。』愚かなおとめたちが買いに行っている間に、花婿が到着して、 ともし火と一緒に、壺に油を入れて持っていた。ところが、花婿の来るのが遅れたので、皆眠気がさして眠 愚かなおとめたちは、ともし火は持っていたが、油の用意をしていなかった。賢いおとめたちは、 たちのともし火は消えそうです。』賢いおとめたちは答えた。『分けてあげるほどはありません。それより、店 れぞれのともし火を整えた。愚かなおとめたちは、賢いおとめたちに言った。『油を分けてください。 込んでしまった。真夜中に『花婿だ。迎えに出なさい』と叫ぶ声がした。そこで、おとめたちは皆起きて、そ それぞれの わたし 用意

子たちは、イエスの十字架を予想できず、油の準備もできなかった。だからこそ準備せよと我々に忠告する。 金や品物とは交換できない。この天国への旅券を持っていなかった人を、 に預かるランプの油を用意しようとしても、 出 油は創造された人の固有さ、自分のもっているもので生き抜いたもの、一生をかけて築いたものである。 のできている五人は、花婿と一緒に婚宴の席に入り、戸が閉められた。 には予定日があるが、 陥落する直前に、その無駄となる土地を買い、今見えないものを見ようとした。 死に予定日はない。突然にやってくる終末または死。 間に合わない。分けてくれる人はいないし、 イエスは その直前に、 「知らない」と言う。 店では売っていな 婚礼

てはいても、 欲を避けなさい。また、異教徒の間で立派に生活しなさい。そうすれば、彼らはあなたがたを悪人呼ばわりし 愛する人たち、あなたがたに勧めます。いわば旅人であり、仮住まいの身なのですから、魂に戦いを挑む肉の あなたがたの立派な行いをよく見て、訪れの日に神をあがめるようになります。

派に生活せよ」と人々に勧めた。「立派」とは、世の成功を目指すかつての弟子の様ではなく、香油を注いだ 女のごとく、自然に外ににじみ出る真理である。神の判断が下される「訪れの日」に世に受け入れられなか イエスに香油を注いだだけで「良いこと」と認められた。イエスの復活後、ペトロはその恥を悔いて 弟子たちは自分の野望をイエスに託した。 仲間の偉さ比べをしてイエスにとがめられた。一方、貧しい女

った真理が認められる。神が香油さえ持ち合わせない私たちを訪れてくださり、訪れの日としてくださる。

いる物をすべて、生活費を全部入れたからである。」 人の中で、だれよりもたくさん入れた。皆は有り余る中から入れたが、この人は、乏しい中から自分の持って れていた。ところが、一人の貧しいやもめが来て、レプトン銅貨二枚、すなわち一クァドランスを入れた。イ エスは、弟子たちを呼び寄せて言われた。「はっきり言っておく。この貧しいやもめは、賽銭箱に入れている イエスは賽銭箱の向かいに座って、群衆がそれに金を入れる様子を見ておられた。 大勢の金持ちがたくさん入

ゆだねる先である神の御心を得た。 いに信仰の本質を見て、弟子たちを呼び集めた。 もめは人の前でも恥ずることなく少額を投じた。 ない。 工 ルサレム神殿の賽銭箱は、投げ入れた貨幣の音から金銭のほどが知れた。大勢の金持ちに交じって、 富める青年は、 持てる物にさらに加えたかった。 我々は金、 自信、 やもめは、、持てる最大限を投じて金銭を失ったが、最後に 捧げものは他と比べるものではない。イエスはやもめの行 若さ、 最後のものを手放したとき、 力を握りしめるために、見るべきものが見えて 無力にならずに、 神

の支えが見えてくる。

### くすぶる灯心を マタイ 12: 15 - 21

邦人に正義を知らせる。彼は争わず、叫ばず、その声を聞く者は大通りにはいない。正義を勝利に導くまで、 であった。「見よ、わたしの選んだ僕。わたしの心に適った愛する者。この僕にわたしの霊を授ける。 ことを言いふらさないようにと戒められた。それは、預言者イザヤを通して言われていたことが実現するため イエスはそれを知って、そこを立ち去られた。大勢の群衆が従った。イエスは皆の病気をいやして、

は、 備された。十字架による救いの道を確信することにより、消えそうな灯心である人を、神は愛と責任を持っ 同じように、 十~五十五章) は主張する。 る。相手によらず温かく支えるには、自己のすべてを捧げる苦難のしもべの形をとるはずだと、第二イザヤ(四 園追放、 悪いことだと気づかないうちに犯す罪が原罪であり、人への支配心や妬みから生じる。 困窮の中にいる隣人を温かく支えよう。しかし、その行いは相手によって変化する自分勝手なものであ 彼は傷ついた葦を折らず、くすぶる灯心を消さない。 カインの殺人として創世記に記されている。 神は、原罪を持つ人間を、恵みを持って迎えられる。ヒューマニズムの気持ちを持っている人 神は原罪に対する救いの恵みとして、苦難のしもべであるイエスキリストを準 神は楽園よりの追放時に、人に皮の衣を着せられた。 アダムとエバの楽

て恵み祝し、灯心に火をともしてくださる。

## 主の備えられる道 ― Iコリント 10: 13

道をも備えていてくださいます なたがたを耐えられないような試練に遭わせることはなさらず、試練と共に、それに耐えられるよう、 あなたがたを襲った試練で、人間として耐えられないようなものはなかったはずです。神は真実な方です。あ

すことさえある。族長時代のヤコブは、自分で壊した人生を逃れるための孤独な旅の中で、天へ通じる道を 我 々は備えられた宝を生かせず、自分の都合のいい道が開けない不満をもらす。与えられた宝を自分で壊

イエスの生き方は徹底的に壊されたが、 見出した。救いは、人が行う燔祭の祭壇にはなかった。神は天への道を示すのに、場所や時を限定されない。 神はそれを良しとし、復活に至らせた。 自分で壊した悲しみを前に

祈るとき、 神は壊れたものを拾われる。 神は試練から逃れる道を、必ず備えてくださる。

ろ、『夕食の用意をしてくれ。腰に帯を締め、わたしが食事を済ますまで給仕してくれ。お前はその後で食事 ろせ』と言っても、言うことを聞くであろう。あなたがたのうちだれかに、畑を耕すか羊を飼うかする僕がい をしなさい』と言うのではなかろうか。命じられたことを果たしたからといって、主人は僕に感謝するだろう る場合、その僕が畑から帰って来たとき、『すぐ来て食事の席に着きなさい』と言う者がいるだろうか。むし 主は言われた。「もしあなたがたにからし種一粒ほどの信仰があれば、この桑の木に、『抜け出して海に根を下 あなたがたも同じことだ。自分に命じられたことをみな果たしたら、『わたしどもは取るに足りない僕で

奉仕の精神を失う。 ください」と新しさを求める問いかけをしたが、 の給仕に例えられる。 イエスは仕えるために世に来た。 す。しなければならないことをしただけです』と言いなさい。」 人は驚きや新しさを求めるが、奉仕とは、 キリスト教が無気力の時代にあっては、 奉仕とは無報酬であって、 イエスは、 日常のあるがままを土台にして神に仕えよと言 内的必然性から生まれるもの。 日常の中にあるもの。弟子が 理論化や貴族化に片寄り、 日常性には欠け、 「信仰を増して 聖書では日常

2010/8/8

われた。なすべきことをしただけの日常の奉仕こそ、愛にこたえる永遠性に通じる。

幼子のように思い、幼子のように考えていた。成人した今、幼子のことを棄てた。 だから。完全なものが来たときには、部分的なものは廃れよう。幼子だったとき、わたしは幼子のように話 部しか知らなくとも、そのときには、はっきり知られているようにはっきり知ることになる。それゆえ、 おぼろに映ったものを見ている。だがそのときには、顔と顔とを合わせて見ることになる。わたしは、 愛は決して滅びない。預言は廃れ、 希望と、愛、この三つは、いつまでも残る。その中で最も大いなるものは、愛である。 異言はやみ、知識は廃れよう、 わたしたちの知識は一部分、 わたしたちは、今は、 預言も一 、今は一

初めて、 には理解しにくい。 えられる。 んだ分だけ他人が救われところに、 覆い 主語が私でなくイエスキリストになった時、 が取り除かれ、 弟子たちも十字架に向かって歩むイエスを前にして、 愛の道があらわにされ、 愛がある。 その愛は、 いつまでも残るもの― 私は変えられ、 自分の死を人にささげたイエスキリストに置き換 他人をも変え得る。 理解できなかった。 信仰、 希望、 愛 その 復活を通 を完全に知る 真理 は 我 7 Z

分派で混乱するコリント教会に、

パウロは愛の賛歌を送った。

賛歌では

愛」

が主語である。

自分が苦し

ようになった。

せるように、祈ってください。 また、わたしが適切な言葉を用いて話し、福音の神秘を大胆に示すことができるように、わたしのためにも祈 ってください。わたしはこの福音の使者として鎖につながれていますが、それでも、語るべきことは大胆に話

祈りを神のもとに届けてくださる。祈りは人と人との和解をもたらす。 るように、 られる者であり、 るとき、聖霊がとりなしをしてくださる(ローマ八章)ことを忘れて。 も祈った。しかし、 イエスは大きなことをする前に、祈られた。 エフェソ教会に頼んだ。祈りは、人と同じ目の高さになって、イエスキリストと共に座る最も積 イエスの祈りの中に入ることが許されている。もし自分勝手な祈りとなっても、 我々は自分の欲望を満たすために祈ることが多い。 イエスの生きる根拠は神の意志にあった。 だから、 我々は自分から祈る者ではなく、 祈りの言葉も出ないほど困 パウロは祈って支えてくれ だから敵のために イエスが 窮してい

極的な行いである。

# 人にしてもらいたいこと マタイ 7: 7 - 12

がたの天の父は、求める者に良い物をくださるにちがいない。だから、人にしてもらいたいと思うことは何で が、パンを欲しがる自分の子供に、石を与えるだろうか。魚を欲しがるのに、蛇を与えるだろうか。このよう 「求めなさい。そうすれば、与えられる。探しなさい。そうすれば、見つかる。門をたたきなさい。そうすれ あなたがたは悪い者でありながらも、自分の子供には良い物を与えることを知っている。まして、 開かれる。 あなたがたも人にしなさい。これこそ律法と預言者である。」 だれでも、求める者は受け、探す者は見つけ、門をたたく者には開かれる。あなたがたのだれ

神の御心に従って我々に与えられた。 ことを人にするな」のような禁止ではなく、人に与えよという肯定である。肯定であるようにと、 神は私たちの求めをはるかに超えてかなえてくださるからである(エペソ三章)。黄金律は「自分の望まな よ」(黄金律)と語る。 自分の要求に誰も応じてくれない、 人にしてもらいたいことが、祈りを通して、人に対して為すように、と変えられる。 と我々は不満を持つ。しかしイエスは「人にしてもらいたい行為をせ 人が新しい中心を持って生きるように、と。 黄金律が

2010/9/5

いる。だから、恐れるな。あなたがたは、たくさんの雀よりもはるかにまさっている。 なたがたの父のお許しがなければ、地に落ちることはない。あなたがたの髪の毛までも一本残らず数えられて のはないからである。 人々を恐れてはならない。覆われているもので現されないものはなく、隠されているもので知られずに済むも (中略) 二羽の雀が一アサリオンで売られているではないか。だが、その一羽さえ、あ

私のすべてを知っておられる。 を畏れないことに通じる。 な愛で包まないはずはない。 神を畏れるとは、神以外の者を畏れないこと。 イエスキリストは、 神は雀の命のような小さなものまで配慮される方なのだから、 自分の過去を恥じて恐れる私を理解し、 神は、 髪の毛まで数えるほどに しもべとなって、 あなたを大き

人を恐れずに神の真実を明るみにせよ、とイエスキリストは言われる。人を恐れて不安でいることは、

私の恥をすべて担ってくださった。

キリストが私の中に働き、生きる者へと変えられる。

2010/9/12

神

に対してだけは誇れるとしても、 その人は自分自身を欺いています。 することになるのです。実際には何者でもないのに、自分をひとかどの者だと思う人がいるなら、 の重荷を担うべきです。 自分に気をつけなさい。 互いに重荷を担いなさい。そのようにしてこそ、キリストの律法を全う たは、そういう人を柔和な心で正しい道に立ち帰らせなさい。あなた自身も誘惑されないように、 兄弟たち、万一だれかが不注意にも何かの罪に陥ったなら、" 霊" に導かれて生きているあなたが 他人に対しては誇ることができないでしょう。めいめいが、 各自で、自分の行いを吟味してみなさい。そうすれば、 自分 自分

生活とは き有頂天になるが、すぐにその裏を知り疲れる。良いことをしようと思っても、 ウロはガラテヤ教会に、 しかし、 〈疲れを知らず、 他者のために愛のために働いているときには、疲れを知らない。パウロはキリスト者の正 人を喜びの生活 霊に導かれて柔和な心で生きるよう、勧めた。我々は自分を高く評価されたと へ引きずり込むもの〉と言う。 これが霊の導き。 一部批判されただけで疲れ 霊的な生活をた

ゆまず歩むなかに、

十字架の恵みを見出す。

会堂や役人、権力者のところに連れて行かれたときは、何をどう言い訳しようか、何を言おうかなどと心配し てはならない。言うべきことは、聖霊がそのときに教えてくださる。」 の前で知らないと言われる。人の子の悪口を言う者は皆赦される。しかし、聖霊を冒涜する者は赦されない。 で、その人を自分の仲間であると言い表す。しかし、人々の前でわたしを知らないと言う者は、 「言っておくが、だれでも人々の前で自分をわたしの仲間であると言い表す者は、人の子も神の天使たちの前 神の天使たち

今、働いている神の力と言葉を無視することである。大きな不幸に出会って恵みが遠いことを知り、 おられ、 者たちは、神の力を目の前にしながら、イエスのわざを悪魔によると批判した。語る言葉は心の内部をよく 定したいとき、その人に同情するのは罪に近い。否定したいその時こそ、神と出あうときである。 エデンの園の禁断の木の実を食べたように、善悪を知って人を裁いたとき、人は罪に陥る。ユダヤの指導 聖霊の助けにより「主よ、わが唇を開きたまえ。さらばわが口汝の誉を表わさん。 心の中では神の言葉を拒み続けていた。真理を伝える聖霊の働きも拒んだ。 聖霊を汚すとは (詩編五十一篇十

七節)」と祈り求める生活が始まる。

### 潤う園のように エレミヤ 31: 10 - 14 黙示録 22:1 - 5

羊、牛を受け、その魂は潤う園のようになり、再び衰えることはない。 は喜び歌いながらシオンの丘に来て、主の恵みに向かって流れをなして来る。彼らは穀物、酒、オリーブ油 いが群れを守るように彼を守られる。」主はヤコブを解き放ち、彼にまさって強い者の手から贖われる。 諸国の民よ、 主の言葉を聞け。遠くの島々に告げ知らせて言え。「イスラエルを散らした方は彼を集め、

は預言者として存在した。絶望的な状況の中でエレミヤは「あなたがたの新田を耕せ、いばらの中に種をま ユダヤの民がバビロンの地に捕虜として連れてゆかれ囚われていた長い苦しみの時代にあって、エレミヤ

私たちの人生は神から委託された園のようなもの。心の「園」に不要な枝がはびこっていないだろうか。

くな。」(エレミヤ書四章三節)と訴え続けた。そして「潤う園のように」と預言の言葉をつないだ。

聖霊が育たないような状況になっていないだろうか。キリストご自身が、私たちの心の園の主として来られ 宿られ、 「悲しみを喜びに変え」られる。(エレミヤ三十一章十三節) 「新田を耕す」とは、 常に自分自身と

対話をし、 私たちの隣人と対話をし、 神のみことばに耳を傾ける生活である。

く、水に渇くことでもなく、主の言葉を聞くことのできぬ飢えと渇きだ。人々は海から海へと巡り、北から東 見よ、その日が来ればと、主なる神は言われる。わたしは大地に飢えを送る。それはパンに飢えることでもな い若者も、渇きのために気を失う。サマリアの罪にかけて誓う者ども、「ダンよ、 へとよろめき歩いて、主の言葉を探し求めるが、見いだすことはできない。その日には、美しいおとめも力強 お前の神は生きている。べ

内部 争で領土を拡大して富を得ても、主の言葉の飢えは満たせない。「主の言葉を聞くことのできぬ飢え」は人の 王を非難し、 言葉に聞き従わざるを得ないほど自分が無力になったとき、主が共におられることを知り、 の首都ダマスコを攻め落とし、ソロモン時代に匹敵する領土を得た。 北 からやってくる。 イスラエル王国の王ヤロブアム二世は、王国の全盛期を築いた。「民は増す」の意味をもつ王は、 ル・シェバよ、 神の審判を預言した。 お前の愛する者は生きている」と言う者どもは、倒れて再び立ち上がることはない。 終わりの日は来ないだろうと富に浸っているとき、内部から滅んでいく。 食糧に飢える苦しみ以上に、 神の言葉に飢える苦しみがあるという。 預言者アモスはバアル神礼拝を続ける 飢えの苦しみが しかし、 アラム

喜びの命に変わる

# 主に結ばれている者として エフェソ 6: 1-3, 出エジプト 20: 1-7

れは約束を伴う最初の掟です。「そうすれば、あなたは幸福になり、地上で長く生きることができる」という 子供たち、主に結ばれている者として両親に従いなさい。それは正しいことです。「父と母を敬いなさい。」こ

あなたの父母を敬え。そうすればあなたは、あなたの神、主が与えられる土地に長く生きることができる。

育て給うその代行者として、 者であるという理由で。我々は恵みを持って創造された。 実は偶像礼拝の禁止のように、神と人の関係を述べている。 モーセの十戒のうち第五戒「父と母を敬え」は、「盗むな」のように人と人の関係を述べているようだが、 親は教育の義務を負わされている。 だから親を敬い、創造のわざを子に伝える。 両親は神の創造のわざを地上において代行した イエスキリストが人を諭して福音を実らせ 神が

186

イエスの十字架の血によって、そのままの私が受け入れられ、 福音による新しい命が与えられる。

たごとくに

す。ほかに、『エレミヤだ』とか『預言者の一人だ』と言う人もいます。」イエスが言われた。「それでは、あ るか」とお尋ねになった。弟子たちは言った。「『洗礼者ョハネだ』と言う人も、『エリヤだ』と言う人もいま イエスは、フィリポ・カイサリア地方に行ったとき、弟子たちに「人々は、人の子のことを何者だと言ってい

神が ザリアで、イエスがキリストであることを告白した。告白により、天国の鍵を授けられた。しかし、イエ に叱られる時もあり、また、最後にはイエスを裏切った。主はペトロのような弱さを持っている人を受け入 られた。私たちは再生時に「キリスト者」と呼ばれ、「私はあなたの名を呼ぶ」(詩編四十三)とあるように、 れたもう。 けられた時、 トロは神殿のあるエルサレムではなく、日々の生活の場である辺境の地、 呼びかけてくださる。 なたがたはわたしを何者だと言うのか。」シモン・ペトロが、「あなたはメシア、生ける神の子です」と答えた。 誕生時に名を付けられると同様に、 私たちは「父よ」と応答すればよい。 呼びかけられた時、キリスト者の普通名詞は固有名詞となる。「汝、 告白による再生時に、シモンはペトロという新しい名を与え それが神と人との人格関係である。 異教の地であるフィリポカイ 2010/10/31 来よ」と呼び

カン

彼らは来て、二そうの舟を魚でいっぱいにしたので、舟は沈みそうになった。これを見たシモン・ペトロは、 が破れそうになった。そこで、もう一そうの舟にいる仲間に合図して、来て手を貸してくれるように頼んだ。 網を降ろしてみましょう」と答えた。そして、漁師たちがそのとおりにすると、おびただしい魚がかかり、網 シモンは、「先生、わたしたちは、夜通し苦労しましたが、何もとれませんでした。しかし、お言葉ですから、 イエスの足もとにひれ伏して、「主よ、わたしから離れてください。わたしは罪深い者なのです」と言った。

ず、シモンは、群衆に取り囲まれるイエスを淡々と眺めているようにも見える。イエスは「沖に漕ぎ出 に壊される出来事が起こる。 し苦労しましたが、何もとれませんでした」と応じる。しかしその後、シモンの中の この場面に先立ち、イエスはシモン・ペテロの家を訪れ姑の病気を治しておられる(四章)。にもかかわら 漁をしなさい」と、シモンに声をかけられる。 おびただしい魚が獲れたのだ。「主よ、わたしから離れてください」と、思わず 漁師としての強いプライドをもつシモンは 〈わだかまり〉 が 「夜通 挙

言う。

徹底的に打ち砕かれ、

主と共なる道へと、シモンは従わせしめられた。

#### 十字架の言葉 I コリント 1 : 18 - 25

恵のある人はどこにいる。学者はどこにいる。この世の論客はどこにいる。神は世の知恵を愚かなものにされ こう書いてあるからです。「わたしは知恵ある者の知恵を滅ぼし、賢い者の賢さを意味のないものにする。」知 十字架の言葉は、滅んでいく者にとっては愚かなものですが、わたしたち救われる者には神の力です。それは、

る。 共にあったからである。慰められるものが傷を負い、救う人は無傷である世の動きとは、大きく異なってい その象徴である十字架は飾ったり見たりする徴でなく、 の言葉が人を生かし、神の力の現れとなった。それは、イエスキリストが自ら傷を負い、慰められるものと 満ちた弟子たちにとってはつまずきだったが、その後、 十字架は、 人の傷はキリストの傷によって癒され、そのとき、自分の都合の良いように祈り求めるのではなく、主 たではないか。 反逆罪を公衆に知らせるためにローマ帝国が使った処刑方である。 言葉そのものであるとパウロは言う。(十八節) そ 苦難と死を直視することによって教会が始まった。 イエスの十字架は、 野心に

がよしとしてくださるようにと祈る生活が始まる。

#### 道を通って マタイ 2 : 1 ī 12 待降節第一聖日

帰るな」と夢でお告げがあったので、別の道を通って自分たちの国へ帰って行った。 学者たちはその星を見て喜びにあふれた。家に入ってみると、幼子は母マリアと共におられた。彼らはひれ伏 彼らが王の言葉を聞いて出かけると、東方で見た星が先立って進み、ついに幼子のいる場所の上に止まった。 して幼子を拝み、宝の箱を開けて、黄金、 乳香、没薬を贈り物として献げた。ところが、「ヘロデのところへ

た。にもかかわらず、 占いは神以外に道を求める手段であるが故に、パウロをはじめ初代教会の人は星占いや迷信を遠ざけてい マタイの降誕劇は東方の占星術学者から始まっている。神の救いが訪れるはずのない

が、 異邦 行こうとはしなかった。行った占星術学者は星を見て喜びあふれ、主の前にすべてを捧げた。 人の星占い師に、 救いは最も早く知らされた。祭司長や律法学者は救い主の生まれる場所を知っていた 救いを願

1 つつ旅を続けた異邦人に、 神は応えて安全に帰国できる別の道を準備された。

定年後に再び開拓伝道を目指して丸岡教会に赴任された。教会員は中島牧師の人となりをよく知らないが、 に赴任し、日本基督教団の岡山県高梁教会、ついで一九八二年から二〇〇一年まで敦賀教会の牧師を歴任し、 中島信義牧師は会津で育ち、同志社大学神学部で神学を学んだ。卒業後、大阪の住吉川伝道所で開拓伝道

礼拝説教と方向性は知っている。だから共に歩めた。園長を兼務された緑幼稚園の、その幼な子らと共に

側の姿勢に依存することは、お許しを頂こう。 短めの要約」を連載した。 長めの要約を、ここに書籍にまとめた。「要約」は説教の物理的縮小版であってほしいが、受けとめる 中島牧師の退職を記念して、ネットを使わない方々にもお読みいただきたいと

礼拝説教の要約を書く機会に恵まれ、二〇〇六年十二月から丸岡教会のホームページに「長めの要約」と

(二〇一〇年 十二月 丸岡教会員)